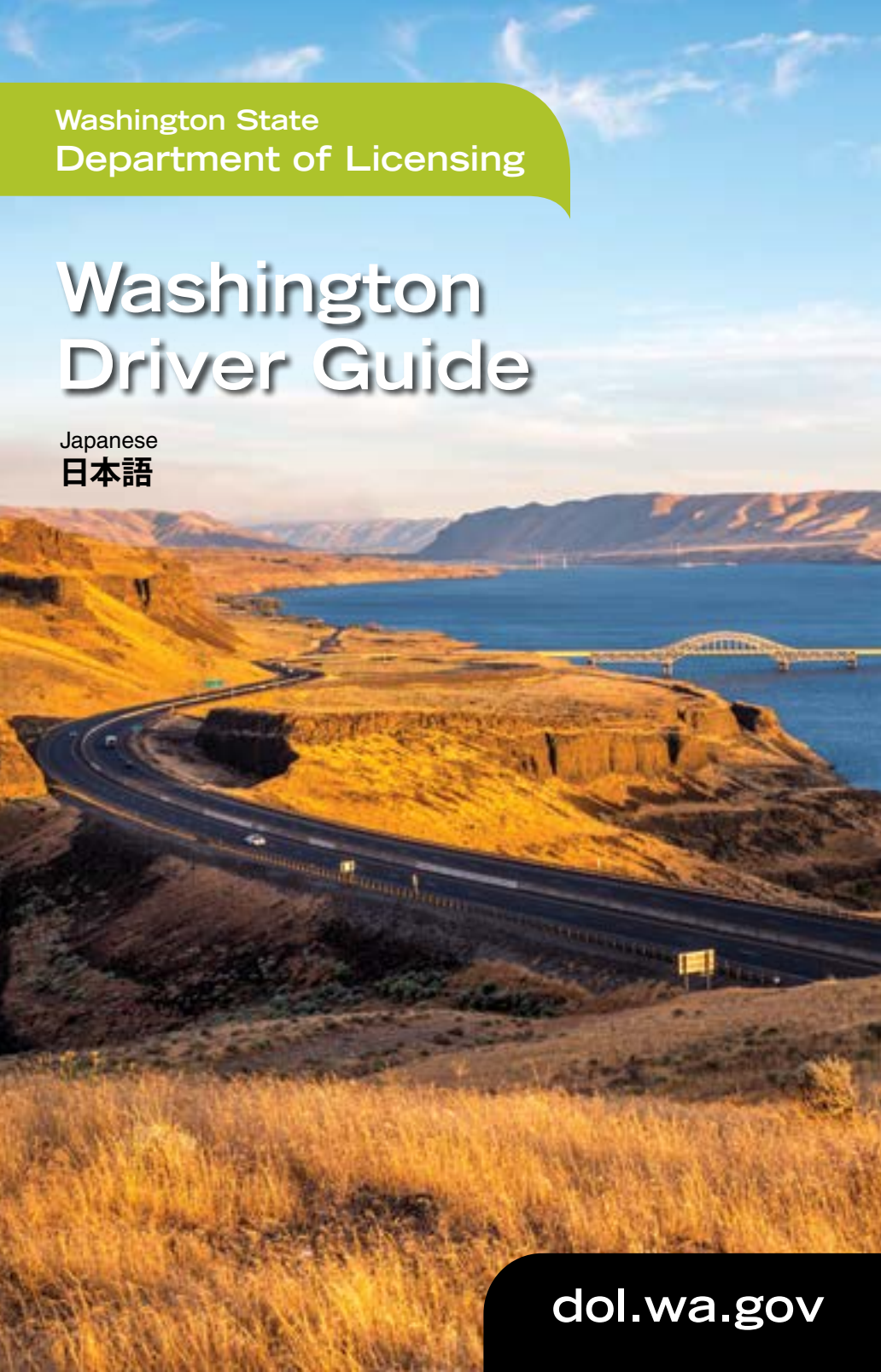
Washington State
Department of Licensing

# Washington Driver Guide

Japanese
日本語



dol.wa.gov

## 警戒標識

曲がりくねった道路

分離ハイウェイ
（道路）始まり

分離ハイウェイ
（道路）終わり

十字路

合流交通あり

車線終了
左車線に合流

濡れると
すべりやすい

前方に信号
機あり

下り急勾配あり

二方向
交通

学校、幼稚園、
保育所あり *

歩行者
あり *

踏切あり

事前警告：
自転車に注意

路肩弱し

車線数増加
（右側より合流不要）

シカが飛び
出す恐れあり

左方屈曲あり
時速35マイル以下
推奨

追越し禁止
区域

低速車両

* 標識は蛍光緑色または蛍光黄色の場合あり
*図柄はワシントン州運輸局より提供。*

STATE OF WASHINGTON

DEPARTMENT OF LICENSING

*Olympia, Washington 98504-8001*

知事からのメッセージ

ワシントン州で運転免許証取得者となるみなさんのために、責任をもって常に正しく判断しながら運転することの重要性についてお話ししたいと思います。ワシントン州では550万人以上の人が運転免許証を取得しており、その全員がコミュニティを安全に保つためにワシントン州ドライバーガイドに記載される交通法を勉強して、それに従う必要があります。

ワシントン州にはすばらしい交通システムと、多くの観光地があります。本ガイドをよく読み、一生涯の安全運転を心がけてください。運転免許証を取得して、いざ車道に出る際は、歩行者や自転車と道を譲りあうことをくれぐれも忘れないでください。

敬具

Jay Inslee
知事

STATE OF WASHINGTON
DEPARTMENT OF LICENSING
*Olympia, Washington 98504-8001*

ディレクターからのご挨拶：

あなたをワシントン州のドライバーとして迎えられ、大変嬉しく思います。このガイドでは、ワシントン州内の高速道路の規則と規制の概説をご説明いたします。車、トラック、オートバイまたはRVを運転している場合や、あるいは自転車に乗ったり歩行者としてコミュニティを楽しんでいる場合であっても、道路を使用するすべての人が運転を安全かつ楽しいものとする責任があります。

あなたが運転と判断において注意すべきことは、すべての人が安全に道路を利用できるようにする上で非常に重要です。優れたドライバーは、運転が単なる車両の操作以上のものであること、さらには次のことを理解しています。

- 歩行者や他のドライバーを尊重しましょう。
- 道路での行動を認識することで、他者への影響を考えます。
- 自分や他者を守り、誰もが安全に家路に着けるように、正しい選択をしましょう。

自動車事故は全15歳から20歳の若者の死亡原因の第1位です。Target Zeroのパートナーシップを通じて、2030年までに死亡者数と重傷者数をゼロに減らすよう努めています。あなた自身が常にシートベルトを着用し、飲酒運転をせず、運転中にモバイル機器を使用するような注意散漫な運転を防ぐことで、この目標達成に貢献することができます。DOLは安全で責任あるドライバーになるためのサポートを行い、安全、生存、無傷を目指します。すべての人が一丸となり、国道や高速道路で旅するすべての人の安全を守りましょう!

どうぞよろしくお願いいたします。

長年にわたる安全運転をお願い申し上げます。

Teresa Berntsen

Teresa Berntsen
ディレクター

License eXpress

いつでも、どこでも、1か所で運転免許証や身分証明書、車両、自動二輪車、ボート、トレーラー、そして住所を管理することができます。

**事務局に行かずに、オンラインで手続き：**今までとは違う経験をしてください。行く必要のない事務局には誰も行きたくないものです。いつでもどこでも使えるオンラインで手続が可能になりました。

**メリット:**個別のオンラインサービスではできなかった、住所を含むすべての運転に関する情報を1か所で確認できます。また、免許証や車両タブの更新時期を各自の「To Do」リストで確認することもできます。

**安全かつセキュリティ対策万全：**われわれは個人情報の保護はとても重要だと理解しています。License eXpressは他のオンラインサービス同様に、安全でセキュリティ対策も万全です。

**ワシントン州運転免許証を初めて取得する必要がありますか？**年齢が達した、または新しい州に移住したため、ワシントン州で初めて運転免許証を取得しますか？その場合、オンライン事前申請サービスを利用することができますので、事務局に行く時間を節約することができます。まずはオンラインで基本情報を入力してから、事務局に出向き、手続を完了させることができます。

事前申請を行うには、**www.dol.wa.gov**をご覧ください。

## オンラインで利用できるサービス

オンライン（**www.dol.wa.gov**）でさまざまなサービスが利用できます。オンラインサービスではVisa、MasterCardまたはAmerican Expressのデビットもしくはクレジットカード（ギフトカードは除く）が使用できます。オンラインサービスで印刷を求められる場合がありますので、書類を印刷できるようプリンターを準備してください。

## 運転免許証交付

- 運転免許証または身分証明書の更新
- 運転免許証／身分証明書の住所変更
- ワシントン州で初めての運転免許証または身分証明書の事前申請

- 紛失または盗難された運転免許証または身分証明書の再交付
- 運転記録の購入
- 免許証の復権方法を学ぶ
- 運転免許証のステータスを確認
- DUI聴聞会の要請を提出
- 運転免許証元本の要請

## 車両登録

- 車両タブの更新
- 車両販売の報告
- Eメールの更新通知（車両およびボート）の取得／更新
- 車両登録住所の変更
- 住所の変更：保有車両（5台以上の車両）
- ボート登録の更新
- 車両タブ手数料の計算
- Regional Transit Authority（RTA、地方公共交通機関管理所）の消費税の見積もり

# 目次

## 運転免許証


ワシントン州の居住者 . . . . . 1-1
新規居住者 . . . . . 1-1
非居住者と滞在者 . . . . . 1-1
Real ID . . . . . 1-2
運転免許証の種類 . . . . . 1-3
運転免許証の取得 . . . . . 1-4
身分証明および居住証明 . . . . . 1-7
視力検査および身体検査 . . . . . 1-7
筆記試験 . . . . . 1-8
路上試験 . . . . . 1-8
写真 . . . . . 1-9
運転免許証の更新 . . . . . 1-10
運転免許証の再交付 . . . . . 1-11
住所または氏名の変更 . . . . . 1-11
運転免許証を保持するには . . . . . 1-11
出頭拒否 . . . . . 1-13
性犯罪者／誘拐犯の登録 . . . . . 1-13
その他の認可サービス . . . . . 1-14


## 運転する前に


リスクの理解 . . . . . 2-1
保険加入の義務 . . . . . 2-2
車両の点検 . . . . . 2-2
積荷の固定 . . . . . 2-5
ガラス表面の掃除 . . . . . 2-7
座席とミラーの調節 . . . . . 2-7
シートベルトとチャイルドシートを必ず使用 . . . . . 2-8


## 路上での交通規則


交通制御装置 . . . . . 3-1
信号機 . . . . . 3-1
道路標識 . . . . . 3-2
道路標示 . . . . . 3-9
ラウンドアバウト . . . . . 3-12
リバーシブル車線 . . . . . 3-13
専用車線 . . . . . 3-14
両方向道路での左折車線 . . . . . 3-14
HOT車線とエクスプレス有料車線 . . . . . 3-15
一般的な規則 . . . . . 3-15

フェリー . . . . . 3-19
右左折 . . . . . 3-20
低速バッテリー式電動輸送機器 . . . . . 3-21
電気自動車充電スタンド . . . . . 3-22
通行権 . . . . . 3-23
駐車 . . . . . 3-27
坂道での駐車 . . . . . 3-28
縦列駐車 . . . . . 3-29

**安全運転のヒント**

発進 . . . . . 4-1
加速 . . . . . 4-1
ハンドル操作 . . . . . 4-1
スピード違反と制限速度 . . . . . 4-2
停止 . . . . . 4-3
良く見えていること . . . . . 4-4
注意散漫な運転 . . . . . 4-4
パーソナル電子機器 . . . . . 4-5
その他の注意散漫な運転に関する法律 . . . . . 4-6
衝突事故と沿道の活動 . . . . . 4-6
目視確認 . . . . . 4-7
ライトの使用 . . . . . 4-14
他のドライバーに自分の存在を知らせる . . . . . 4-14
行動を知らせる . . . . . 4-18
道路の状態に合わせる . . . . . 4-19
交通の流れに合わせる . . . . . 4-21
周囲がどれほどよく見えているか . . . . . 4-23
追い越し以外右車線走行 . . . . . 4-25
スペースを共用する . . . . . 4-25
前方のスペース . . . . . 4-26
後方のスペース . . . . . 4-27
左右のスペース . . . . . 4-28
合流するときのスペース . . . . . 4-30
交差または進入時のスペース . . . . . 4-30
追い越しに必要なスペース . . . . . 4-31
自転車とのスペース . . . . . 4-33
自転車に乗る人の責任 . . . . . 4-35
自動二輪車と道路を共有する . . . . . 4-38
自動二輪車の責任 . . . . . 4-38
大型車両 . . . . . 4-40
特殊な状況でのスペース . . . . . 4-42
車道外での衝突を回避 . . . . . 4-43

## 良好な健康状態で運転

視力 . . . . . 5-1
聴力 . . . . . 5-3
疲労 . . . . . 5-3
飲酒運転 . . . . . 5-4
飲酒運転が大変危険な理由 . . . . . 5-4
飲酒したら、運転できるのか . . . . . 5-5
マリファナ（大麻） . . . . . 5-6
その他の薬物 . . . . . 5-7
アルコール／薬物と法律 . . . . . 5-8
制限付き運転免許証 . . . . . 5-10
執行猶予下での免許証 . . . . . 5-11
執行猶予 . . . . . 5-12
青少年のアルコール／麻薬／銃器携帯違反 . . . . . 5-12
健康状態 . . . . . 5-12
感情 . . . . . 5-13
路上での怒り . . . . . 5-14

## 緊急事態

ブレーキの故障 . . . . . 6-1
タイヤのパンク . . . . . 6-1
電気系の故障 . . . . . 6-2
ヘッドライトの故障 . . . . . 6-2
アクセルペダルが踏んだまま上がらない . . . . . 6-2
衝突を避ける . . . . . 6-2
速やかに停止する . . . . . 6-2
速やかに方向転換する . . . . . 6-3
加速 . . . . . 6-4
横すべりの対処 . . . . . 6-4
衝突時の自己防衛 . . . . . 6-5
衝突 . . . . . 6-6
衝突事故現場で . . . . . 6-6
負傷者が出たら . . . . . 6-7
衝突事故の報告 . . . . . 6-7
緊急通報システム（ENS） . . . . . 6-8

## 車両認可

登録 . . . . . 7-1
持参するもの . . . . . 7-1
車両所有者証明書（権利証書） . . . . . 7-2
売却の報告 . . . . . 7-3
ナンバープレート . . . . . 7-3

## 免責条項

本ガイドは、法的要求や訴訟の根拠として使用することはできません。郡市町の交通規則が州法より優先することがありますが、州法と矛盾しないことが条件となります。自動車の運転および運転免許証に関する特定の法律に関心がある場合は、RCWのタイトル46、自動車を参照してください。注意してお読みください。

書面によるコメントや提案を歓迎いたします。下記の住所までお送りください。

**Driver Examining**
**Department of Licensing**
**PO Box 9030**
**Olympia, WA 98507**

本ガイドの最新版と、その他の最新情報はウェブサイト（**www.dol.wa.gov**）でいつでも確認できます。

WASHINGTON STATE DEPARTMENT OF LICENSING

*運転免許認可局の方針は、サービスへの公平なアクセスを提供することです。*
*詳細については、dol.wa.gov/access（TDD / TYYコール711）にアクセスしてください。*

# 運転免許証

ワシントン州の公道で自動車、自動二輪車、モペット、モーター駆動自転車を合法的に運転するには、有効な運転免許証が必要です。

## ワシントン州の居住者

ワシントン州の居住者が公道で車を合法的に運転するには、ワシントン州の運転免許証を取得する必要があります。下記に該当する場合、ワシントン州の居住者とみなされます。

- ワシントン州で有権者登録をしている人。
- 州または地方自治体から支払いや財政支援、その他の公共の生活保護を受けている人。
- 居住者料金で州のいずれかの免許を取得している人。
- 学生として州内出身者用学費で授業料を支払っている人。
- 州内に1年のうち6ヶ月以上居住する予定の人。

## 新規居住者

ワシントン州の居住者になった日から30日以内に州の運転免許証を取得する必要があります。

ワシントン州の運転免許証を申請する際、所持している州外の運転免許証が有効な場合は、筆記試験または路上試験が免除される場合があります。18歳未満の場合は、ワシントン州のインターミディエート運転免許証が交付される前に、ワシントン州の基準を満たす自動車運転教習を修了した証明書を提示する必要があります。自動車運転教習条件に関する詳細は**www.dol.wa.gov**をご覧ください。

## 非居住者と滞在者

ワシントン州の非居住者、あるいは短期間の滞在者である場合は、居住する州、行政区、自治領、または国によって交付された有効な運転免許証を所持し、16歳以上であればワシントン州内で運転することができます。これには以下の人が該当します。

- 現役軍人、または外国軍隊に属している一時的な米国軍隊勤務中の軍人、およびその配偶者と子供。
- ワシントン州で教育を受け、授業料に関して非ワシントン州居住者と見なされている学生。
- ワシントン州において事業認可を受けている会社の従業員で、短期間ワシントン州で職務訓練を受けている人、またはその職務訓練の講師。
- 外国人観光客、外国人教師、または外国の事業関係者でワシントン州の滞在期間が最長で1年以内の人。

## Real ID

標準運転免許証は、2020年10月1日までに国内線搭乗および軍事基地や原子力発電所などの連邦施設構内に入る際に提示する身分証明証として受理できなくなります。連邦が承認する身分証明書の全リストは、交通安全管理局（TSA, Transportation Safety Administration）のウェブサイト（**www.tsa.gov**）をご覧ください。

Real IDは2020年10月1日より有効ですが、航空機での移動や警備された連邦施設へのアクセスを希望する方にのみ影響します。標準運転免許証は、ワシントン州内外での運転または列車による移動など、米国内での移動に利用できます。

ワシントン州のエンハンスト運転免許証（EDL, enhanced driver's license）は、REAL IDに準拠しており、米国内の空の旅に有効です。

エンハンスト運転免許証またはIDカードを取得するために必要な文書オプションの全リストは、**www.dol.wa.gov/driverlicense/edlget.html**から入手できます。

ビデオの閲覧や必要なIDの決定に関する質問など、REAL IDの詳細は**www.ID2020wa.com**をご覧ください。

ワシントン州内でのREAL IDのご利用については**www.dol.wa.gov/about/real-id-overview.html**をご覧ください。

## 運転免許証の種類

*仮免許* - 最低5年間の免許証所持かつ運転経験がある有効な運転免許を持つドライバーの監視下であれば、この仮免許によりワシントン州内で自動車の運転が許可されます。運転免許を持つドライバーは、前部右側の助手席に同乗する必要があります。

ワシントン州の仮免許は、他州では有効でない場合があります。ワシントン州の仮免許が認められるかどうかは、目的地の州までお問い合わせください。

*インターミディエート運転免許証* - 16歳または17歳で所定の条件を満たす場合、ドライバーとしての責任が軽減される制限付きのインターミディエート運転免許証が交付されます。

*標準運転免許証* - この運転免許証を所持していれば、公道で自動車を運転できます。免許の有効期限は、前回の誕生日から最高6年間までとなります。16歳もしくは17歳の人には、まずインターミディエート運転免許証が交付されます。標準運転免許証はReal ID に準拠したものではありません。

*エンハンスト運転免許証* - ワシントン州エンハンスト運転免許証 (EDL) と身分証明証 (EID) はREAL ID に準拠しており、米国内の航空機での移動や陸上または海上のカナダやメキシコの国境から米国に出入国する際に有効です。詳細は、ウェブサイトをご覧になるか、事務所に用意されているエンハンスト運転免許証および身分証明書に関する小冊子をご覧ください。

*自動二輪車または自動三輪車の仮免許* - この種の仮免許により、自動二輪車または自動三輪車ベースの車両を公道で運転することができます。詳細は **www.dol.wa.gov/driverslicense/motoendorsement.html** をご覧ください。

*CLP（商用車両用仮免許, Commercial Learner Permit）およびCDL（商用車両用運転免許証, Commercial Driver License）* - この種の免許証により、商用車両を公道で運転することができます。詳細は**www.dol.wa.gov**または免許交付事務所で入手できるCommercial Driver Guide（商用ドライバーガイド）をご覧ください。

## 運転免許証の取得

仮免許または運転免許証は、免許交付事務所で取得できます。受験できない事務所があるため、行く予定の事務所で必要な試験が受けられることを事前に確認してください。待ち時間を少なくするため、運転免許認可局の認可を受けている自動車教習所、および公教育監督局の監視の下で交通安全教育プログラムを提供している学区は、法律により運転免許試験を実施する権限が与えられています。認可校および運転免許交付事務所の一覧はウェブサイトに記載されています。特定の試験条件に関しては、認可校までお問い合わせください。

**仮免許**を取得するには、以下の条件を満たしている必要があります。

- 最低でも15歳6ヶ月に達していること（認可自動車運転教習を受講する場合は15歳）。
- 筆記試験に合格していること（認可自動車運転教習を受講する場合は除く）。
- 視力検査および身体検査を完了すること。
- 申請料／試験料を支払うこと。

18歳未満の申請者の場合、申請時に免許交付事務所まで親または保護者を同伴する必要があります。親または保護者は、身分証明書および申請者との続柄を証明する書類を提示し、保護者許可宣誓供述書に署名する必要があります。**名字が異なる場合は、続柄を証明する追加書類が必要になります**。仮免許は1年間有効であり、1回のみ更新することができます。

認可自動車運転教習を受講中の場合、15歳で仮免許を取得することができます。教習所から免責書を取得すると、教習開始より最高10日前から仮免許に申請することができます。この免責書によって、筆記試験を受けずに仮免許を取得することができますが、将来の運転免許申請の一環として筆記試験と路上試験を受ける必要があります。

**インターミディエート運転免許証**を取得するには、以下の条件を満たしている必要があります。

- 16歳～18歳であること。
- 最低**30時間の学科教習、6時間の車上教習**を行う認可自動車運転教習に合格した証明書類を提示すること。
- 保護者または後見人の同意書を得ること。
- 視力検査および身体検査、筆記試験、および路上試験に合格すること。
- 最低6ヶ月間、仮免許を所持していること。
- 最低5年間の免許証所持かつ運転経験がある有効な運転免許を持つドライバーの監視下で、50時間以上（10時間の夜間運転を含む）の運転経験があることを示す保護者または後見人の証明書を提示すること。
- 免許証の申請時に保留の交通違反切符がないこと。
- 免許証の申請前6ヶ月間に、交通違反の有罪判決および摘発を受けていないこと。
- 仮免許を保持している期間にアルコールまたは薬物の使用に関する不法行為の有罪判決および摘発を受けていないこと。
- 社会保障番号を提出すること。この番号は運転免許証を申請した時点で確認されます（42 USC 405および666(a)(13), RCW 26.23.150）。社会保障番号が発行されていない場合は、社会保障番号申告書に署名します。

インターミディエート運転免許証には、以下のような運転制限が適用されます。

- 保護者または後見人、または25歳以上の運転免許証を所持する成人が同乗していない場合、午前1時から午前5時の時間帯の運転は不可。
- **最初の6か月間**は、近親者以外の20歳未満の人は同乗は不可。

- その後の残りの期間も、近親者以外の20歳未満の3人以上の同乗は不可。
- 違法行為の通報、医療などの緊急支援要請、または人身事故や対物事故の防止以外で、運転中に携帯電話やその他の無線通信機器の使用は不可。

1年目には厳しい刑罰が設けられています。

- 初回の違反 - 運転制限の違反切符、その他の道路交通法の違反切符を切られた場合、あるいは衝突事故に関わった場合で以下に該当する場合は、同乗者および夜間に関する運転制限が18歳まで延長され、本人とその親または保護者に警告書が送付されます。
  - 違反切符を切られた場合。
  - 衝突交通事故の加害者と判断された場合。
  - 衝突事故当事者の誰にも違反切符が切られなかった場合。
  - 衝突事故の加害者がいないとみなされた場合。
  - 衝突事故車両が自分の車両だけであった場合。
- 2回目の違反 - 6か月間の免許停止（18歳になるのがそれより先の場合は、18歳になるまで）。
- 3回目の違反 - 18歳になるまで免許停止。

運転免許証停止の措置が取られる場合は、その前に本人とその保護者または後見人に通知が送付されます。

18歳の誕生日に、インターミディエート運転免許は制限条件なしの標準運転免許証に変更されます。変更手続きを行うために、免許交付事務所に行く必要はありません。

**標準運転免許証**を取得するには、以下の条件を満たさなければなりません。

- 最低18歳であること。
- 条件を満たす身元と年齢の証明書を提示すること。

- Social Security（社会保障）番号を提出すること。この番号は運転免許証を申請した時点で確認されます（42 USC 405および666(a)(13), RCW 26.23.150）。社会保障番号が発行されていない場合は、社会保障番号申告書に署名します。
- 条件を満たすワシントン州居住証明書を提示すること。
- 申請料／試験料を支払うこと。
- 視力検査および身体検査、筆記試験、および路上試験に合格すること。
- その他の運転免許証をすべて提出すること。
- 所持している運転免許証が現在停止、無効、または取消されていないこと。
- 免許証交付料を支払うこと。

最初の運転免許証は、完全な身分証明書を提示せずに取得することができますが、正式な氏名と生年月日を証明する書類を提示する必要があります。完全な身分証明が行われるまで、運転免許証には「身分証明書としては無効」が記載されます。

## 身分証明および居住証明

免許証を取得するには、身分証明書とワシントン州居住証明書を提示する必要があります。識別要件は複雑になる可能性があります。**www.dol.wa.gov/driverslicense/gettingalicense.html**にアクセスして、ライセンス取得のために必要な書類を確認しておくことをお勧めします。

## 視力検査および身体検査

運転免許証交付の前に、視力検査が行われます。視力矯正レンズを装着しなければ視力が運転免許基準に満たない場合は、運転免許証に矯正レンズ装着の該当条件が記載されます。また、自動車を運転する能力に支障をきたすような精神的あるいは身体的な状態であるかどうか、または支障をきたすような薬を服用しているかどうか質問されます。該当する場合、運転免許証申請処理の前に、眼科または医療専門家による検査を義務付けられる場合があります。

## 筆記試験

路上運転の前に道路標識、交通法規、および安全運転の理解を確認するために筆記試験を行います。この試験に合格するために必要なすべての情報はこのガイドに記載されています。試験は州内の認可自動車教習所で受けることもできます。受験可能な免許交付事務所で受験する場合、特別な手配が必要な場合を除き、コンピュータを使った試験となります。多項選択式の質問が全40問あります。試験に合格するには32問以上に正解する必要があります。合格した試験の得点は2年間有効です。

## 路上試験

路上試験では、公道で法規に従い安全に運転する能力をテストします。試験官が同乗して、車両が安全に運転できるものであること、受験者が車両の制御維持が可能なこと、受験者が交通規則に従うことができることを確認します。試験官が受験者を混乱させたり、惑わせたり、違法行為を要求するようなことはありません。試験前の質問は構いませんが、試験開始後の不必要の会話は受験者、試験官両者の妨げとなります。試験全般にわたり、受験者の運転に点数がつけられます。

ワシントン州の運転免許証のために路上試験を受けるには、以下の条件を満たす必要があります。

- まず筆記試験に合格すること。
- 試験用の車両を用意すること。車両は、合法的に認可および登録され、また装備に欠陥があってはならない。試験開始前に、ブレーキ、ブレーキライト、方向指示器、タイヤ、座席ベルト、ワイパーの点検が行われる。
- 条件を満たす自賠責保険の保険証券（保険加入者の氏名または車両情報および保険補償期間が記載）の提示。

路上試験中は、受験者、試験官、介助動物、聴覚障害者または難聴者の手話通訳者のみが車に同乗可。外国語通訳者、保護者、子供、ペットは同乗不可。

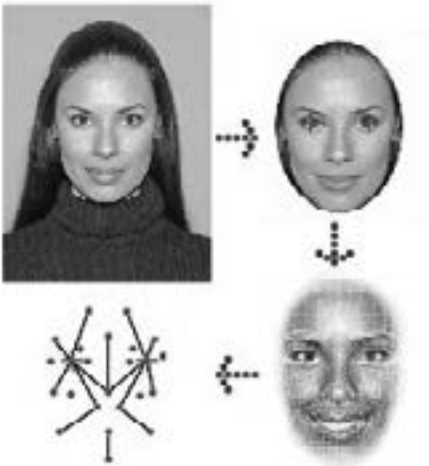
路上試験中では、以下を行います。

- 指示された場合、正しい手信号を行う。試験中は自動方向指示器の使用可。手信号は、運転する車両の方向指示器が他の ドライバーから見えない場合に使用する必要がある。方向指示器は、周辺に誰もいなくても必ず使用。
- 車両をバックさせる際は、後ろを向いて、後方に自転車、歩行者がいないことを目視で確認。リアウィンドウからの視界がさえぎられている場合は、サイドウィンドウまたはミラーを使用。安全にバックできることが確認できるまで、車をバックさせない。
- 一時停止の標識や信号機では必ず完全に停車する。横断歩道上や一時停止線を超えたところで停止してならない。
- すべての交通規則に従う。
- 周囲の自動車や自転車、歩行者に注意する。
- 試験全般にわたり、安全運転を行う。

自動車教習所で受験する場合は、教習所で必須試験の受験予約をする必要があります。運転免許許可局で受験する場合は、筆記試験に合格し、居住証明書を提出した後にのみ、路上試験を予約することができます。路上試験時間の15分前に到着するようにします。指示されている場合は、到着したことを職員に伝えてください。居住地域で路上試験を行っている場所のリストは、ウェブサイト（**www.dol.wa.gov**）でご覧ください。

## 写真

新しい運転免許証、仮免許、または身分証明書には、正面からの所持者の顔全体の写真が入ります。写真を撮影する前に、顔や頭を覆うもの（帽子、サングラス、顔にかかった髪の毛など）を外してください。外さなかった場合は、カードに「身分証明書としては無効」と記載されます。医療上および宗教上の理由がある場合は例外とします。



ワシントン州の書類統合と不正行為を防止するための取り組みの一環として、正確で目立たないFacial Recognition System（FRS、顔認識システム）が採用されています。FRSでは写真を撮影した後に、整形の難しい顔の特徴（眼窩、ほお骨、口の横など）から独自のデジタルテンプレートを作成します。あなた専用のテンプレートはその後、運転免許認可局（DOL）のデータベースのすべてのテンプレートと比較され、検出された潜在的な一致点は特別な訓練を受けたDOLの職員によって再確認されます。このシステムの使用と結果は、ただし、申請者がRCW 46.20.0921下において禁止行為を犯しているとDOLが判断した場合を除き、裁判所命令なくして、別の機関と共有されることはありません。

## 運転免許証の更新

更新した運転免許証の有効期限は最長6年間で、誕生日に満了となります。更新は、満了日の1年前から行うことができます。運転免許証満了日の6週間前に記録されている住所宛に更新通知が郵送されます。更新通知には、オンラインまたは郵送で更新できるか、もしくは運転免許交付事務所に実際に出頭して申請する必要があるかが記載されています。運転免許交付事務所で更新する場合は、現在使用中の運転免許証、またはその他の身分証明を持参してください。コンタクトレンズや眼鏡を使用している場合は、視力検査のために必ず持参してください。筆記試験や路上試験の受験が必要となる場合もあります。

自動二輪車運転免許証またはCDLの認可証を所持している場合は、更新手数料の他に追加料金を支払います。

免許失効後60日以上が経過してから更新すると、更新手数料の他に、遅延料が科されます。

## 運転免許証の再交付

免許証の紛失、盗難、破損、あるいはその記載内容が判読困難になった場合は、免許交付事務所にて再交付の申請、またはオンライン（**www.dol.wa.gov**）で複製の申請を行うことができます。その場合、身分を証明書類を提示し、手数料を支払う必要があります。

個人情報盗難や不正使用に関する情報はウェブサイトをご覧ください。

## 住所または氏名の変更

以下のことを行った場合は、その10日以内にDOLまで届ける必要があります。

- 住所の変更。
- 法律上の氏名の変更。

氏名の変更は、新しい氏名を証明できる書類と、本人の出頭が必要になります。住所の変更は、オンライン（**www.dol.wa.gov**）で行うことができます。

ワシントン州では、身分証明書を除くすべての書類で実際のワシントン州の現住所の記載が求められています。別の郵送先住所は要請に応じて実際の住所に併記することができます。郵送先住所が併記されている場合は、運転免許証、身分証明書、または仮免許は郵送先住所に送付されます。

## 運転免許証を保持するには

運転免許証を保持するには、常に安全運転を行わなければなりません。運転免許証を失う原因には以下のものが挙げられます。

- アルコールの影響下で車両を運転、あるいは物理的に車両をコントロールしていた。
- 警官に酒気または薬物検査を受けることを求められた際、それを拒否した。
- 自分が関わった衝突事故の現場を身分証明を行わずに離れた。

- 運転免許証の申請にあたって事実とは異なる情報を提示した。
- 自動車保険に入っていないときに、衝突事故に遭遇した。保険に入らないで衝突事故に遭遇したドライバーおよび／または車両所有者は、最高3年までの運転免許証停止処分を科される場合がある。また、衝突事故の結果起こされた民事裁判による損害賠償の支払いを怠ると、13年以上の免許証停止処分となることがある。
- 要請された再試験を要請された期間に受験しなかった。
- 自動車を用いて重罪を犯した、または車両の衝突事故で死亡者を出す原因となった。
- 運転記録に残る交通違反を多々犯した（交通違反常習者）。
- 無謀な運転または無謀に路上作業者を危険にさらした。
- 競争や車両を使った暴行または殺人を犯した。
- パトカーの追跡から逃れた。
- ガソリン代を払わずにガソリンスタンドを立ち去った。
- 交通召喚状または走行中の交通違反のNotice of Infraction（交通違反通知）に対する出頭または応答を怠った。
- 免許証が停止、無効、取消し、または拒否されている間に車を運転した。
- 偽名、誤った情報、または不正な変更のある免許証を所持していた。
- 他人に免許証を貸した、または他人の免許証を使っていた。
- ワシントン州の運転免許証の停止中に他州交付の運転免許証を使っていた。
- インターミディエート免許で運転中に2回以上の交通違反を犯した。
- 捏造、架空、虚偽、改造された、または情報が空白の運転免許証または身分証明書、または非合法に交付された免許証や身分証明書の製造、販売、あるいは受け渡しを行った。

## 出頭拒否

Failure to Appear（FTA、出頭拒否）通知とは、交通違反や刑事召喚に対して、出頭しない、指示に従わない、応答しない、または罰金の支払いを行わないことです。

違反切符を切られた場合、その切符の裏面に、指示に従う方法が記載されています。切符が切られた日から15日以内に指示に従わない場合、裁判所はDOLご通知し、DOLからあなたへ運転免許の停止処分通知が送付されます。その後45日以内に指示に従わない場合、運転免許証が停止されます。ただし、あなたには裁判所での審理を要請する権利もあります。45日以内に指示に従えば、運転免許証が停止されることはありません。

指示に従わなかった場合、運転免許証は停止され、運転することはできません。運転免許停止中に運転していることが見つかった場合は、逮捕され、車両を押収される可能性があります。

交通違反について出頭拒否をした場合、解決し、判決が出るまでどのような免許証も交付されなくなります。出頭拒否による運転免許証の停止の場合、免許証交付料の他に、再交付料を支払う必要があります。運転免許停止が解除された後は、免許証を再交付してもらう必要があります。最寄りの事務所に出向く前に、オンラインサービス（運転免許証の復権方法を学ぶ）を確認してください。

## 性犯罪者／誘拐犯の登録

ワシントン州法により、州および地元当局は、ワシントン州居住者で性犯罪または誘拐の摘発を受けた、またはその有罪判決を受けたことがある人物について、郡の保安官に通知することが義務付けられています。ワシントン州の性犯罪者および誘拐犯は居住または再居住開始日から3日以内に登録する必要があります。この要件下における登録義務は、他州、外国、連邦法や軍事法、ワシントン州法の法律で有罪判決を受けた者に適用されます。州外からの性犯罪者は、ワシントン州法または有罪判決となった州の法律で性犯罪または誘拐として分類される連邦もしくは他州での犯罪で有罪判決を受けている場合、有罪判決を受けた州の裁判所が犯罪者に登録の必要がないと判断する場合を除き、登録する必要があります。このような人は、居住する郡の保安官に登録する必要があります。登録を怠ると、結果として刑事訴追につながることがあります。詳しくは、郡保安官までお問い合わせください。

## その他の認可サービス

*身分証明書* – 自動車を運転しない人に対し、顔写真付きの身分証明書を交付しています。運転免許証申請と同様の身分証明書を提示する必要があります。

*有権者登録* – 以下の条件を満たしていれば、どの免許交付事務所でも投票のための登録を行うことができます。条件：

- 現在公民権が取消されていない米国市民であること。
- ワシントン州の居住者であること。
- 最低18歳であること。

引越しした場合、DOLに住所変更届を出す際に、有権者登録も変更できます。

*連邦選抜徴兵制度登録*– 運転免許証、仮免許、インターミディエート運転免許証、身分証明書を申請する26歳未満の男性すべてに、Selective Service System（SSS、選抜徴兵制度）への登録機会が与えられます。申請者がSSSへの登録を辞退しても、希望する文書の交付を受けるためのすべての要件を満たしていれば、交付が却下されることはありません。

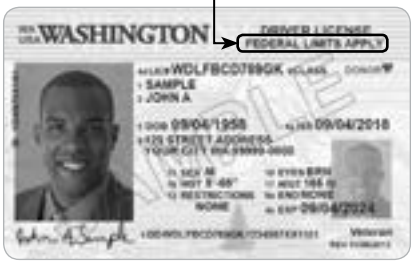
*臓器提供プログラム* – 交付時に臓器提供の希望が尋ねられます。運転免許証には臓器提供者のシンボルが記載されます。提供者の情報は、その意思が確実に遂行されるように、臓器提供者登録簿に掲載されます。詳細は、LifeCenter Northwest（1-877-275-5269）まで電話で問い合わせるか、登録簿ウェブサイト（**www.donatelifetoday.com**）をご覧ください。

*双生児登録*– University of Washingtonと提携している双生児または三つ子である場合はお伝えください。大学では全米最大の双生児登録があります。この登録は、環境要因や遺伝子による疾患を判断する医学研究に役立てられています。双生児登録に関する質問は、University of Washington（1-888-223-0868）までお問い合わせください。

運転記録の写し - DOLはワシントン州のドライバーについて、免許申請、交通違反、車両違反の有罪判決、衝突事故への関与、出頭拒否の記録を保存しています。当機関では、ご本人の記録のコピーをご本人、保険会社、雇用主、一部のボランティア団体、弁護士、行政機関、薬物／アルコール依存症の治療を行う機関、送り迎えをされている学区に有料で提供することを許可されています。記録証明書は**www.dol.wa.gov**からも入手できます。

# あなたに最も適した身分証明書の種類を選択してください！

## 標準運転免許証/ID
（Real IDに非対応）




- ✓ **本人確認**
- ✓ **自動車の運転**（国内航空旅行）
- ● **国内航空旅行**（2020年9月30日まで）
- ✓ **IDを必要としない連邦施設へのアクセス**
- ✗ **IDを必要とする連邦施設へのアクセス**
- ✗ **陸上または海上での越境**

## エンハンスト運転免許証/ ID
（Real ID準拠）

- ✓ **本人確認**
- ✓ **自動車の運転**（国内航空旅行）
- ✓ **国内航空旅行**
- ✓ **IDを必要としない連邦施設へのアクセス**
- ✓ **IDを必要とする連邦施設へのアクセス**
- ✓ **陸上または海上での越境**

**詳細：**
**www.dol.wa.gov**

DEPARTMENT OF LICENSING

# 運転する前に

あなた自身の安全と公衆の安全は、運転する前や運転中のあなたの行動に左右されることがあります。座席やミラーの調節、シートベルトの着用、車両の点検、ドアのロック、視界を邪魔するものがない状態を維持すること、車両内または外部に積載したものを固定するなど、路上で避けられるリスクは最小限に抑えましょう。

## リスクの理解

リスクは、幹線道路輸送システムの3つすべての構成要素、つまりドライバー、車両、そして車道環境から生じます。常にリスクはつきまといますが、安全な運転により軽減することが可能です。

ドライバーとして、出来る限りのことを行ってリスクを軽減しましょう。リスク因子が増せば増すほど、衝突事故につながる可能性も高くなります。車両を良好な状態に保ち、シートベルトを着用することでリスクを軽減することができます。また、安全運転の習慣により自分自身を守り、リスクを軽減します。

2009～2011年の各年には、ワシントン州の車道で、平均469人の死亡者と2,421人の重傷者が報告されています。すべての衝突事故はそれぞれ異なりますが、致命的な衝突で最も一般的な因子の例は以下の通りです。

- 飲酒運転：50.1%
- 横道にそれる：43.7%
- スピードの出しすぎ：39.5%
- 若年ドライバー（16～25歳）：34.6%
- ドライバーの不注意：30.3%
- 乗車している人のシートベルト締め忘れ：24.8%
- 交差点での過失：20.6%

総じて、少なくとも上位3つの因子の1つが交通事故による全死亡率の72%を占め、その17%においては3つの因子すべてが関与しています。

若年ドライバーに関しては、運転の未熟さからリスクが増加する傾向にあります。ワシントン州では、自動車事故が16～25歳の青少年の死亡原因の1位となっています。この年齢層のドライバーは、衝突事故率

が最も高く、また州の他の年齢層のドライバーと比べ、スピード違反、飲酒運転、不注意運転率も最も高くなっています。2009～2011年の間、交通事故による死亡者のほぼ35％が16～25歳の若年ドライバーでした。また同時期、16～25歳の若年ドライバーがドライバー人口がほんの14％にもかかわらず、重傷をともなう全衝突事故の38％に関与していました。

若年層のドライバーの皆様は、直面するリスクの増加に気をつけましょう。すべての交通法に従い、安全に運転する判断を行うことで、衝突を回避するのに役立ちます。

## 保険加入の義務

ワシントン州で登録してある車両を運転するには、自賠責保険に加入し、保険証券を所持する必要があります。政府公用車、モペッド、普通または契約のキャリアカーの車両の運転手は、この保険加入要件の対象外となります。

以下に示す内容を提供する、州認可の保険会社または保証業者の、自動車損害賠償責任保険または保証に加入する必要があります。

- 衝突事故により、1人のみの身体傷害または死亡に対する支払額25,000ドル以上。
- 1件の衝突事故により、2人以上の身体障害または死亡に対する支払額50,000ドル以上。
- 1件の衝突事故により、相手側の所有物の損害または損壊に対する支払額10,000ドル以上。

## 車両の点検

運転する車両の安全性や運転中のリスクを最小限に抑えることは、ドライバー自身の安全の第一歩であり、運転する車両が安全に作動するかを確認するのはドライバーの義務です。正しく作動しない車両はリスクを生み出し、危険な上、定期的にメンテナンスを受けている車両よりも走行費がかかります。また、路上で故障してしまったり、衝突事故を引き起こすことがあります。車両が正しく作動しなければ、緊急事態を回避できなくなる可能性もありますが、正しく作動していれば、必要なときにより高い安全性を得ることができます。

車両の操作マニュアルの指示に従い、定期的にメンテナンスを行なってください。メンテナンスには、自分でできる作業や、資格のある修理工が行なわなければならない作業もあります。簡単な点検を行なうことにより、路上のトラブルを防止することができます。

*ブレーキ システム* – ブレーキだけがあなたの車両を停止できます。正しく作動しないブレーキは非常に危険です。正しく作動していないようであったり、大きな音を出す、へんな匂いがする、またはブレーキペダルを踏むと床に届いてしまうなどの場合は、修理工に点検してもらいます。

*ライト* – 方向指示器、ブレーキライト、テールライト、ヘッドライトが正しく点灯することを確認します。これらのライトは、車両の外に出て確認する必要があります。ブレーキライトは停止することを、方向指示器は右左折することを、他の道路利用者に知らせます。1993年以降に製造された乗用トラック、乗用車、バン、スポーツ用多目的車（SUV）には、車両後部中央の高い部分に3番目のブレーキライトが装備されている必要があります。

ヘッドライトの位置がずれていると、正しく前を照らすことができません。また他の車両のドライバーにとってまぶしく、視界をさえぎる恐れがあります。夜間に視界が良くないと思うとき、また他のドライバーが頻繁にヘッドライトを点滅させて合図を送ってくることがあれば、修理工にヘッドライトを点検してもらいます。

*フロントガラスとワイパー* – ガラスに破損があると、軽い衝突やフロントガラスに物が当たった際に割れやすくなるため、補修や取り替えを行います。

フロントガラスのワイパーは、雨や雪をぬぐうものです。リアウィンドウやヘッドライトにワイパーが付いている車両もあります。ワイパーがすべて正しく作動するよう確認します。ブレードが水滴をよくぬぐえないときは、新しいものと交換します。

*タイヤ* – 磨耗したタイヤは、路面が濡れていると停止するまでの距離が長くなり、右左折も困難になります。バランスの取れていないタイヤ、空気圧の低いタイヤは磨耗を早め、燃費が悪くなる上、運転が困難になり、停止しにくくなります。車両が弾むようであったり、ハンドルが振動したり、走行中まっすぐに走行せず左右どちらかに傾く場合、修理工に点検してもらいます。

磨耗したタイヤは、ハイドロプレーニングの原因になったり、パンクする可能性も高くなります。タイヤの溝を1セント銅貨で調べます。銅貨を頭部（リンカーン大統領の図柄が逆さの状態）から溝に差し込みます。溝の深さがリンカーン大統領の頭まで（2／32インチ）届かない場合、そのタイヤの使用は違法となり、安全ではないため、新しいタイヤと交換する必要があります。

タイヤが冷たいときに、エアゲージで空気圧を測ります。車両の操作マニュアルを見て、推奨空気圧を調べます。

*ハンドル システム* - ハンドルが正しく作動しなければ、進みたい方向に車両をコントロールするのは困難です。一度ハンドルを切ってもその方向に曲がりにくいとき、もしくは曲がれないときは、修理工にステアリング（ハンドル）を点検してもらいます。

作動中は決して車両の鍵を「ロック」位置に入れないで下さい。タイヤがロックされ、ハンドルを回そうとしても車両をコントロールできなくなります。

*サスペンション システム* – サスペンションによって車体はコントロールしやすくなります。またさまざまな道路表面に対して快適な乗り心地を与えてくれます。路上の隆起を越えた後や停止後に弾みが止まらない場合、またはコントロールが困難な場合は、緩衝装置かサスペンションの部品を交換する必要があるかもしれません。修理工に点検してもらってください。

*排気装置* – 排気装置はエンジンからのノイズを下げ、エンジンから出る高温ガスの冷却を助け、ガスを車両の後部に移動させます。排気装置に漏れがあると車内にガスが流れ込み、短時間で死亡する恐れがあります。ドアを閉めたガレージ内では、決してエンジンをかけたままにしないでください。また、エンジンがかかった状態の車内に長時間いる場合は、窓を開けましょう。

排気装置からの漏れは聞こえるものもありますが、多くの場合は聞こえません。このため、排気装置は定期的に点検することが重要です。

*エンジン* – 正しく作動しないエンジンは、通常時および緊急時に必要な動力を失う、エンジンがかからない、燃費が低下する、大気を汚染する、路上でエンストするなどの問題が起きる可能性があり、路上において自分自身だけでなく、交通の妨げの原因となることがあります。メンテナンスは、車両の操作マニュアルで推奨される手順に従います。

*クラクション* – クラクションは安全性にはあまり役立たないと思えるかもしれませんが、警告装置としてあなたの命を救うことができます。クラクションは他の人への警告としてのみに使用します。

*固定されていない物* – 車両が急停止したり追突事故が起こる際、食料品や手荷物など、固定されていない物は、危険物となり得ます。固定されていない物は車両の収納用小物入れやトランクに入れます。それができない場合は、どこかに固定します。足元や座席の下には、ペダルの下へ転がったり、運転の邪魔になるような物が何も無いことを確認します。

*ごみ* – ごみの投げ捨てには高い罰金が科せられます。ドライバーおよび同乗者は紙くず、ガラス、プラスチック、また危険物となる可能性のあるすべての物を常に適切に処分してください。

## 積荷の固定

しっかりと固定されていない積荷を積んで運転することは、違法であり非常に危険でもあります 。適切に積荷を固定していないドライバーが衝突事故を起こした場合、高い罰金および懲役を科される場合があります。Washington State Department of Ecology（ワシントン州人類生態学部門）に従い、おおよそ40%のハイウェイ上のごみがしっかりと固定されていない積荷からの ものであり、ワシントン州の道路で年間数百件もの衝突事故の原因となっています。積荷はし っかりと固定されていなければならず、滑落、移動、落下、または道路に撒かれたり、もしくは空中に浮遊したりしないことも合わせて確認します。

積荷を車両内またはトレーラー内に固定するには：

- ロープ、ネット、またはストラップで縛り付ける。
- 大きな物は車両またはトレーラーに直接縛る。
- 積荷全体を丈夫な座席やネットで覆うことを考える。
- 車両またはトレーラーに積み過ぎない。
- 積荷がしっかり固定されているか再確認する。
- また、動物も適切に固定することを忘れないでください。

運転する前に、自分自身に次の質問を問いかけてみます。

- ごみになる可能性、または積荷が落下したり、車両から吹き飛ばされたりするようなものはあるか？
- 積荷が後部、両側、上部でしっかりと固定されているか？
- 急ブレーキをかけたり、路面の隆起物にぶつかったり、他の車両にぶつけられた場合、積荷はどうなるか？
- 自分の家の近辺を積荷を載せた車両で運転したいか？
- 自分の車両の後ろを運転することを想定した場合、安心か？

## Maria's Law

2004年、若い女性の前を走る車両がけん引しているトレーラーの後部からテレビやステレオなどを設置するための大型家具が落下し、その女性はレントンのI-405で重傷を負いました。2X6フィートの削片板が女性のフロントガラスを突き破り、女性の顔面に直撃しました。その女性は失明し、顔の形成を終えるまで、数えきれないほどの手術を耐え抜かなければなりませんでした。

この悲劇的な事件や似たような事故を受け、ワシントン州では2005年に、ワシントン州で適切に積荷を固定していない場合、罪に問われる「Maria's Law（マリア法）」を可決しました。適切に積荷を固定せずに傷害や死亡事故を起こした人物に対し、重度の軽犯罪を科し、最高1年の懲役と5,000ドルの罰金を科すことができるというものです。しっかりと固定されていない積荷により、対物事故を起こした場合には、軽犯罪に問われる場合があります。

ウェブサイト（**www.dol.wa.gov**）の特集動画にあるワシントン州パトロール制作の安全な積荷の固定に関する動画をご覧ください。しっかりと固定されていない積荷を積んで運転している車両を目にした場合、できるだけ遠くに離れ、自分自身の安全が確保できる場合には、911に連絡します。

身内や親しい人物が後方で運転しているものと想定し、積荷をしっかり固定しましょう。

## ガラス表面の掃除

ウィンドウ、フロントガラス、ミラーから外がはっきり見えるようにしておくことが重要です。以下の事柄を実行してみてください。

- フロントガラスをきれいに保つ。明るい陽射しやヘッドライトが汚れたフロントガラスにあたると、前が見えにくくなるため、液体洗浄剤とペーパータオルまたは布を常備し、必要な際にはいつでもフロントガラスを掃除できるようにしておく。
- ウィンドウ用ウォッシャー液を常にタンク一杯にしておく。温度が零度以下になる地域では、不凍タイプのウォッシャー液を使用。
- 喫煙によりウィンドウの内側表面に膜が張る原因となるため、特に車内で喫煙する人がいる場合は、ウィンドウの内側もきれいに保つ。
- 運転する前に、すべてのウィンドウから雪、氷、霜などを除去する。
- 視界を妨げる原因となるため、ミラーに物を吊るしたり、フロントガラスにたくさんのステッカーを貼らない。
- ヘッドライト、バックライト、ブレーライト、テールライトをきれいに保つ。汚れた表面は、光を50パーセント遮断する。

## 座席とミラーの調節

運転する前は常に座席とミラーの位置を点検し、調節します。

- 視界がさえぎられたり、車両コントロールの邪魔になる場合、前部座席に3人以上同乗して運転しない。前後左右がはっきり見え、コントロール部品にすぐ手が届くこと、またドライバーがハンドルを握る際、少なくともハンドルの1／3が両手の間にあるようにする。
- 座席は、道路がはっきり見える高さに調節し、必要に応じて、座席クッションを使用する。ハンドル操作が困難になるほど、座席位置を前に移動させ過ぎない。衝突したときに、エアバッグが胸のあたりに当たるように座ります。また、足がブレーキペダルの下の床につくように座る。
- バックミラーとサイドミラーを調節する。リアミラーでバックウィンドウが見えるようにする。少し前向きにかがむと車体の側面が少し見えるようにサイドミラーを調節する。以上により、後続の交通状況が把握しやすくなる。

- デイ／ナイトミラーの装備されている場合は、運転中の時間帯に合わせて設定してあることを確認する。
- ヘッドレストは、後ろから追突された場合のむちうち防止のために設計されている。後頭部に接触するようにヘッドレストを調節する。

## シートベルトとチャイルドシートを必ず使用

ワシントン州では、ドライバーおよび同乗者のシートベルト不着用、チャイルドシートの不使用は違法とされています。

正しくシートベルトを装着することは、衝突事故から身を守る最も効果的な方法です。シートベルトを正しく装着することによって、車両内にしっかりと固定されます。投げ出されてしまうとほぼ確実に死亡につながります。運転距離がどんなに短くても、必ずシートベルトを着用し、同乗者も全員シートベルト、あるいはチャイルドシートかブースターシートを正しく使用していることを確認してください。また、忘れずにドアをロックします。ドアをロックすることにより、急ハンドルや急ブレーキ、衝突事故などでドアが開く危険性が低減します。

特に法律で、「16歳以上で車両を運転する者または同乗者は全員、シートベルトを正しく調節し、固定された状態で着用すること」が定められています。（チャイルドシートに関する法律は以下を参照してください）。ドライバーがシートベルトを正しく着用していない場合、罰金が科せられる場合があります。また、16歳以下の同乗者がシートベルトを正しく着用していなかったり、チャイルドシートを使用していなかった場合もドライバーに罰金が科せられます。16歳以上の同乗者のシートベルト着用は本人の責任であり、着用していない場合は同乗者に罰金が科せられます。

エアバッグはシートベルトと連動するように設計されており、シートベルトの代わりではありません。シートベルトを着用していない場合、エアバッグの衝撃緩和効果を受ける位置に正しく着席していないため、エアバッグが開いた際に、重傷を負ったり死亡する危険性があります。子供が前部座席に座る場合、チャイルドシートの使用またはシートベルトの着用に関わらず、エアバッグが開く衝撃により負傷または死亡する場合があります。

- 車両に装備されているシートベルトが2つの部分に分かれている場合、両方とも正しく装着する。ショルダーベルトがオートマチックの場合、必ずラップベルトも装着する。
- 最高の安全性を守るための正しいシートベルトの装着方法：
  - ショルダーベルトは首から離して胸の中央を横切るように装着。
  - ラップベルトは胃の**下**の座骨を横切るように装着。
  - ショルダーベルトは決して背後に回したり、わきの下に通さないこと。

ワシントン州の乗員保護法は「優先施行」であり、ドライバーや同乗者がシートベルトを着用していないことが警察官に発覚した場合、その警察官には停止および召喚する権限があります。

**チャイルドシート** – 米国では1歳から12歳までの死亡原因の第1位が交通事故によるものです。子供の同乗者を保護する最善な方法は、同乗の際には必ず適格なチャイルドシートを使用し、正しく使用することです。

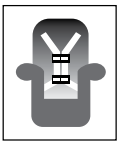
- 子供の年齢とサイズを基に、シートが車両に適合するものを選び、毎回正しく使用する。
- 使用するカーシート製造元の取扱説明書を参照し、車両の操作マニュアルのシートベルトやLATCH（子供のためのより低いアンカーとテザー）システムを使用するチャイルドシートの取付け方法を必ず読む。また、身長と体重の制限を確認する。
- 安全性を最大限にするために、チャイルドシートは製造元の身長と体重要件に当てはまる限り、できるだけ長期間にわたり使用する。

ワシントン州のチャイルドシートに関する法律で定められている事項：

- 後部座席がある場合、13歳未満の子供は後部座席に座ること。
- 8歳未満または身長が4フィート9インチ未満の子供はチャイルドシートを使用しなければならない。身長と年齢の制限に達する前にシートベルトに移行しない。
- チャイルドシートは、必ずチャイルドシートと車両の両方の製造元の指示に従って使用する。
- ラップベルトのみが装備されている車両は、体重40ポンド（約18kg）以上の子供のブースターシートの使用要件から除外。
- 8歳以上もしくは身長が4フィート9インチ以上の子供がシートベルトを着用する場合（決してわきの下や背面を通さず）、正しく装着するか、引き続きチャイルドシートを使用する。

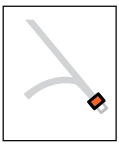
チャイルドシートには以下が含まれます：

乳児／幼児用には、後ろ向きのカーシートが最適です。ハーネスが装備されているため、衝突事故の際には子供を抱くように動き、未熟な頸部や脊髄への衝撃を緩和します。



前向きカーシートにはハーネスとテザーが装備されており、衝突時に前のめりになる衝撃を制限します。

ブースターシートはシートベルトが正しく着用できるように子供の身体の丈夫な位置を調整します。



シートベルトは、座骨を横切り、肩と胸にぴったりと合うように着用して、衝突時の子供の安全を確保します。胃や首などにかからないようにする必要があります。

子供の安全な乗車についての詳細は下記までお問い合わせください。

- Washington Child Passenger Safety Program (ワシントン州子供同乗者安全プ)ログラムマネージャー: 253-447-3257、または
- Washington Traffic Safety Commission（ワシントン州交通安全委員会）: **www.wtsc.wa.gov**または360-725-9860、または
- Washington State Safety Restraint Coalition（ワシントン州シートベルト連合）:1-800-BUCK-L-UP

## 追加義務

- 1964年1月以降製造の全車種で、ワシントン州で登録されている車両には、前部座席にラップタイプのシートベルトが装備されていること。
- 1968年1月以降製造の乗用車および1972年1月以降製造のトラック／多目的乗用車には、すべての座席にラップ／ショルダーベルトまたはラップベルトが装備されていること。
- 1976年1月以降製造のバン、キャンピングカー、キャンピングカー搭載のシャーシ運搬車両には、すべての座席位置にシートベルトが装備されていること。
- 1986年以降の車両には、前向きチャイルドシートを固定するための専用エリアが装備されていること。
- 1989年12月11日以降の車両には、後部座席のアウトボード位置にラップ／ショルダーベルトが装備されていること。
- 1996年以降の車両には、交換可能なリトラクターがほぼ装備されている。
- 2000年9月1日以降の車両には、テザーアンカー（チャイルドシート固定装置）がほぼ装備されている。
- 2002年9月1日以降のチャイルドシートおよび車両にはLATCH機能がついています。
- 2008年以降のすべての乗用車には、後部座席位置すべてにラップ／ショルダーベルトが装備されていること。

# Text Talk TICKET

## Hang Up & Drive

## Tickets For Violators

Washington's cell phone law is in effect—with strict police enforcement. If police see you holding a phone to your ear or texting while driving, they can pull you over. Tickets are costly and could be more if your distracted driving causes a collision.

> **"We will fully enforce this law from day one…in hopes of preventing these needless tragedies."**
>
> State Patrol Chief John R. Batiste

## This Law Means:

- No talking on handheld cell phones while driving.
- No texting while driving.
- Teens with intermediate driver licenses or learner permits may not use a wireless device at all while driving, including hands-free devices, unless they're reporting an emergency.

This law is not meant to encourage the use of hands-free devices. **Hands-free devices offer no safety benefit.** Parking your phone is the only safe way to drive.

Pulling to the shoulder to talk on the phone or text is rarely a safe option and should only be done in an emergency.

**For more information, go to:**
www.dol.wa.gov/driverslicense/distracteddriving.html

# 路上での交通規則

いつ、どこで、どれくらいの速度で運転できるかを示す交通規則があり、交通安全の維持に役立っています。このような規則には、交通制御装置、通行優先権、駐車規則などがあります。

## 交通制御装置

交通制御装置には、信号機、標識、道路標示、ラウンドアバウトなどがあります。法執行機関、ハイウェイ道路工事作業員または整備作業員、学校横断監視員なども交通管理を行なうので、彼らの指示に従う必要があります。

信号機が故障している場合には、完全に停止し、四方一旦停止の場合と同じように、通行権を譲る必要があります。安全が確認できた場合のみ、または警察官、消防士、交通誘導員などの指示がある時にのみ進みます。

## 信号機

信号機は、いつ、どこで停止し、進行できるかを示す電灯です。青信号では、安全である限り進行できます。黄信号は注意を意味し、赤信号は停止を意味します。

通常、信号機は交差点にあり、上から下へ、または左から右に向かって赤、黄、青の順になっています。場所によっては、青、黄、赤の単色のみの場所もあります。**青信号**では、交差点へ進入できますが、緊急車両やその他法律で義務づけられている車両には、通行権を譲る必要があります。停止していて、信号が青になったら、交差点内の車両が通過するまで進入を待たなければなりません。左折する場合は、安全を確認してからのみ、左折することができます。対向車に通行優先権があります。左折禁止の標識に注意してください。**青の矢印**は、矢印の方向に、安全に左折または右折できることを示します。青の矢印の時には、対向車や交差する車両はないはずです。右左折どちらの場合でも、あなたの車両の前を横断する歩行者や自転車に注意します。あなたの走行道路上（道路幅の半分で、あなたが走行している側）および、あなたの走行道路から 1 車線以内を歩行者や自転車が横断中であれば、停止する必要があります。車椅子および電動車椅子白杖、盲導

犬やその他介助動物の使用者に近づくときドライバーは負傷を避けるためすべての予防策を取る必要があります。そのような予防策を怠ったドライバーは、これら機器や動物の使用者の負傷に対する責任を負う場合があります。

点滅しない**黄信号**は、信号がまもなく赤に変わることを示します。安全に停止できる場合は、停止しなければなりません。交差点に進入して信号機が黄色になったら、停止せず通過する必要があります。**点滅する黄信号**は、徐行して注意しながら進行することを意味します。黄色の矢印は青の矢印が間もなく消えることを意味し、矢印の方向に曲がる場合は停止の準備をして、曲がる前に対向車に通行権を譲ります。**点滅する黄色の矢印**は、左折はできますが、対向車と自転車、歩行者を優先しなければならないことを意味します。

**点滅しない赤信号**は、停止を意味します。信号機が青に変わり、交差する車両がなくなれば、発進してかまいません。右折する場合は、赤信号での右折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認してから右折することができます。また、道路の交通が左へ流れる一方通行の道へ左折する場合、赤信号での左折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認してから左折することができます。あなたの車両の前を横断する歩行者に注意してください。**点滅する赤信号**は一旦停止の標識と同じです。一旦完全に停止する必要があります。完全停止後、安全を確認してから進入することができます。**赤の矢印**は、停止する必要があり、またその矢印の方向に進入できないことを示します。赤の矢印が消え、青の矢印または青信号に変われば進入してかまいません。右折する場合、赤の矢印での右折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認してから右折することができます。また、道路の交通が左へ流れる一方通行の道へ左折する場合、赤の矢印での左折禁止の標識がなければ、一旦完全に停止し、安全を確認してから左折することができます。ドライバーは横断する自転車や歩行者に細心の注意をはらって徐行してください。

## 道路標識

道路標識は交通規則、危険、現在地、目的地への行き方やさまざまなサービスの場所などを示します。標識の形と色によってその情報の種類を識別することができます。このガイドブックの表紙の内側には、一般的な標識の形と色が載っています。

*警戒標識* – 通常この標識は黄色で、黒の文字またはシンボルが記されており、ほとんどがダイヤモンド型をしています。これらの標識では、徐行したり、必要なら停止の準備をするよう促します。標識では、前方の急カーブ、特殊な状況、スピードゾーンまたは危険などを警告します。よく見る警戒標識は以下のとおりです。

警戒標識

前方に
スピードゾーン有り

作業員

前方に前方優先標識有り

前方に一旦停止有り

車線終わり
左車線に合流

事前に警告：自転車に注意

歩行者横断

児童横断

分離ハイウェイ
（道路）始まり

分離ハイウェイ
（道路）終わり

車線数増加

濡れると
滑りやすい

右側
急カーブ

急勾配

前方にスピードゾーン有り

*踏切の警戒標識* – 多くの踏切には、ドライバーに徐行させたり、電車に通行優先権があることを警告する標識や信号機があります。接近してくる電車の前を通り抜けようとしないでください。前方の車両が踏切の向こう側に渡りきれる十分なスペースができるまで、踏切を渡り始めてはいけません。踏切内で停止しなくても済むように、踏切の向こう側に渡りきれる十分なスペースができるまで待ちます。踏切横断中に、エンストを起こす可能性もあるので、ギアはシフトしない方が賢明です。電車は大きく、見た目よりも実際の速度が速い場合があります。 電車を完全に停止させるには100台の自動車と最大1マイルの距離が必要であり、自動車のように譲ることはできません。よく見る踏切の標識と信号機を下に示します。よく見る踏切の標識と信号機を下に示します。反対方向から同時に来る列車に注意してください。

- 「X」のシンボルと黒字で「RR」と記されている丸型の黄色い警戒標識は、踏切の手前の道路脇に設置。
- 白のX型の標識または「標識板」で「Railroad Crossing（踏切あり）」と記されている標識は、踏切に設置。この標識は「前方優先」と同様に道路を横断する電車に通行権を譲る必要がある。

- 踏切によっては標識板の他、電車が踏切に接近している時に交互に点滅する、並んで付いている赤信号が設置されている。信号が点滅しているときは、停止する必要がある。また、電車が接近している時に遮断機が降りる踏切もあるが、遮断機の横を摺り抜けて、踏切を渡ってはならない。ベルや警笛の鳴る踏切もあり、ベルや警笛が鳴り止むまで通過してはならない。
- 複線の踏切では、線路の数を示す標識が設置されていることが多い。この標識は、複線があり、複数の電車が通る可能性があること

を警告している。複線の踏切でもこの標識がないところがあるので、渡る前に複線かどうか確認することが大切。

*踏切での安全対策* - 踏切に侵入して線路踏切内で自動車が動かなくなった場合、線路踏切内に障害物を発見し、電車が来ないあるいは電車がない場合：

- 直ちに緊急通報システム（ENS)に通報すること。電話番号は線路踏切遮断機に取り付けられた青い看板に記載。障害物の種類と場所を正確に伝えること。
- ENSに通報した後で911に連絡し、地元の警察に通報すること。

*低速度車両の標識* – 車両の後部に反射するオレンジ色の三角形がついている車両は時速25マイル以下で走行していることを示す。工事用車両や、田園地帯では農耕用車両、または馬が引くワゴンや四輪馬車などに見られる。

*工事の標識* – 工事、メンテナンス、緊急作業の標識は、通常ひし型または長方形で、オレンジ色に黒い文字またはシンボルが記されており、路上または道路脇に作業者がいることを警告している。これらの標識には、徐行、迂回、低速走行の車両が前方を走っている、路上状態が悪い、または道路表面の状態が突然変わることなどの警告がある。工事現場では標識や旗を持った者が交通整理をするところもあり、その指示に従って通行しなければならない。車両ドライバーと自転車、歩行者は、ハイウェイの道路工事区間または整備作業区間内では、ハイウェイ道路工事作業員、黄色のライトが点滅している車両、あるいは設備に対して、道を譲らなければならない。作業員が存在する工事中の区間で違反があった場合、罰金は2倍となる。

*規制標識* – この標識は正方形、長方形、または特殊な形をしており、通常、白、赤、黒の地に黒、赤、白、または緑の文字やシンボルが記されています。交通の流れる方向、車線の使用方法、右左折、速度、駐車やその他の特殊な状況に関する規制を示す。

シンボル上に赤で斜線の引いてある赤い輪の標識は、左折禁止、右折禁止、Uターン禁止など特定の禁止行為を示す。

よく見る規制標識には以下のようなものがあります。

- *速度制限の標識* – 安全な最高速度または最低速度を指示。最高制限速度での運転は、理想的な運転状況でのみ実施し、状況の変化に従って必要であれば徐行しなければならない。たとえば、雨、雪や氷などで路上が滑りやすいとき、霧が出て視界が悪いときなどは徐行する必要がある。速度の早い道路では最低制限速度を示すところもあるので、他のドライバーにとって危険な状況にならないよう、遅くともその最低速度で走行する必要がある。標識で示される最低速度が速すぎる場合は、他の道路を利用する。
- *可変式速度制限標識* – このデジタル標識は、さまざまな制限速度を表示し、ドライバーに前方で渋滞があることを知らせ、交通の流れを分散するのに役立つ。頭上標識では、車線をすべて閉鎖することもでき、ドライバーが渋滞に巻き込まれる前に、警告情報を提供する。こうした事前通知や可変式速度制限標識は、渋滞が原因となる衝突事故の低減に役立つ。

車線閉鎖

車線進入可

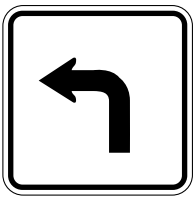
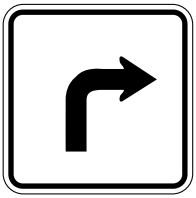
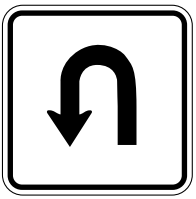
規制速度

左に合流

左または右に合流

右に合流

- *車線使用管理標識* – 走行してよいところや右左折のできるところを示す。多くの場合は矢印が使用される。この標識は道路脇や走行している車線の頭上に掲げられている。標識の補助として、路上に矢印が塗装されている場合もある。

- *追い越し禁止の標識* – 追い越し禁止区域を示す。追い越し可能な場所は、先がどれだけ良く見えるかによる。坂やカーブ、交差点、ドライブウェイ、その他の場所に配置され、道路に進入する車両のあるところなど、先に見えない危険がある場所を考慮している。この標識と道路標示で、追い越しのできる場所、追い越し区域の始まりと終わり、または追い越し禁止区域を示す。追い越しが許可されている区域でも、安全に追い越せる場合のみ追い越しを行い、追い越しの際は、路面状況や他の車両に注意を払う。三角形の追い越し禁止の標識が設置されている場合もある。黄色またはオレンジ色で、道路の左側に設置されている。

- *一旦停止の標識* – 八角形で赤に白い字が記されているもの。一旦停止の標識があるところでは、白線マーク、白線がない場合は横断歩道の手前、横断歩道がない場合は接近してくる車両が見える交差点に最も近い地点で、完全に一旦停止する必要がある。通過する車両や歩行者がいなくなり、安全に車を発進できるまで待たなければならない。
- *前方優先の標識* – 赤と白の逆三角形で赤い文字が記されているもの。横断または進入しようとする道路で、徐行して他の車両を優先しなければならない。
- *進入禁止の標識* – 正方形の標識で、赤い輪の内側に白の横線がある場合、進入禁止を意味する。誤った方向に進入してしまう可能性のあるフリーウェイなどの出口ランプ、分離帯のある走路の交差路、一方通行路の多くの箇所など、進入してはいけない道路の開口部に掲げられている。
- *障害者用駐車区画の標識* – 白い長方形の中に緑色の文字が記された標識と、青地に白で世界共通の身体障害者のシンボルマークが記された標識は、ビジネスや店舗などでの特別駐車区画を示す。この区画に駐車するには自分、または同乗者が障害者駐車プラカードまたはナンバープレートを所持し、車両で表示しなければならない。必要なプラカードまたはプレートをつけずにこのような区画に駐車したり、駐車区画の横にある、身体障害者のために設けられたアクセス通路をさえぎると、罰金250ドルが科せられる。
- *悪路情報の標識* – 長方形で白地に黒の文字で記されているもの。チェーンが必要な場合に知らせる。チェーン装着が義務付けられている際にそれを怠った場合、500ドルの罰金が科せられる。

よく見る案内標識は以下の通りです。

- *案内標識* – 正方形または長方形で、緑または茶色の地に白い文字が記されている。市、空港、州境界線、または国立公園、史跡、美術館／博物館などの特殊な地域など、さまざまな場所までの道順と距離を示す。

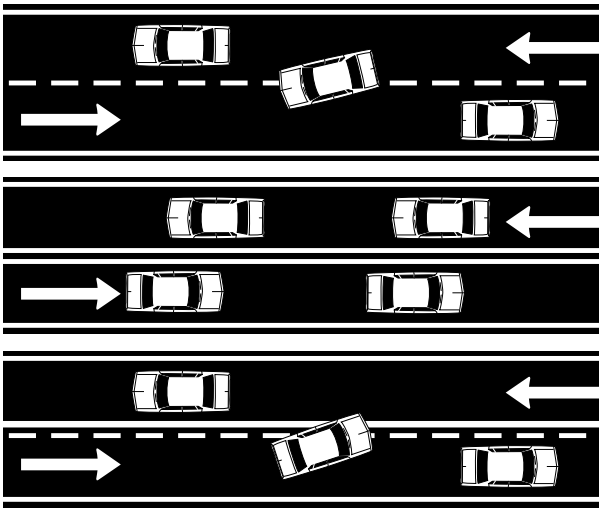
- *サービス標識* – 正方形または長方形で、青色または茶色の地に白い文字またはシンボルマークが記されている。サービスエリアやガソリンスタンド、キャンプ場、病院などのさまざまな場所を示す。
- *幹線道路番号の標識* – 幹線道路番号の標識の形と色により、インターステート（州連結高速道路）、国道、州道、市道、または郡道などの道路の種類を示す。

## 道路標示

車道上の線やシンボルは、車線を分割したり、追い越しあるいは車線変更をしてよいか、右左折の車線はどれか、標識または信号機で停止するべきところ、歩道などを示す。

車道外側線と車線 - 車道の路端に沿った実線は、車道または車線の端を示す。

- *白の車線区分線* – 白の実線は両方向道路の両端を示し、また一方通行道路の右端を示す。**車道外側線の右側と他の交通と分かれている自転車専用レーンを超えて運転してはならない**。車線間の白の破線は、その破線を超えて安全に車線変更できる場合は、車線変更してもよいことを示す。車線間の白の実線は、特別な状況により、車線変更が必要にならない限り、同じ車線にとどまらなければならないことを示す。
- *黄色の車線区分線* – 黄色の実線は、逆方向に流れる交通を分割し、また、一方通行道路の左端を示す。対向車線を分割する黄色の破線は、その線を越えて安全に追い越しできる場合には、追い越しを行なってよいことを示す。



黄色の破線 – 安全を確認してから、どの車両も追い越しを行なってよい。

黄色の実線 – 追い越し禁止。

黄色の実践と破線 – 安全を確認してから、破線側の車両は追い越しを行ってもよい。

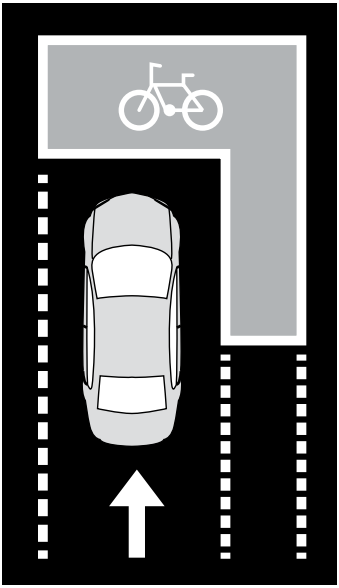
追い越し区域には、追い越しの許可された箇所、追い越し禁止の箇所を示す標識を掲げているところがあります。黄色の実線と破線の両方で対向車線が分割してある場合、あなた側に実線があれば追い越しできません。破線があなた側にあって追い越しゾーンにいる場合は、安全を確認してから追い越しできますが、追い越しゾーンが終わるまでに自分の車線に戻らなければなりません。車線が黄色の実線2本で分割されているときは、どちら側も追い越しできないことを示します。左折する場合は、中央分離帯を除き、安全を確認してから黄色の実線を越えることができます。

- *中央分離帯* – 2本以上の道路に分割されているハイウェイでは、中央のスペース内の通行や横断は禁止。分離帯は、スペースのみで境界障害物なし、ハイウェイ分離帯、または島状の中央分離帯となっている箇所と、18インチ（約46cm）の黄色い実線の道路標示、または黄色い実線2本の間に黄色の平行線模様の標示の場合がある。
- *横断歩道と一旦停止線* – 標識や信号のため停止する必要がある場合、一旦停止線の前、または横断歩道があればその前に、必ず停止しなければならない。横断歩道は歩行者と自転車が車道を横断する区域であり、横断歩道を横断中または渡ろうとしている歩行者と自転車がいれば、通行権を譲らなければならない。また、横断する歩行者と自転車によって作動するライトが埋め込まれた横断歩

道もあり、このライトが点滅している際には通行権を譲らなければならない。印の付いていない横断歩道もあるため、交差点を通過する際や、右折または左折する際は歩行者と自転車によく注意すること。全ての交差点に印があるわけではない。交差点の印の有無に関係なく各交差点は法的定義がある。

- *自転車専用レーン* - 自転車専用レーンには、白い実線と自転車シンボルが付いている。自転車専用レーンの中には、隣接する自動車車線および/または斜線または山形模様を備えた2本の白い実線が記された緩衝帯のある駐車車線からさらに分離された場所もある。緩衝帯は自転車のレーン幅の一部とみなされており、安全なことを確認してから法に従って回転操縦を実行しない限り、自動車が侵入してはいけない。保護された自転車専用レーンは、さらに、係船柱、柱、またはプランターなどによって物理的に自動車が入らないように設計されている。自転車専用レーンは緑色に塗装されている場合もある。

- *自転車ボックス* - 自転車ボックスは、交差点に設置された舗装マークで、自転車が赤信号に近づいたときに安全に旋回するためのものである。自転車ボックスは緑色で自転車のマークが記されている。交差点では、横断歩道の前の舗道にマークが塗装されており、走行車線全体をカバーしている。ドライバーは自転車ボックスの後ろで停止し（ボックスに自転車がいなくても）、青信号を待たなければならない。左折する自転車は自転車ボックスで停止し、ボックスの左側に移動し、左折を知らせて、青信号を待つ必要がある。

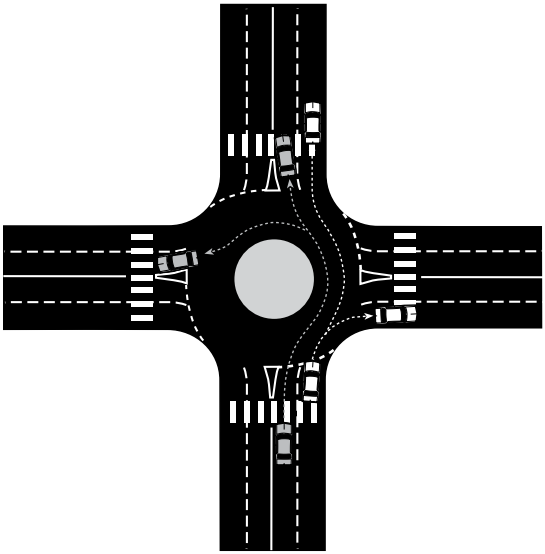


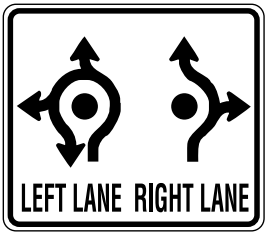
直進または右折する自転車は、自転車ボックス内の右側に停止し、青信号を待つこと。自転車は2段回左折することもできる。2段回左折により、自転車は複数の車線を横断するのではなく、2つの別々のステップで左折することができる。ステップ1：青信号の交差点を直進し、左折する道路の自転車ボックスで停止する。ステップ2：青信号を待って交差点を直進する。

- *その他の交通制御装置* – 徐行や衝突事故低減のために使用される交通制御装置がある。これらの装置にはさまざまな形状のものがあり、減速バンプ、縁石で道幅を狭めるようにしたもの、または交差点中央の円形の島などがあり、このような装置を通過する場合は必ず減速し、指示がない限り右側通行する。

## ラウンドアバウト

ラウンドアバウトは、車両に島になった部分の周囲を通行させる交差点制御装置です。ラウンドアバウトに接近する車両は、必ずサークル内の交通を優先します。また、規則に従って道路を横断している歩行者や自転車を常に優先します。サークル内では常に右方向に運転します。

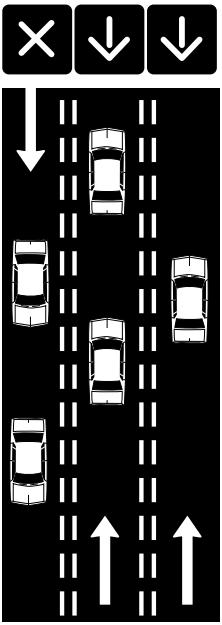




ラウンドアバウトでの運転のしかた:

1. 交差点に接近するに従い徐行。ラウンドアバウトは時速15～20マイル用に設計されている。
2. 交通の流れが途絶えたところで、ラウンドアバウトに進入。中に入ったら停止しない。走行する車線は、標識または道路標示に従う。
3. どの通りに出ても構わない。出損じたらもう一度回る。

## リバーシブル車線



特定の時間帯に一定方向に交通が流れ、その他の時間帯には逆方向に交通が流れるように制御されている車線があります。通常、このような車線は二重の黄色い破線でマークしてあります。このような車線を走行する前に、その時間帯にどの車線を使用できるかを確認してください。道路脇、または頭上に標識があったり、特殊な信号機が使用される場合もあります。また特別なライトが使用されることも多くあります。点滅する青色の矢印は、その下の車線を走行することができます。赤色の「X」は、その車線をすることは走行できません。点滅する黄色の「X」は、右左折専用の車線であることを示しています。点滅しない黄色の「X」は、その車線の走行方向がまもなく変わることを示しているので、すばやく安全にその車線から出る必要があります。

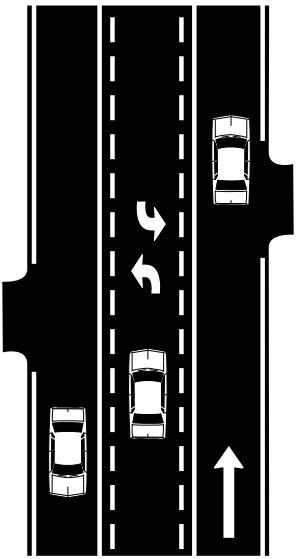
## 専用車線

さまざまな道路で、1車線以上を特別車両のために確保してあるところがあります。専用になっている車線は、特別な目的のために確保してあることを、標識で示してあります。このような車線は、たいていの場合道路脇にひし型の白い標識があるか、路面に標示が塗装されている。

- 「Transit（トランジット）」または「Bus（バス）」はバス専用。
- 「Bicycle（自転車）」は自転車専用。
- 「High Occupancy Vehicles（HOV、多人数乗車車両 ）」は、乗車人数2人以上の車両用に確保されている。標識には必要な乗車人数と、この規制が該当する曜日および時間帯が記してある。例：「HOV 3」は1台に少なくとも3人乗車していなければならない。

## 両方向道路での左折車線

この中央の共有車線はどちらの方向からでも左折して車線から出たり、または車線こ進入るためのものです（また許可されている場合はUターン）。この車線は追い越し用には使えません。また300フィート以上走行してはいけません。車道上に一方向からの車両の左折用矢印標示があり、その向こうに逆方向から来る車両の左折用矢印標示があります。この車線は、黄色の実線と破線で左右の端にそれぞれ標示があります。安全を確認してから進入してください。



## HOT車線とエクスプレス有料車線

*相乗り専用レーン(HOT車線, high occupancy toll)*、エクスプレス有料車線とは、*多人数乗車車両（HOV, high occupancy vehicle）*専用の車線ですが、1人で乗車している車両も通行料金を支払うことで走行できる車線です。通行料金はコンピュータで調整され、一般車線が渋滞しているときでも、HOTまたはエクスプレス車線は渋滞がないように管理されています。この車線はバスや多人数が乗車するバンや乗用車、バイクの場合は通行料無料で走行することができ、1人で乗車している乗用車も通行料金を支払えば走行できるようになっています。

1人で乗車する際にHOT車線またはエクスプレス有料車線を使用するドライバーには*Good To Go!*アカウントが必要になります。また、多人数が乗車している乗用車やバン、バス、バイクで有料車線を無料で走行する場合も、*Good To Go!*アカウントが必要な場合があります。

*Good To Go!*アカウントに関する詳細情報は**www.mygoodtogo.com**をご覧ください。また、多人数が乗車する乗用車、バン、バス、バイクの要件など、有料車線に関する情報はを**www.wsdot.wa.gov/goodtogo/**ご覧ください。

## 一般的な規則

*運転一般* - バック（後進）するときは、よく見て、ゆっくりとバックします。ドライバーは他の車がバックするとは思いませんし、手後れになるまで気づかないかもしれません。右左折する箇所や出口を通り過ぎたときは、バックして戻るのではなく、以下の曲がり角や出口まで進むか、安全に逆もどりできる場所まで進みます。路肩やフリーウェイでバックすることは違法です。

走行中の車線では、いかなる理由（道がわからなくなった、車両が故障した、同乗者を車から降ろすなど）があっても、停止してはいけません。そのまま進んで道路脇に安全に停止します。

ワシントン州では、許可する標識のない限り、フリーウェイなどの制限のある道路でヒッチハイクをしたり、ヒッチハイカーを自分の車に乗せたりすることは法律で禁じられています。ヒッチハイカーは、車両が走行中の道路の脇に安全に停止できないようなハイウェイ上や脇、その他の道路上や脇に立つことはできません。

2車線の両方向道路では、合法的な追い越しをするとき以外は、右側の車線を走行する必要があります。

一方向に2車線以上ある道路では、追い越しをしない限りは右側の車線を走行します。一方向に3車線以上ある道路では、外部から進入、または外部へ出る車両が多ければ、中央の車線を走行します。

道路交通制御員または標識による指示がない限り、路肩を走行してはいけません。

*警察による運転停止* - パトカーは、点滅しているライトやサイレンによって運転の停止を誘導します。

警察に誘導されたら：

- 道路の右端へ向かって安全に運転し、エンジンを停止してください。交差点で停止したり、高速道路の中央の分離帯付近に近づかないでください。
- あなたと他の乗客の行動を自粛してください。
- 手はハンドルに置いてください。乗客は手を良く見えるようにおいてください。
- 運転免許証および/または車両登録証は要求された場合にのみ提示してください。
- 車内に留まり、指示がない限り車から出ないでください。
- 停止後周囲が暗い場合は、警察官があなたの車に近づく前に車内照明を点灯してください。
- 現場の警察官と議論しないでください。あなたの交通違反の有無は、後日裁判所で決定されます。

*緊急ゾーン* – 緊急ゾーンは、サイレンを鳴らしたりライトを点滅して静止している緊急車両、赤いライトを使用しているレッカー車、警告ライトを使用している救援車両、または緊急ライトを使用している警察車両の、前後200フィートの道路に隣接する車線と定義されています。

緊急ゾーンにおけるスピード違反の罰金または、指定されている静止車両の不適切な追い越しの罰金2倍になり、緊急ゾーンで作業員や所有物を無謀な危険にさらす場合、ドライバーの運転免許証は60日間の停止処分の対象になります。

*追い越し* – 同じ方向に向かう2車線道路では、左側の車線は低速走行する車両の追い越しに使用します。同じ方向に向かう複数車線道路では、一番右側の車線は低速走行する車両、中央の数車線は高速走行する車両が使用し、一番左側の車線は追い越しのみに使用します。右側の車線で追い越すと、ドライバーから良く見えず、あなたの前で急に車線を変更するかもしれません。路肩が舗装されている、いないに関わらず、路肩を使った追い越しは、決してしないでください。他のドライバーは、路肩にあなたがいるとは思わず、確認せずに突然路肩に車を寄せることがあります。

出入り制限があり、一方向に3車線以上ある道路では、許可する標識がない限り、トレーラーを牽引する車両または10,000ポンド以上の車両は左側の車線を走行できませんが、HOV車線は使用することができます。路肩は歩行者と自転車により使用されます。

*海浜での運転* – Grays Harbor郡およびPacific郡では海浜を走行してもよいことになっています。この海浜は州内ハイウェイとみなされているため、道路、車両登録、運転免許証に関する規則がすべて該当します。制限速度は時速25マイル（約40km）で、通行優先権は常に歩行者と自転車にあります。マークの付いた専用進入路からのみ、海浜に進入できます。また、砂を押し固めた部分しか走行できません。海浜閉鎖の標識や、海浜での運転を臨時的に禁止する標識に注意してください。

*Toll Bridges（有料橋）* – 現在、州道（SR）520号線の橋の両方向、州道（SR）16号線Tacoma Narrows橋の東行き車線は有料となっています。SR 520号線の橋を渡る場合の通行料金は、Good To Go!アカウントから徴収されるか、車両所有者に請求書が送られます。SR 16 Tacoma Narrows橋も同じですが、その他に料金所があるのでドライバーはその場で現金で支払うことができます。通行料金に関する詳細情報は**www.wsdot.wa.gov**をご覧ください。

*自動交通安全カメラ* – 自動交通安全カメラでは、点滅しない赤信号や、踏切信号で停止しなかったり、速度計測器で通学路の速度制限が超えているときの車両の写真を1枚以上自動的に記録します。

交通カメラが装備されているすべての場所では、自動交通安全カメラによって交通法が施行されているゾーンに入ることが明確に示された標識があります。違反が起こる際に車両とライセンスプレートの写真のみがカメラで撮影されます。

違反通知は所有者が判明してから14日以内に送付されます。通知には、違反に関する事実と、交通カメラによって撮影された写真が含まれています。こうした違反は運転記録には残らずに、駐車違反として処理されます。駐車違反の罰金は最高で250ドルになります。

## フェリー

ワシントン州フェリー（WSF）はワシントンの高速道路ネットワークの一部であり、時には州の「海上高速道路システム」とも呼ばれます。州の高速道路システムの一部として、道路上でのすべてのルールが適用され、常にそれ従わなければなりません。

ターミナルに近づく - WSFはワシントン州とカナダの10ルートで20のフェリーターミナルを運営しています。フェリーターミナルに近づくと、「フェリーホールディング」レーンに誘導する標識が道路上に現れるのでそれに従ってください。フェリーに乗る他の車両がすでにこの車線に並んでいる可能性があります。また、ターミナルに到達するまでにこの車線がかなり続くことがあります。

他の車がすでにフェリーの「フェリーホールディング」レーンに並んでいる場合は、これらの車に割り込まず、安全な折り返し地点を探してから折り返し、列の最後についてください。フェリーを待って並ぶ車の列に割り込むことは、罰金につながる交通違反です。他のドライバーが割り込んでいるのを目撃した場合は、事態に巻き込まれることを避け、代わりにHEROプログラム1-877-764-HERO（4376）に連絡してください。

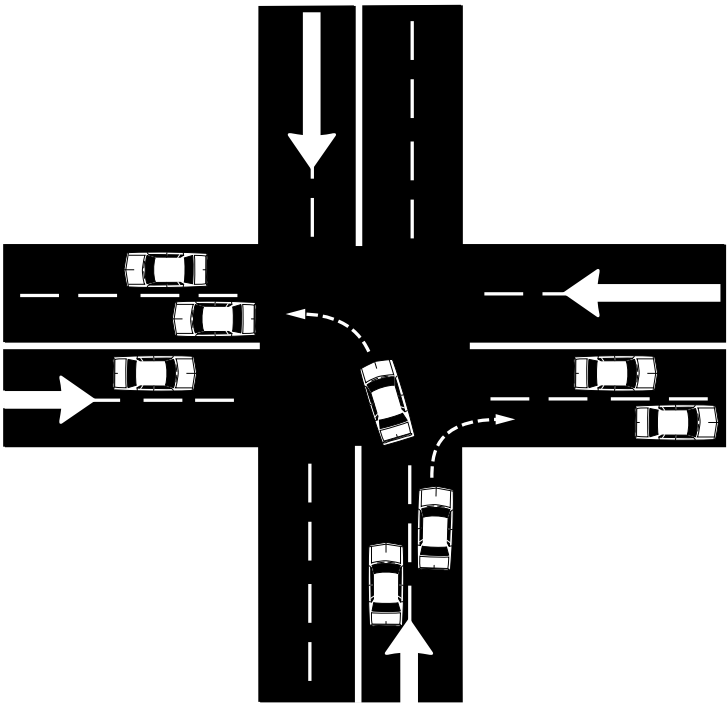
住宅地にある「フェリーホールディング」レーンでは住宅のドライブウェイや交差点を塞がないように気をつけてください。

自転車は、自動車の列を追い越してターミナルに進むことができます。ターミナルによってレイアウトは異なります。自転車は優先的にフェリーに乗船でき、自動車待機場所の前に自転車待機エリアがあります。

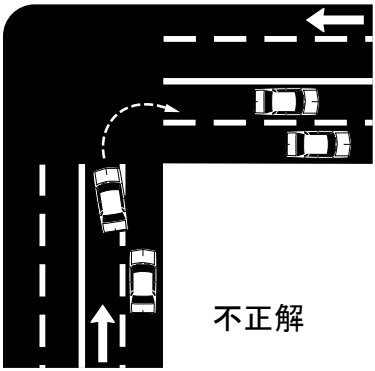
WSFシステムの詳細、運賃とスケジュールについては、**www.wsdot.wa.gov/ferries/**をご覧ください。

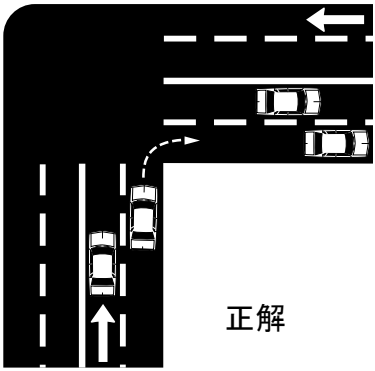
## 右左折

行きたい方向に最も近い車線から、その車線に最も近い車線に進入できるよう右左折を行ないます。右左折を行なう際は、他の車線のラインを越えたり、交通の流れを妨げたりしないで、できるだけ車線から車線へ直接進入します。右左折を終えた後に、必要に応じて車線を変更することができます。



- *右折* – 右折の際は、カーブする前に左側に大きく曲がることを避けます。このような右折では、後続車のドライバーはあなたが車線変更するか、あるいは左折をすると思い、右側からあなたを追い越そうとするかもしれません。右折し終わる時に遠い方の車線へ入ると、その車線を走行するドライバーは、あなたがそこにいると思わない場合もあり、危険です。




- *左折* – 左折の際に、ハンドルを切るのが早すぎると、対向車線に入るおそれがあるので、それは避けます。逆に、あなたの前で左折する対向車に衝突しないよう、十分スペースを取ります。
- *複数の右左折車線* – 2車線以上の車線で右左折できることを示す標識やマークがあるところでは、車線変更をせずに、右左折を行ないます。
- *Uターン* – Uターンは、安全にできるときにのみ行います。カーブや、坂道の一番上に近づいたときや他の人からあなたの車が見えないときには、Uターンしてはいけません。市や町によってUターンが禁止になっています。最寄りの警察に確認してください。
- *自転車専用レーン*を横切る - 自転車専用レーンで運転することは違法です。

## 低速バッテリー式電動輸送機器

Neighborhood Electric Vehicle（NEV、近隣用電気輸送機器）とMedium Electric Vehicle（MEV、中速電気輸送機器）はどちらも電気で動く4輪車両で、道路を走行することができます。NEVは時速20～25マイルのスピードが出ます。MEVは時速30～35マイルで走行でき、ロールケージが装備されているか、または押しつぶされない車体設計になっています。NEVまたはMEVは、地域法で禁止されていない限り時速35マイルまでの標識制限速度で走行することができます。

San Juan郡に限り、標識制限時速45マイルでの走行が許可されています。州内ハイウェイの一部である道路やハイウェイでのNEVとMEVの運転は禁じられています。

このような車両を運転する者は、およそ90度の交差点を横断しない限り、制限速度が時速45マイルを超える道路を横断してはいけません。また、地域当局で許可されていない限り、州内ハイウェイの一部である道路でコントロールされていない交差点を横断することはできません。

こうした車両を運転するときは以下のものが必要です。

- NEVまたはMEVとして登録され、ナンバープレートがある車両
- 有効な運転免許証
- 自賠責保険
- シートベルト、チャイルドシート、その他の安全装置の使用

*モーター付きフットスクーター（MFS）* – MFSには、ハンドルバー、10インチ（約25cm）以下の車輪が2個、ガスまたは電気のモーターがなくてはなりません。運転免許証やナンバープレート、保険は不要ですが、夜間に運転する際は、州パトロール認可の反射板を付ける必要があります。

*認可証がない場合* – どの車両でも、必要な認可証を所持せずに運転した場合、その車両は没収される可能性があります。

*ゴルフカートの運転* – 16歳以上で、運転教習コースを完了しているか、運転免許証を持つドライバーとしての運転経験がある者は、公道のゴルフカート通行許可区域でゴルフカートを運転することができます。免許証を取り消された者は、公道のゴルフカート通行許可区域でゴルフカートを運転することはできません。ゴルフカート通行許可区域は、標識で表示されている必要があります。ゴルフカート通行許可区域で運転するゴルフカートには、シートベルト、バックミラー、反射器が装備されている必要があります。ドライバーは、シートベルトを着用する義務があります。

## 電気自動車充電スタンド

電気自動車充電スタンドに駐車し、車両が充電装置に接続されていない場合には、駐車違反として最低124ドルの罰金が科されます。なお、駐車違反は、公営・民営の電気自動車充電スタンドのどちらに対しても適用されます。

## 通行権

他の車両や歩行者、自転車が安全に通過できるよう、徐行したり、停止しなければならない状況が多くあります。交通を規制する標識や信号がなくても、誰が通行権を譲らなければならない側にあるかを決定する法律があります。学校または遊び場のスピードゾーン標識がある道路上の横断歩道内の歩行者または自転車のための停止や優先を怠った場合、その違反行為に対して規定されている罰金の2倍の罰金が科せられます。

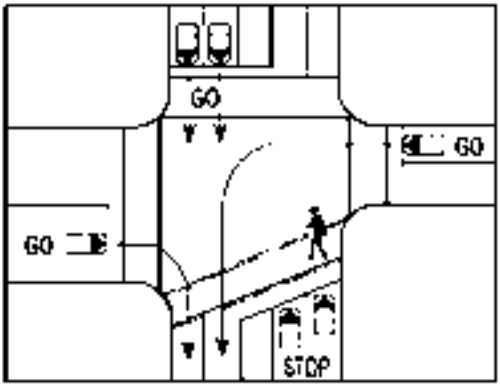
法律では誰が通行権を譲るべきかが規制されていますが、通行権を誰かに与えるものではありません。通行権を譲らないことが、市街地での衝突の1番の原因となっています。状況に関わらず、歩行者あるいは車椅子や自転車に乗っている通行者、または他の車両に衝突するのを避けなければなりません。

歩行者は、自分自身の安全のため、交通の流れに対向して、道路脇を歩きます。ドライバーは歩行者が道路に出てくるかもしれない場合に備えて、道を譲る準備をしておきます。路上に記されている横断歩道、または交差点の路上に記されていない横断歩道以外の場所で道路を横断する歩行者は、車道のすべての車両に道を譲らなければなりません。

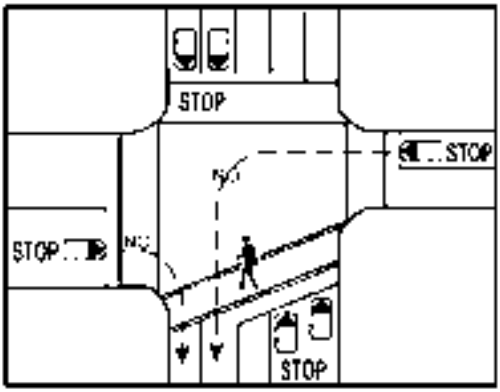
交差点では、以下の通行権の規則が該当します。

- 横断歩道のマークが路上に書かれている、いないにかかわらず、横断歩道や交差点では、歩行者や自転車に通行権がある。横断している歩行者や自転車に衝突しないよう、必要であれば通行権を譲らなければならない。

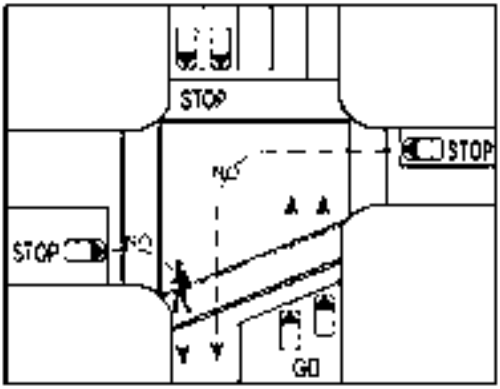
- ドライバーは走行道路上（道路幅の半分で、ドライバーが走行している側）を横断中の歩行者や自転車がいる場合、停止する必要がある。




- ドライバーは、走行道路から1車線以内に歩行者や自転車がいる場合、停止する必要がある。




- ドライバーの走行道路から1車線以上向こう側に、歩行者や自転車がいる場合は進行可能。




- ドライブウェイ、路地、または駐車場への出入りの際に歩道を横切る時は、必ず一旦停止し、歩行者や自転車に通行権を譲る必要がある。そのような出入り以外は、歩道を走行するのは交通違反となる。

- 盲導犬やその他の介助動物を連れていたり、白い杖を使用している歩行者には、絶対的な通行権がある。介助動物の邪魔をしたり、気を散らすことは違法行為となる。歩行者や介助動物を混乱させたり驚かしてしまうため、クラクションは鳴らしてはならない。
- 左折する際は、対向車、歩行者、自転車に通行権を譲る必要がある。
- ラウンドアバウトに進入するドライバーは、すでにラウンドアバウト内を走行しているドライバーと自転車に通行権を譲る必要がある。
- 一旦停止の標識、前方優先の標識、あるいは信号機のない交差点では、ドライバーは交差点内の車両および右側から進入してくる車両に通行権を譲るドライバーは標識の有無にかかわらず、規則に従って横断歩道の歩行者および自転車に譲らなければならない。
- 四方一旦停止では、交差点に最初に到達したドライバーが最初に交差点に進入する（一旦停止した後）。同時に2台以上の車両が交差点に到達した場合は、右側の車両から先に進入する。
- ドライブウェイ、路地、駐車場、道路脇から道路へ進入するドライバーは、その道路をすでに走行中の車両に通行権を譲る必要がある。
- 交差点を通過する途中で停止することになりそうな場合は、交差点に進入してはならない。交差点の通行を妨げないよう、前方の車両が交差点を渡りきるまで待つ。
- 同じ方向に走行中の車両を追い越す場合は、その車両が突然右左折したり、スピードを落としたり、停止したりする場合に備えて、通行権を譲る準備をする必要がある。
- 道路を横断中の電車に通行権を譲らなければならない。電車は車両のために停止することはできない。
- 警察車両、消防車、救急車、またはサイレン、エアホーン、赤あるいは青のライトが点滅しているその他の緊急車両に、通行権を譲る必要がある。どの方向からでも緊急車両の接近が見えたり、サイレンなどが聞こえた場合は、速やかに道路の右端、またはできるだけ右側に近いところに車両を寄せ、停止する。交差点を通行中の場合は、交差点を渡りきってから停止。信号が赤の場合はそのまま動かずに待機。緊急車両のスピーカーから指示が聞こえたら、それに従う。

- スクールバスが赤いライトを点滅して停車している場合は、スクールバスがあなたの車線、反対車線、または進行方向の交差点で停止していた場合でも、停止しなければならない。ただし、赤いライトを点滅して停車中のスクールバスが反対車線にあり、道路が以下の条件に該当する場合は、停止の必要はない。
  - 3車線以上ある道路
  - 中央分離帯がある
  - 物理的に分離されている

絶対に停止しているスクールバスの右側から追い越してはならない。

スクールバスの赤いライトの点滅が止まったら、沿道にいる子供に注意し、子供たちが完全に道路から離れたのを確認するまで発車してはならない。

スクールバスの昇降中には、道路を横断中の子供に怪我を負わせるリスクが増す。また、降車後にバスに戻る子供がいるかもしれないので気をつける。

停車中のスクールバスの追い越しには、2倍の罰金が科せられ、停止中のスクールバスのために停止しなかった場合、罰金の免除、減額、延期は認められない。

- どのような種類の輸送機関車両（バス）であっても、方向指示器を出して道路にもどろうとしている場合は、その車両に道を譲らなければならない。

## 駐車

ドライバーには、駐車した車両が危険な状況を起こさないよう確認する責任があります。駐車の際は、常にあなたの車両が交通の流れの邪魔にならないよう、車両が走行する車線から十分離れた場所、かつどちらの方向からでも良く見える場所に駐車してあることを確認します。

- 可能な限り、常に、駐車用のエリアに駐車する。
- 駐車するときは、常にサイドブレーキをかける。マニュアルトランスミッションの車両はギアが入っている状態にし、オートマチックの車両は「パーキング」の状態にする。
- ドアを開ける前に、必ず他の車両に注意し、可能であれば歩道側に出る。車両のドアを開けるときは、ドライバーと乗客は以下のことを行う必要がある。(1) バックミラーを確認する。(2) ドライバー側のサイドドミラーを確認する。(3) あなたの遠い方の手 (ドアから最も遠い方の手) でドアを開ける。これはオランダで始まった "オランダのリーチ"法と呼ばれている方法で、体を強制的にひねらせ、近づく自転車を察知する。また、車両のドアが開き過ぎるのを防止する。これは自転車を保護するだけでなく、接近している自動車がドアを傷つけたり、裂けたりするのを防ぐこともできる。車から出た後はきるだけ早くドアを閉める。
- イグニッションキーを、駐車中の車内に残してはならない。車両から離れるときは、必ずドアをロックする。
- 16歳未満の子供のみをエンジンのかかった車の中に残すのは違法となる。
- 車道上に駐車する場合は、走行する車両からできるだけ離れたところに駐車する。歩道があれば、できるだけ歩道の縁石に近いところに駐車する。

*駐車禁止ゾーン* – 駐車禁止のエリアは多数あるため、駐車禁止または駐車制限の標識に注意します。歩道の縁石に塗った塗装の色で駐車制限を示すところもあります。以下の場所には駐車してはいけません。

- 交差点内
- 横断歩道の上、または歩道の上

- 自転車専用レーン内
- あなたの車両が、交通の妨げになるような道路工事現場
- 信号機、一旦停止標識、または前方優先の標識から30フィート以内
- 歩行者安全区域から20フィート以内
- 消火栓から15フィート以内
- 踏切から50フィート以内
- 歩道の縁石から12インチを超えるところ
- 消防署のドライブウェイと同じ側にいる場合はそこから20フィート以内、あるいは通りの反対側にいる場合は75フィート以内
- ドライブウェイ、路地、私道、または歩道の縁石を取り除いてあるか歩道へのアクセスのために低くしてあるエリアから5フィート以内
- 橋、高架の上、トンネルの中、あるいは高架の下
- 反対方向の車道
- 障害者ナンバープレートまたはプラカードを所持している場合を除き、障害者用にマークしてあるスペース
- すでに駐車してある車両の道路側の横（二重駐車）
- 線路上
- フリーウェイの路肩（非常時は除く）
- その他駐車禁止標識のある場所すべて

その他の駐車制限は、標識や歩道の縁石の塗装の色で示してある所もあります。

- 白は短時間駐車のみが許可されていることを示しています。
- 黄色または赤は荷積み区域、またはその他の制限があることを示しています。

## 坂道での駐車

坂道で駐車するときは：

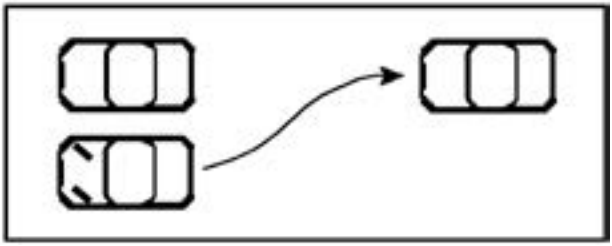
- 歩道の縁石がある上り坂では、サイドブレーキをかけ、歩道の縁石の反対側にハンドルを切る。こうしておけば、万一車両が動いても、歩道の縁石に向って動くため。

- 下り坂では、サイドブレーキをかけ、歩道の縁石に向けてハンドルを切る。
- 歩道の縁石のない坂道では、サイドブレーキをかけ、道路の端に向けてハンドルを切る。こうしておけば、万一車両が動いても、通行する車と反対の方に動くため。

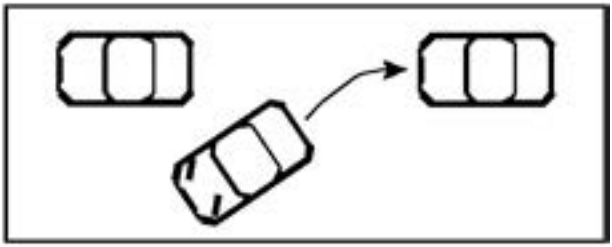
## 縦列駐車

縦列駐車するときは、歩道から12インチ以内のところに駐車します。以下のステップに従って、縦列駐車を行ないます。

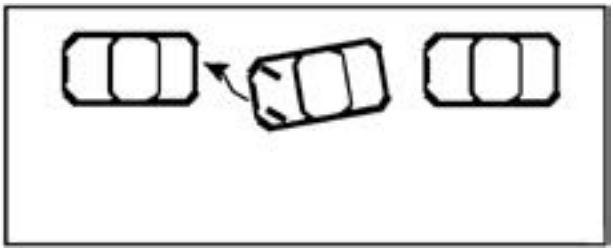
- 前に止まっている車両と並んで停止する。ハンドルを大きく右に切り、後ろの車両に向かってゆっくりバックする。



- 前方に障害物のないことを確認したら、ハンドルを大きく左に切り、後ろの車両に向かってゆっくりバックする。



- ハンドルを大きく右に切り、歩道の縁石に向かって動かし、駐車するスペースの中央に入るようにする。



ID2020
WASHINGTON

# ワシントン州住民のためのREAL IDへの手引き

Real IDは2020年10月1日より施工されます。
詳細はwww.ID2020WA.comをご覧ください。

## Real IDを耳にしたことがあるかもしれません。

2005年に制定された米国の法律では、すべての州に対して、空の旅や軍用基地などの連邦施設への入場の際での新しい身分証明基準の遵守が定められています。

## これに関しワシントンの住民が確認しておくべきことは次のとおりです。

## ID2020

その通りです。Real IDは2020年10月1日から施工されます。詳細は**ID2020WA.com**でご覧いただけます。

# 安全運転のヒント

ドライバー用のマニュアルはどんなものでも、車両の操作方法や、安全なドライバーになる方法を教えることができません。運転には、指示や練習からしか得られない運転技能が必要になります。運転の基本的な情報を以下に示します。

## 発進

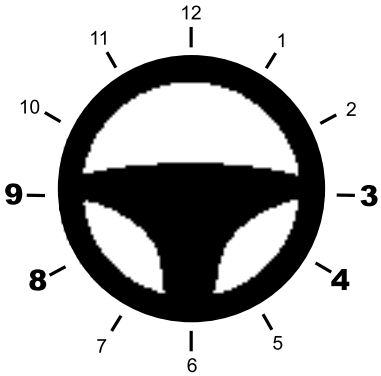
操作マニュアルを参照して、最適な発信方法を確認します。車両を動かす前に、サイドブレーキがかかっていることを確認します。マニュアルトランスミッションの車両では、ギアが入っていないことを確認します。ほとんどの車両の種類によってはで、クラッチを踏まなければなりません。オートマチックトランスミッションの車両では、シフトが「パーキング」に入っている必要があります。

## 加速

徐々に、滑らかに加速してください。急発進すると、タイヤがスピンし、特に路面が濡れているときは横すべりの原因となります。マニュアルシフト車では、加速またはギアをシフトする際に、エンジンが加速しすぎたり、エンストしないようクラッチとアクセルのかみ合いを練習してください。

## ハンドル操作

ハンドルの両側に両手を乗せてください（左手は8時と9時の間、右手は3時と4時の間）。この位置は楽で、高速で走行する道路でもハンドルから手を放さずにハンドルを切ることができます。また、この位置はエアバッグの妨げにもなりません。ドアにもたれたり、窓からひじを出したり、片手で運転したりすると、非常時にすばやく反応しにくくなります。




少なくとも15秒間、車両のすぐ前だけでなく、進行方向のずっと先、道路の左右、後方も見ます。避けた方がいいような交通状況を事前に注意しましょう。歩行者、自転車に乗っている人、他の車両などが見えにくい視界の邪魔になるものに気をつけましょう。ドライバーは、足、タイヤ、影、動きなど駐車中の車に注意を払うことができます。十分に進行方向の先まで見通すことで、予期せぬことが起こる前に可能性のあるあらゆる状況を判断することが可能になります。この方法で、滑らかに、また安全にハンドルを切ることができます。

急カーブを曲がるときは、「ハンドオーバーハンド」（一方の手の上にもう一方の手が来るように）のテクニックを使用します。曲がりきったら、手を添えてハンドルをまっすぐに戻します。手の中をすり抜けるように、ハンドルをひとりでに戻すようにするのは危険です。

## スピード違反と制限速度

スピード違反とは、掲示されている制限速度以上、または状況に対して早すぎる速度で走行していることとして定義されています。安全に運転するために掲示されている制限速度以下に速度を調整する必要のある状況の例として大雨、雪、車道の凍結、霧により視界が利かない場合などが挙げられます。

スピードが増すことで、自分や他人の傷害や死亡につながるリスクが大幅に増加します。ワシントン州では、スピードの出しすぎによる死亡事故が40%以上の割合を占めています。

スピード違反を起こさない一番良い方法は、走行中の速度を把握し、制限速度を知ていることです。速度計を頻繁に確認しましょう。走行中の速度を判断するのは難しく、実際の速度は思っているよりも速くなるのが普通です。特に、高速で走行する道路から、低速で走行する道路に進入したときに、よく見られます。交通、交通制御設備、道路状況に従い、加速、減速、徐行または停止できるよう準備しておきましょう。

制限速度の標識に従ってください。制限速度の標識はあなたの安全を守るためのものです。**他に標識がない場合の制限速度は以下の通りです。**

- 通学路では、時速20マイル
- 市や町の中の通りでは、時速25マイル
- 郡道では、時速50マイル
- 州のハイウェイでは、時速60マイル
- インターステートハイウェイ（州連結高速道路）のいくつかの区域では、これより速い制限速度の標識がある場合がある。

## 停止

自分の車両周辺や目的地までの道のりの交通状況に注意し、意識するようにします。急停車は危険であり、注意を怠っているドライバーがよく急停車しています。交通量のある場所で安全に呈しする方法を認識し、培うことは、習得すべき価値ある技能です。ブレーキを急に踏むと、タイヤがすべって車両をコントロールできなくなります。また、後続車があなたの車両に追突せずに停止するのが非常に困難になります。

急停車を避けるには、十分早めに状況を判断することです。ほとんどの衝突事故は、自分の周辺の交通状況の変化に注意していない場合に起こります。ブレーキを踏み始めるのが早いほど、状況をコントロールできる時間が増えます。減速または車線変更すれば、停止する必要がないかもしれませんし、もし停止する必要がある場合は、より緩やかで安全に停止することができます。

## 良く見えていること

運転中に何をするかは、何が見えるかによります。良いドライバーになるには、周囲をよく見る必要があります。視界がさえぎられたり、車両のコントロールの邪魔になるようなら、前部座席に3人以上乗せて運転してはいけません。衝突事故の最大の原因は、何が起こっているか見ていないことです。車両の前方、左右、後方をよく見て、予測しないことが発生する場合に備え、注意しておきます。夜間や、気象条件により視界が低下しているときは、ヘッドライトをつける必要があります。

あなたの周囲で起きている状況に常に注意を払う必要があります。多くの衝突事故は、ドライバーが運転に十分な注意を払っていないことが原因です。自動二輪車、自転車、歩行者を巻き込んだ事故を起こしたドライバーの多くは、目を向けてはいたが、実際にはそれらが見えていなかったと言っています。

## 注意散漫な運転

注意散漫な運転とは、運転に集中しなければいけないときに、他のものに注意がいってしまう運転を指し、「非注意性盲目」とも呼ばれます。注意が散漫になると、ドライバーや同乗者、他の車両や歩行者などを危険にさらすことになります。注意を散漫にするものには以下が含まれます。

- パーソナル電子機器の使用
- 飲食
- 同乗者とのおしゃべり
- 身づくろい動作
- 地図やナビゲーションシステムなどを読む
- 運転中に動画を見る
- 車の制御装置を調整する

これらの行為のなかには、それ自体が法律に違反するわけではないものもありますが、運転に影響を与え交通法に違反してしまう可能性があることを理解しておかなくてはなりません。

警察官は注意散漫な運転に対する法律違反であなたを停止させ、違反切符を切る場合があります。これらの制限の 1 つまたは複数に違反した場合の罰金額は最低 124 ドルで、衝突事故を起こした場合には

もっと高額になります2 回目以降の違反では 2 倍の罰金が科されます。

危険な注意散漫運転は、ドライバーが高速道路にいる車の安全を損なうようなやり方で実際の車の操作に関係ない行為を行うときに称されます。警察官は、自動車のドライバーを別の交通違反の疑いで停止させたとき、危険な注意散漫運転の違反を 2 次的行為として含める可能性があります。

## パーソナル電子機器

運転中のパーソナル電子機器の使用は特に危険です。このためワシントン州法の法律では運転中のパーソナル電子機器の使用を禁止しています。パーソナル電子機器は、携帯電話、タブレット、ラップトップ、双方向のメッセージ送受信デバイス、電子ゲームを含みますが、この限りではありません。

車両を運転中にパーソナル電子機器を片手、両手または耳で支えて、電子メール、テキストメッセージ、インスタントメッセージ、写真または他の電子データを作成、送信、閲覧、アクセス、ブラウジング、転送、保存、復元するために使用するのは法律に違反します。

ただし、これらの行為は許容される場合があります。

- 違法行為を通報するとき。
- 医療または他の緊急の援助を求めるとき。
- 人や物への被害を避けるとき。
- 認可された緊急車両を運転しているとき。
- 公共または民間の交通機関のドライバーと、ドライバーの配車管理者が車両に取り付けられた取り外しのできない機器を使って情報を伝えているとき。
- 声で操作する、車両に取り付けられた取り外しのできない GPS またはナビゲーションシステムで、使用者が、道路からの視覚的注意を妨げられることなく、どちらかの手を使わなくてもメッセージを送受信できるものを使用するとき。

その他の行為で許容される可能性があるのは：

- 故障車の要請を受けレッカー車を運転しているとき。
- 市民バンドやトランシーバー（無線機）、Federal Communications Commission のライセンスを取得してアマチュアラジオ局を使用しているとき。

機器の起動、または停止、機能の開始のための最低限の指の使用は認められます。代替として、「ハンズフリー」の機器も許容される場合があります。

仮運転免許証やインターメディエイト運転免許証で運転するドライバーは緊急事態が発生している場合を除き（手で持つかハンズフリーかに関わらず）いかなる無線通信デバイスも使用することができません。

## その他の注意散漫な運転に関する法律

テレビ放送を受信できる機器を設置した車両が公道にある時に、その画像がドライバーに見える状態でその車両を運転することはできません。バックする車両のライブ画像は免除されます。

両耳を覆ったり両耳に入るヘッドホンやイヤホンを使用してはいけません。これは、ワシントン州およびその他の多くの州で違法行為であるだけでなく、緊急車両のサイレンやクラクションが聞こえにくくなります。この法規は、ヘッドホンやイヤホンが組込まれたヘルメットをかぶっている自動二輪車や、ハンズフリー携帯電話システムには適用されません。

## 衝突事故と沿道の活動

事故現場やその他の道路脇での出来事を見ようとして減速してはいけません。このような行為は事故につながるおそれがあります。何かを見ようと道路から目を離すと、前の車が減速または止まった所へ追突する可能性があります。また、渋滞がひどくなるおそれもあります。道路脇で上記のような事態が発生しても、道路から目を離さずに、できるだけ早く、また安全にその場を通りすぎるようにします。

注意をそらされるような状況でも、「5D」運転を心がけることにより注意散漫な運転を避けることができます：

- Dangerous（危険）
- Deceptive（惑わされる）

- Destructive（破壊）
- Disabling（障害）
- Deadly（致命的）

## 目視確認

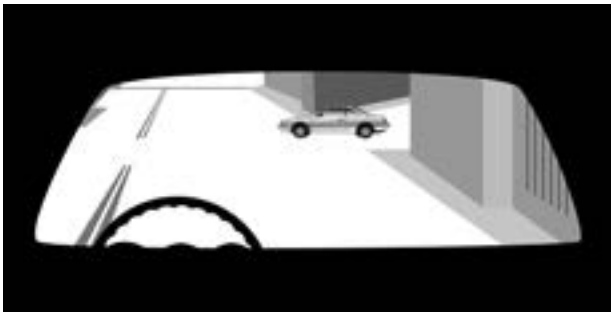
良いドライバーになるには、あなたの車両の周囲で何が起こっているかを認識する必要があります。前方、左右、後方をよく見なければなりません。目視は、前方で起こっている問題や、あなたが現在地から到達するまでの間に前方を通行する可能性のある車両や歩行者、また、前方に問題があることを示す標識や行き先を示す標識などを確認するのに役立ちます。

National Highway Traffic Safety Administration（高速道路交通安全事業団：NHTSA）によると、反応する時間がもう1秒あればすべての衝突事故の80%以上が回避できたであろうとしています。平均的なドライバーは、車の前方をほんの3～5秒のみ見るにとどまっています。少なくとも15秒間目視確認を行えば、早めに重要な情報を収集することができ、問題や危険にもよりすばやく対処することができます。

前方を見る - ギリギリでブレーキを踏んだり、急に曲がったりするのを避けるため、前方を良く見る必要があります。十分先を良く見て、停止や車線変更する準備ができていれば、より安全に運転できる上、ガソリンの節約ができ、一定の速度で交通が流れるようにでき、車両の周囲や道路脇の状況をよく見ることができます。また、ジグザグ運転を避け、まっすぐ走行できるようになります。車両の前方に対し、より明確な視界を得るには、停止または移動している交通状況、赤・青信号、また車道が左右どちらにカーブしているのか、、または坂道の上にいるのかなど目視確認することです。

安全なドライバーは、自分の車両の前方を少なくとも15秒間目視する傾向にあります。数秒でスペースや距離を判断することは、ドライバーにとって重要なことです。数秒で距離を測る能力は、遠方からの問題を解決するのに役立ち、交差点へのアプローチ、カーブ、停止中の交通状況、交通制御、距離の判断、右左折のタイミングをコントロールし、後続しているとき、前方の車との距離を保つのにも役立ちます。15秒の距離とは、15秒間で車両が移動する距離のことです。

- 市内では15秒先を見る。市内では、15秒は1ブロックに相当します。市内を運転するときは、少なくとも1ブロック先を見るようにしてください。



- ハイウェイでは15秒先を見る。ハイウェイでは、15秒は市内での4ブロック、または1／4マイルに相当します。

何秒先が視界に入っているかを知るには、以下の事柄を実行して、数秒の間に車両が移動する距離を判断する練習をしてみてください。

1. 15秒後に車両がどのくらい移動しているか想定する。
2. 道路標識、ポストや電柱など、目印を選び、その目印に到達するまで1秒、2秒、3秒、4秒・・・のように数を数える。
3. 数を数え始める前に想定すること。想定することで、自分の車が数秒間でどれだけの距離を移動するか正確に判断する能力が養われます。
4. この方法で練習することにより、正確性が向上します。

前方をよく見ることで、より安全に運転ができるようになります。急停車や急な方向転換を避けることができます。急停車や急な方向転換が少なくなることにより、衝突したり、衝突されたりする確率がさらに低くなります。

また、急停車するごとに、元の速度に戻るための時間とガソリンが必要になることから、前方をよく見ておくことは、ガソリンの節約にもつながります。停止する状況に徐々に近づくことで、ウィンウィン・シチュエーションに導きます。消費するガソリンの量、タイヤやブレーキシステムのすり減りも少なくてすみ、後続の交通をコントロールする最高のチャンスにも恵まれます。最終的には考える必要なしに自然と行えるようになり、優れた習慣を培うことができます。

ドライバー全員が前方をよく見るようになれば、交通の流れはスムーズになります。早めの減速や車線変更などをすることによって、後続のドライバーは少し余裕をもって反応できるようになります。より早目に行動をとっておけば、後続のドライバーが、あなたの車両の動きに即座に反応する必要が減少するのです。前方を目視確認することで、移動先にある問題や危険を判断することができ、リスクを最小限に抑えるために車線変更、速度調整など最適な行動を選択することができます。

*左右を見る* – 他の車両や歩行者、自転車がいつあなたの進路を横断または進入してくるかはわからないので、誰も横から進入してこないか、左右をよく見る必要があります（最も多いのが4秒目視範囲）。交差点や踏切では特に注意します。ドライバーが踏み切りや交差点のある4秒目視範囲内に進入したときが、15秒の範囲での判断を評価するときです。速度のコントロール、車線の位置、コミュニケーションに対する判断が最適なものであるかドライバーが判断する時間があります。

*交差点* – 交差点とは、2つ以上の車道が、交差する場所を指します。交差点には信号や標識で制御されているもの、制御されていないものなどさまざまな形態があります。すべての交差点で衝突の確率が高くなります。自分の右、左、前方、後方といったあらゆる方向で衝突が発生する恐れがあります。すべての交差点で積極的に目視確認を行い、スペースに進入する前に速度、車線の位置、またはその両方を調整する準備を整えてください。交差点には、交差する道路、ラウンドアバウト、交通静鎮用円形交差点、歩道、ドライブウェイ、ショッピングセンターまたは駐車場入り口なども含まれます。

米国では、毎年すべての衝突事故の30%以上が交差点で発生しています。交差点に進入する前に、常に左右を見て車両、歩行者、または自転車が接近して来ないか確認します。ただ通行権があるからといって、通行権が与えられているわけではありません。停止している状態からは、前進する前に左右をよく見ます。交差点短を横断する前に停止している場合、完全に横断するためのスペースがあることを確認することで、停止しなければならない場合に、交差点の流れを妨げずに済みます。

対向車線を越えて右/左折する場合、最低100フィート手前で左折の方向指示器をつけます。対向車の交通が、安全に左折するために十分に途切れたことを確認します。左折して進入する道路を見て、車や歩行者、または自転車がいないことを確認します。自転車専用レーンのある通りにいる場合は、自転車に乗っている人がいるかどうか後方を確認してください。自転車はあなたが気づくよりも速く接近しているかもしれません。右折や左折を安全に実行する時間があるかどうかも確認してください。

一旦停止の後、禁止されていなければ、赤信号でも右折できます。また、禁止されていない限り、一方通行路または両方向道路から一方通行路へ左折することができます。

信号機や標識が、前方を横切る車両や歩行者がいないと示していても、それを当てにしてはいけません。ドライバーの中には、信号機や標識に従わない人もいます。交差点では、赤信号や一旦停止の標識があっても、必ず左右を確認します。特に赤信号が青に変わったとき、交差する道路のドライバーの中には信号が赤に変わる前に急いで交差しようとする人もいるので、この左右の確認が大切になります。

交差点に進入する前に、交差する道路の交通状況がよく見えることを確認します。停止していて、交差する道路が何かにさえぎられてよく見えない場合、見えるようになるまで、ゆっくりと前進します。ゆっくり前進することによって、交差する車両のドライバーは、あなたからそのドライバーが見えるよりも先にあなたの車両が見えるようになります。そして必要に応じて交差するドライバーは減速したり、あなたに警告したりできます。

道路沿いに大勢人がいるときは、その中の人が道路を横断したり、道路に出たりすることが考えられます。そのため、ショッピングセンター、駐車場、工事現場、人通りの多い歩道、遊び場や公園、運動場 の近くでは、4秒目視確認範囲内の左右の確認が大切です。

*踏切* – 踏切に近づいたら、減速して、どちらの方向からも電車が接近していないことを確認します。踏切を渡るのが安全かどうか、確かでないときは、ラジオは消すかボリュームを低くする、会話を中断する、窓を開けて電車が来るか目や耳で確認するなどをします。前方の車両が踏切の向こう側に渡りきれる十分なスペースができるまで、踏切を渡り始めてはいけません。踏切内で停止しなくても済むように、踏切の向こう側に渡りきれる十分なスペースができるまで待ちます。

複線の踏切では、通過中の電車が踏切から十分離れるまで、踏切に進入するのを待ちます。ちょうど通過した中電車の陰に別の電車が隠れてしまうことがあります。

*後方を見る* – 車両の前方を見るだけでなく、後方にも注意します。交通量の多いときは、より頻繁に後方を見てください。こうすることで、車間距離を十分取らずに後続する車両や、後方から急速に接近する車両がいるかどうかが分かります。また、それに対して車線を変更したり、ブレーキを踏んだり、加速または減速するなど、取るべき措置を考える時間を持つことができます。車線変更、自転車専用レーンを横切る、減速、バック（後進）する場合、また長い坂や急な坂道では特に、後続車に注意が必要です。

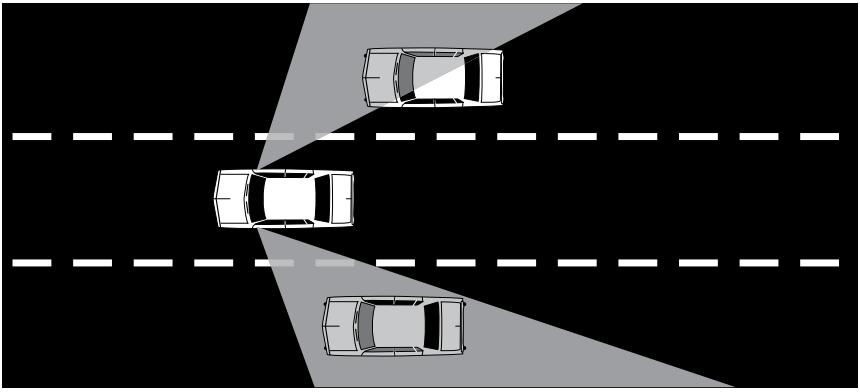
*車線変更* – 車線変更をする前に、進入先の車線に車両がないことを確認する必要があります。つまり、車線変更の前に、あなたの車両の横、後方、そして「死角」を必ず確認しなければなりません。車線変更とは、1つの車線から別の車線に移ること、入り口ランプから道路に合流すること、歩道の縁や路肩から車道に進入することなどを意味します。

車線変更時には、以下のことを行います。

- 移動する方向の方向指示器をつける。
- バックミラー、サイドミラーで確認する。あなたが進入しようとしている車線に車両がないこと、誰もあなたを追い越そうとしていないことを確認する。
- 進入しようとする方向の後ろを振り返り、あなたの車両の後端のそばに誰もいないことを確認する。ここはミラーでは見ることができない「死角」であり、死角に入っている車両、自転車または歩行者の有無を確認するには、首を回して見る必要がある。

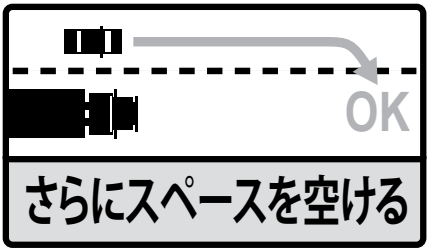
- すばやく確認する。前方の道路から目を離すのは、一瞬のみにする。あなたが前方から目を離して左右、後方、肩越しに見える車両を確認している間に、前方の車両が急停車することがあります。また、車線変更、合流、あるいは道路脇から車道に進入する準備をしながら、ミラーで交通の流れを確認する。この方法により、前方の車両にも、同時に注意を払うことが可能。車線変更をする前に、交通の死角を確認する。必要なら数回確認しますが、1回あたりの時間を取りすぎない。常に前方の交通と、変更先の車線の交通の動きを把握しておく必要がある。
- 離れた車線に注意する。1車線以上ある場合は、離れた車線も確認する。その車線内の車両が、あなたが移動しようとしている同じ車線に進入してくるおそれがある。
- その他の道路利用者にも注意する。自動二輪車、自転車、歩行者も道路を通行しており、それらは自動車やトラックと比べて見えにくいことを念頭に置く。歩道の縁やドライブウェイから車道に進入する際には、特に注意する。

死角



死角

- 大型トラックや商用車両は、普通乗用車に比べて長めの停車距離がある。商用車両とあなたの車両が合流する場所との間には通常以上のスペースを確保し、商用車両が急停止する必要に備える必要がある。商用車両の前に進入しようとする場合は、時速10マイルごとに車両1台分のスペースを設けることが奨励されている。




*減速* – 減速する際は、常に後続の車両に注意します。急な減速をしたり、ドライブウェイや駐車場など、後続のドライバーがあなたが減速するとは思わないような箇所で減速するときに、特によく注意します。

バック – **バック**は日常よく使し、駐車場や車の多い通りなど混雑した場所でも頻繁に行います。、。安全にバックするために以下のことを心がけます。

- 車に乗り込む前に、後方を確認する。子供や小型の物体などは、運転席からは見えづらい。
- 右腕を席の背に回し、後ろを向いて、直接リアウィンドウから後方が見えるようにする。車両の真後ろにあるものを確認するのに、バックミラーやサイドミラーのみに頼らない。
- ゆっくりバックします。バックする際は、ハンドルが切りにくいので注意する。歩道を横切るバックや、バックしながら道に入っていくときは、バックの前に一旦停止する必要がある。左右を見て、歩行者、自転車、車両に道を譲る。
- できれば、外に立っている人に手伝ってもらう。

*下り坂の運転* – 坂道や山道を下る際は、ミラーで確認する。急な坂道では、下り坂では車両の速度は増しやすくなる。速度を調整したり、減速する準備をし、速度が出過ぎているような大型トラックやバスに注意する。

## ライトの使用

法律により、日没後30分後から日の出の30分前までの間、車両のヘッドライトを点灯させる必要があります。また、通行者や他の自動車が見づらいときは、常にライトを点灯させなければなりません。視界を良くするためにできることを、以下にいくつか紹介します。

- 対向車がないときは、ハイビームにする。ハイビームを使用すると、ロービーム時の2倍の距離が見えるようになる。ハイビームは、よく知らない道路、工事現場、または道路沿いに人がいるようなところで使用することが重要。
- 対向車が500フィート以内に接近したら、ハイビームに下げる。
- 他の車両を300フィート以内で後続している際は、ロービームを使用する。
- 霧が出ているとき、雪や雨の激しいときは、ロービームを使用する。ハイビームの光は、反射し返してギラギラし、前方が見えにくくなる。フォグライトがある場合は、視界が悪いときに使用。

対向車がハイビームをつけて接近してきたら、対向車が通り過ぎるまで、ヘッドライトから目をそらし道路右側を見るようにします。こうすると、対向車のヘッドライトで一瞬目が見えなくなるのを避けることができ、道路の端が見えるので、道路から落ちずに走行を続けることができます。「対抗」して、ハイビームを使用してはなりません。お互いにまぶしくて前が見えなくなってしまうおそれがあります。

## 他のドライバーに自分の存在を知らせる

衝突事故は、あるドライバーが別のドライバーを見ていなかった、あるいはあるドライバーが他のドライバーが予期しない行動をとってしまったために、発生することが多いです。ドライバーは、他の道路利用者に対して、自分の存在と、以下に何をしようとしているかを知らせるのが重要です。ヘッドライト、ブレーキライト、クラクション、緊急信号、車線の位置、車両の速度などを使用して、自分の意図を知らせます。

ドライバーの中には、周囲で何が起こっているのかに注意を払わない人もいるので、あなたが走行していることを知らせることが重要です。

*ヘッドライトの使用* – ヘッドライトは夜間の視界を良くしてくれる他に、周囲に対しあなたの存在を知らせることもできます。他の車両が見えにくい時はヘッドライトをつけます。

- 雨、雪、霧のときは、他のドライバーからあなたの車両が見えにくいことがあるため、このようなときは、ヘッドライトを使用すると見えやすくなる。ワイパーを使用する時は、ヘッドライトもつけることを覚えてください。
- 外が暗くなってきたら、ヘッドライトをつける。ヘッドライトをつけるのが少し早くても、他のドライバーからあなたが見やすくなる。
- 運転中にライトが必要なら、ヘッドライトをつける。パーキングライトは駐車している車両専用。
- 日の出や日没時の太陽を背にして運転しているときは、対向車のドライバーからあなたの車両が見えにくくなることがあるため、そのような時はヘッドライトをつける。
- 夜間に道沿いに停止するときは、緊急点滅灯とロービームをつける。

*クラクションの使用* – あなたの方を見ていない限り、その人にはあなたの車両は見えません。クラクションで注意を引くことができます。事故防止に役立つときは、クラクションを鳴らします。もし即座に危険につながらない場合は、クラクションを軽く鳴らすのみで十分です。クラクションは以下のような場合に軽く鳴らします。

- 歩行者や、自転車に乗っている人が、あなたが走行中の車線に進入してきたとき
- 他の車両を追い越そうとしたら、その車両があなたの車線に進入しようとしたとき
- 他のドライバーが注意散漫になっていたり、あるいはあなたの車両が見えにくそうなとき
- 急な坂道、急カーブ、または細い路地からの出口など、前方に何があるか見えにくい場所に近づいたとき

以下のような危険な状況では、おそれずにクラクションを大きく鳴らします。

- 子供やお年寄りが歩いたり、走ったり、自転車に乗ったりして道路に出てきそうなとき

- 他の車両があなたに衝突しそうなとき
- あなたが車両のコントロールを失い、誰かに向かってしまっているとき

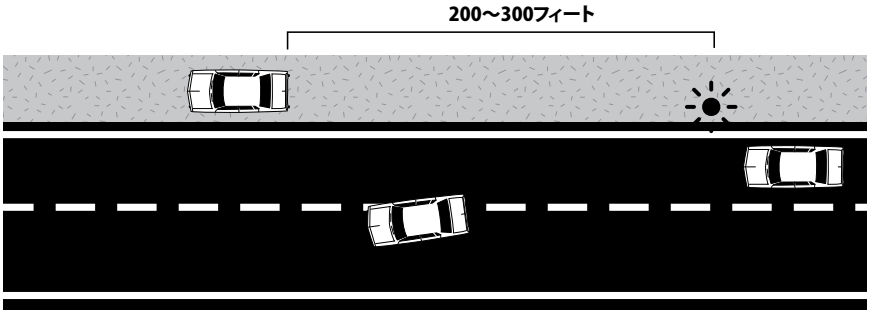
*クラクションを鳴らさない* – 以下のような状況では、クラクションは鳴らさない方が無難です。

- 他のドライバーに加速するよう促したり、道を譲るよう促すとき
- 他のドライバーのミスを知らせるとき
- 友人に挨拶するとき
- 盲人歩行者の周り
- 自転車を追いこすとき
- 馬に接近しているとき

*緊急信号の使用* – ハイウェイであなたの車両が故障した場合は、他のドライバーに必ずそれを知らせます。衝突事故の多くは、他の車両がエンストを起こしたことに気付かずに、手後れになるまで停止できなかったことが原因になっています。

可能であれば、送受信両用無線機または携帯電話で、緊急対応機関に、あなたの車両または他の車両が故障したことを知らせます。多くの道路には、緊急連絡時にかけるべきCBチャンネルまたは電話番号を示す標識があります。車両が故障して停止する必要がある場合は、以下のように対処します。

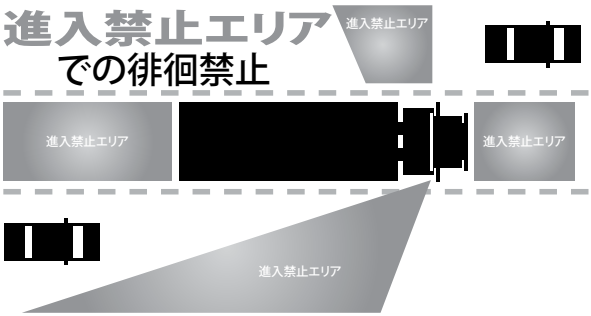
- 可能な場合には、道路脇に車両を寄せ、走行する車両からできるだけ離れる。
- 非常灯をつけ、車両が故障したことを知らせる。夜間の場合は、ヘッドライトもつけたままにしておく。
- 道路脇に車両を寄せることができない場合は、他のドライバーからよく見える場所に停める（上り坂を越えた直後や、カーブをすぐ曲がった所には停めてはならない）。
- 他の道路利用者に、あなたの車両が停めてあることを警告する。車両から200～300フィート後ろの路上に緊急発火装置（緊急用フレア）を置くことによって、他のドライバーは必要に応じて車線変更することができる。




- 緊急発火装置またはその他の警告装置がないときは、道路脇の安全な場所に立って、他のドライバーがあなたの車両を避けて通過するよう、手を振って合図する。
- 路上には決して立たない。車両が走行する車線内にいなければならない場合は、タイヤの交換をしない。
- ボンネットを開けるか、アンテナやサイドミラー、ドアのハンドルに白い布をくくりつけて、緊急事態を示す。

*死角を避ける* – 他のドライバーがあなたの車両を見えるところから運転し、他の車両の死角になるところは運転しないようにします。

- 他の車両の横やすぐ後ろを運転しない。このような位置は、他のドライバーの死角になる。加速または減速して他のドライバーからより見えやすい位置に移動する。
- 追い越しをするときは、できるだけ早く、他のドライバーの死角から出る。他の車両のドライバーの死角に長くいればいるほど、その車両があなたにもたらす危険性が高くなる。
- トラックやバスなどの大型車両の横を長時間走行してはならない。そのような大型車両の死角の範囲は大きい。




トラックと道を安全に共有

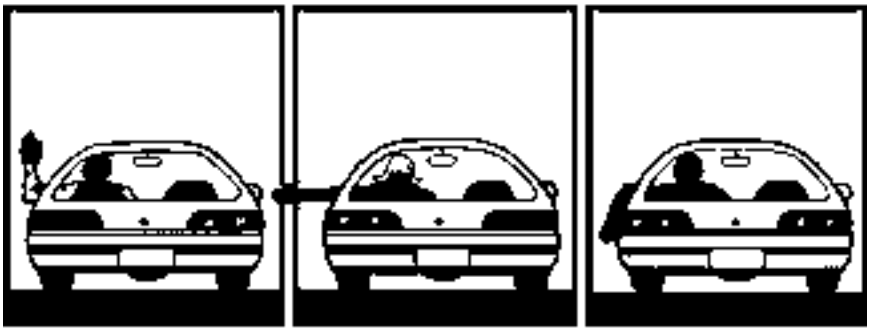
## 行動を知らせる

ドライバーは一般的に、他の車両は現状維持の運転をすると思うものです。方向転換あるいは減速する際には、それを警告しなければなりません。そうすることで、自分が意図していることを他のドライバーに知らせることができ、必要に応じて、他のドライバーに反応する時間を与えることができます。

*方向転換の際に方向指示器を出す* - 方向指示器を出すことによって他のドライバーに反応する時間を与えることができます。方向指示器は、車線変更、右左折、合流、または駐車の前に出します。

- 方向変換の際は、毎回方向指示器を出す癖をつける。他に車両が走行していなくても、方向指示器を出す。あなたが何をしているかを確認する必要がある人に、気付かずに走行してしまうことがよくあるため、
- 少なくとも右左折などをする100フィート手前で方向指示器を出す。
- あなたの車両とあなたが方向転換したい箇所の間で、他の車両もその道路へ進入しようとしたら、その車両を通過してから指示器を出す。指示器を早く出しすぎると、そのドライバーのいる所にあなたが右折や左折をするものと誤解してしまい、あなたの車線に進入してくるおそれがある。
- 右左折または車線変更をしたら、方向指示器が消えていることを確認する。方向転換が小さい場合、指示器が自動的に消えないことがある。右左折が完了した後、指示器が自動的に消えていない時は、手動で消す。消さない場合、他のドライバーは、あなたがまた方向転換をするものと考える。
- ハンドシグナルは、運転する車両の方向指示器が他のドライバーから見えない場合に使用する必要がある。

右折　　左折　　一旦停止または減速



*減速するときの合図* – ブレーキライトは、他のドライバーに減速することを知らせます。安全を確認して、常にできるだけ早く減速します。他のドライバーが予期しないような場所で減速や停止をする場合は、ブレーキを3、4回軽く踏んで、減速することを後続車に合図してください。

以下のような場合に減速するときは、合図をします。

- 右左折専用車線や出口用車線がない道路で、右折や左折をするとき。
- 交差点のすぐ手前で駐車したり、右折や左折をするとき後続車のドライバーは、あなたが交差点に進入するものと思っています。
- 後続車からは見えない路上の物体や、停止あるいは減速している交通を回避するとき。

## 道路の状態に合わせる

速度が出ていればいるほど、方向転換、減速、あるいは停止により長い距離が必要です。たとえば、時速60マイルから停止するには、時速30マイルと比較して3倍の距離が必要です。安全運転とは、制限速度を守り、道路や交通状況に合わせることを意味します。

運転していると、安全を維持するために減速しなければならない道路状態が多くあります。たとえば、急カーブの前や、路面が濡れているとき、路上に水溜まりができているときなどは減速する必要があります。

あなたの車両で路面に接触しているのは、タイヤのみになります。路面に対するタイヤの粘着摩擦の質は、タイヤおよび路面の状態と種類によって変化します。

ドライバーの多くが、タイヤや路面の状態にあまり注意を払っていません。タイヤの状態がよく、十分空気が入っていることが重要になります。車両の操作マニュアルを確認して、適切なタイヤ圧力を調べます。

砂利道や舗装されていない道路では、コンクリートやアスファルトの道路よりも静止摩擦が少なくなります。砂利道や舗装されていない道路で運転する際は、減速する必要があります。このような道路では、方向転換の際に大変横すべりしやすくなり、停止するのにずっと長い距離を必要とします。

*カーブ* – 車両は、カーブよりも直線の道路で、より速く走行することができます。カーブでは、速度を出しすぎるのは容易ですが、加速しすぎるとタイヤが道路をグリップしにくくなるため、車両が横すべりを起こしてしまいます。カーブに入る前にはいつも減速して、カーブで急ブレーキを踏まないようにします。カーブで急ブレーキを踏むと、横すべりを起こすおそれがあります。

*路面がすべりやすいとき* – 雨、雪あるいは凍雨が降り出したら、すぐに減速します。このような気象条件の時は、路面の危険やリスクがさらに増します。。路面がすべりやすくなると、タイヤは乾いた状態のときとは異なり、路面をグリップしにくくなります。濡れた路面なら、時速約10マイルほど減速します。押し固められた雪の上では、速度を半分に落とします。路面に雪が積もっているとき、および標識で装着が義務付けられている時はいつでも、スノータイヤあるいはチェ―ンを装着します。路面が凍結している場合は、徐行します。凍結した路面での運転は非常に危険です。

可能であれば、路面が凍結しているときは、運転しないようにします。ワシントン州では、冬の間スタッドタイヤの使用は合法となっています。引き込み可能なスタッドが付いたタイヤは1年中使用できますが、スタッドは：

- 11月1日から3月31日までの間のみ使用可能。
- 使用しないときはタイヤの磨耗バーの下に引き込まなければならない。

一定の時間や箇所で、路面がすべりやすくなる道路もあります。すべりやすい道路を見つけるのに役立つヒントをいくつか挙げます。

- 気温が低く、雨や雪の降っている日は、陰になっている場所が凍結しやすい。このようなところは、他の場所よりも一番早く凍結し、一番遅くまで氷が溶けない。
- 高架やその他の橋の類には、凍結しやすいスポットがある。他の車道では凍結していなくても、橋の上の車道はよく凍結する。これは、橋の上の道路は、その下に土壌がないため、寒さに対する保温作用がないため。
- 気温が氷点に近づくと、氷は溶けはじめて、気温が氷点よりずっと低いときよりも、すべりやすい危険な状態になる。
- 暑い日に雨が降り出すと、最初の数分間、車道はとてもすべりやすくなる。熱でアスファルトのオイルが表面に染み出してくるため、雨でオイルが洗い流されるまで、路面はとてもすべりやすくなる。

*路面に水があるとき* – 雨が降っていたり、路面が濡れていたりする場合、時速35マイルまでは、ほとんどのタイヤで静止摩擦がよく得られます。しかし、速度を上げるにつれ、タイヤはまるで水上スキーのように、溜まった水の表面に上がってきます。これは、「ハイドロプレーニング」と呼ばれる現象です。強い雨が降っている場合、タイヤは時速50マイルで路面との摩擦を失います。表面がつるつるなタイヤや、擦り減ったタイヤではさらに低速で路面との摩擦を失います。ハイドロプレーニングを防ぐには、路面が濡れているときに減速することが最善の方法です。

タイヤと路面との接触コントロールを失ったと感じる場合は、以下のことを実行してください。

- アクセルの踏み込みを軽くする。
- ハンドルをまっすぐに保つ。方向転換は、緊急時のみ。どうしても方向転換しなければならないときは、ゆっくりと向きを変え、横すべりを避ける。
- タイヤが再び路面との接触コントロールを得るまで、停止や方向転換しない。

## 交通の流れに合わせる

2台以上の追突事故は、同じ道路を走行中の他の車両よりも速度が出過ぎているか、または低すぎるときによく発生します。車道の状況により、時間を作り、自分の車両の周囲にスペースを空けることでリスクを軽減し、危険を回避します。その際、必要に応じて、速度のコントロール、車線の位置の調整、またウィンカー、ヘッドライト、ハンドシグナルなど最適なコミュニケーション方法を使用します。

*交通の流れに合わせてペースを保つ* – あなたの車両が他の車両よりも速く走行していたら、そのまま追い越しを続けることになるでしょう。しかし、追い越そうとする相手の車両が突然車線を変更したり、2車線の道路で急に対向車が現われたりすることがあります。減速して、他の車両とのペースを保ってください。

他の車両よりずっと低速で走行するのは、速度を出しすぎるのと同じくらい危険です。後続車が数珠つなぎになり、他のドライバーがあなたを追い越す原因を作ってしまいます。

速度を上げるか、低速で走行できる他の道路を利用するようにします。追越しが危険な2車線道路で低速度車両を運転している際、5台以

上の後続車が数珠つなぎになった場合は、後続車が安全に追い越せる場所で道路の端に停止する必要があります。

*合流して道路に進入する* – 合流するときは、方向指示器を出し、道路を走行中の車両と同じスピードで道路に進入します。通常、高速で走行できる道路にはランプがあり、合流に備えて速度が上げられるようになっています。ランプの終わりまで来て停止すると、他の車両の走行速度に達することはできません。さらに、後続のドライバーは、あなたが停止するとは予測しないので、後部に衝突してくるかもしれません。幹線に合流するためのスペースが空くのを待つ必要がある場合は、合流する前に加速できるよう、ランプの途中で減速します。

*幹線道路から出る* – 幹線道路走行中は、他の車両の速度に合わせます。その道路に出口ランプがあれば、出口ランプに到達するまで減速してはいけません。高速の2車線道路から出る際は、後続する車両があるときは急に減速しないようにします。ブレーキを軽く踏んでから、速くかつ安全に減速します。

*低速走行の車両* – あまり速く走行できなかったり、または他の車両の速度についていけない車両もあります。このような車両を早めに察知すれば、安全に車線変更したり、減速したりする余裕ができます。急な減速は、事故の元になります。

- 大型トラックや小型の低馬力の車両が、急な坂道を走行していたり、あなたが走行する道路に合流してくる時には、注意する。このような車両は、長い坂道や急な坂道では速度が出ず、車線に合流する際には他の車両の速度に合わせるための加速に時間がかかる。農耕用トラクター、家畜牽引車、および道路工事用車両は、通常時速25マイル以下で走行する。このような車両の後部には、低速走行車であることを示ステッカー（オレンジ色の三角形）を貼らなければならない。

*混雑する場所* – 歩行者や車両が集まるところでは、混雑を回避するスペースも制限されます。以下のような場所では、減速する必要があります。

- *ショッピングセンター、駐車場、およびダウンタウン* - このような場所は、車両や歩行者が止まったり、前進したり、いろいろな方向に向きを変えたりする、通行の激しい場所。
- *ラッシュアワー* - ラッシュアワーの間は、交通量が増え、ドライバーはこぞって急ぐため減速する。

- *幅の狭い橋やトンネル* - 対向する車両との間隔が狭くなる場所。
- *通行料金支払所* - 車両は車線変更をしたり、停止の準備をし、料金支払後は再び加速する。支払所を通過する前後は車線の数が変わることがある。
- *学校、遊び場、公園および住宅地* - このような子供が多く見られる場所。子供が左右を確かめずに道路を交差したり、飛び出したり、自転車に乗って道路に進入してくることがあるので、常に注意する。
- *踏切* - 踏切は注意して渡ること。列車の接近音が聞こえない場合がある。遮断中の踏切遮断機周辺には近づかないこと。一方から電車が近づいてくるときに、「度胸試し」として踏切を渡ってはならない。列車は車両のように急停止できない。
- *工事区間* - 速度を落としてオレンジ色の警報標識に注意を払う。減速や渋滞を予期し、工事現場の人の指図に従う。たいていの工事区間での衝突事故はスピードの出しすぎや注意散漫な運転が原因である。工事区間での罰金は2倍になり、作業員や他のドライバー、建物を危険にさらすことになる恐れがあり、60日間の免許停止処分の対象になる。

## 周囲がどれほどよく見えているか

あなたの走行路になにか障害物があり、停止する必要がある場合、停止できるように、その障害物が確認できている必要があります。停止には、一般的に考えられているより、もっと距離と時間がかかります。車両のタイヤとブレーキが良い状態にあり、車道が乾いている場合、以下のようになります。

- 時速50マイルでは、物体に気づき、停止するまでに約400フィートが必要である。これは市内のおよそ1ブロック間の距離に相当。
- 時速30マイルでは、気づいてから停止まで200フィートが必要である。これは、市内のおよそ半ブロックに相当。

つまり400フィート前方が見えていなければ、時速50マイルでは安全に走行できないことになります。200フィート前方が見えていなければ、時速30マイルでは安全に走行できないことになります前方に物体が見えた時には手後れになり、衝突を避けられないおそれがあります。

以下に、あなたの周囲がよく見えなくなるような物や状況、またその場合の安全運転のヒントを挙げます。

*夜間* – 夜間はあたりが見えにくいものです。日中と比べて、夜間は、物体に接近するまで見えない場合があります。ヘッドライトで照らして見える距離内で停止できるようにする必要があります。ヘッドライトをつけると、およそ400フィート先まで見えます。この距離内で停止できる速度、もしくはおよそ時速50マイルで運転する必要があります。

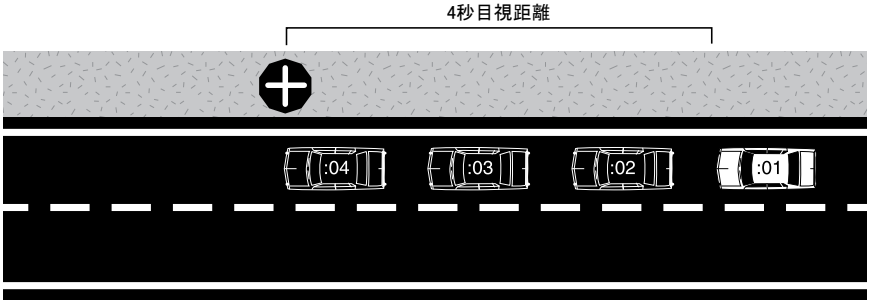
*雨、霧または雪* – 大雨、吹雪、あるいは濃い霧になったときは、およそ200フィート以上先が見えない場合があります。それ以上先が見えないときは、時速30マイル以上では安全に運転することはできません。土砂降りのときは、視界が悪すぎて運転できない場合があります。このような場合は、道路脇の安全な場所に停車し、雨が止むまで待ちます。

*坂道やカーブ* – 坂道やカーブでは、たとえその道を何度も走行したことがあっても、その向こう側に何があるかわかりません。坂を越えたところやカーブの向こう側に、エンストした車両が停まっていたら、あなたは停止しなければいけません。向こう側に何があるかわからないような坂道やカーブでは減速して、必要なときに停止できるようにします。

*駐車中の車両* – 道路脇に駐車してある車両によって、あなたの視界が妨げられる場合があります。また駐車してある車両から、もしくは駐車してある車両と車両の間から、人が出てくるかもしれません。駐車してある車両との間には十分スペースを取ってください。

*視距離のルール* – 常に安全に停止できる速度で運転します。さまざまな状況において、速度を出し過ぎているかどうかを知るには、「4秒目視距離ルール」を実行します。前方がはっきりと見える距離内の、一番遠くに静止している物体（標識や電柱など）を目印にします。以下に、1秒、2秒、3秒、4秒のように数を数えます。4秒と言い終わる前に、目印の物体のところに到達したら、減速する必要があります。視距離の規則に対して、速度を出しすぎているからです。4秒目視距離ルールによって、継続的なベースの内外でドライバーに影響を及ぼす数え切れないほどの危険な瞬間に対処することができるようになります。

また、4秒目視距離ルールは夜間にも実行し、ヘッドライトで照らした距離以上に速度を出さないよう注意します。




*制限速度* – 制限速度に従う必要があります。制限速度は、道路の設計や道路を通行する車両の種類に基づいて設定されています。突然車が飛び出してくるような路地やドライブウェイなどドライバーから見えない状況や、交通量も考慮に入れられています。

提示されている制限速度は、理想的な状態であることを忘れないでください。路面が濡れていたり凍結している場合、周囲がよく見えなかったり、あるいは交通渋滞がおきている場合には、減速する必要があります。このような状況においては、たとえ標識上の制限速度で走行していてもスピード違反切符を切られることがあります。

## 追い越し以外右車線走行

車道で複数の車線が同じ方向に向かっている場合、追越するときを除き、右車線を走行するよう法律によって義務付けられています。追い越しを意図せずに一番左の車線を走行することは危険です。他のドライバーをいらだたせ、「路上での怒り」や攻撃的な運転行動を誘発する恐れがあります。

## スペースを共用する

道路は、常に他人と共用する必要があります。あなたと他の人の間に、距離を置けば置くほど、非常事態に反応する時間が持ています。このスペースは安全クッションみたいなもので、スペースが広いほど、より安全に走行することができます。このセクションでは、運転中に十分なスペースを確保する方法を説明します。

## 前方のスペース

後部追突は、たいへん頻繁に発生します。先行車との車間距離が短すぎると、先行車が急に減速したり、停止した場合、衝突を回避するために必要な時間が十分にとれません。時速30マイル以下で運転しているときは、車間距離が2～3秒あれば十分かもしれませんが、それ以上の速度で運転している場合は、4秒ルールを使います。車間距離を4秒に保つことで、視線が向上し、危険やリスクを回避するためにさらに時間をかけることができ、他の車両、気象条件、予期せぬ緊急事態や状況から生じる可能性のある走行中の問題に対処するためのアイデアが浮かぶことがあるかもしれません。

- 先行車の後部が標識、電柱、またはその他の静止している物体を通り越すところに注意する。
- あなたが、その物体に到達するまでの秒数を数える：1秒、2秒、3秒、4秒。数え終わる前に、あなたがその目印を通過したら、先行車に接近しすぎている。
- その場合は減速し、別の目印を使って秒数を数えて、新たに前方の車間距離を調べる。4秒以内で後続しなくなるまで、このステップを繰り返す。

場合によっては、前方にこれ以上の車間距離が必要になることもあります。以下のような状況においては、安全運転のために、車間距離をより長く取る必要があります。

- *すべりやすい路面* – すべりやすい路面では、停止するまでにもっと距離が必要なため、前方の車間距離をより長く取る必要がある。先行車が急停止したときに、安全に停止できるように余分な車間距離が必要である。
- *後続の車があなたを追い越そうとする場合* – 減速し、前方に距離を開ける。減速することによって、後続の車の追い越しが早く完了する。
- *自動二輪車や自転車の後ろを走行しているとき* - 自動二輪車や自転車が転倒したら、そのライダーを避けるために、余分な距離が必要である。濡れた路面、凍結した路面、砂利道、あるいは橋、すのこ状の鉄板、路面電車や普通電車の線路などの金属の表面を走行するときは、転倒する確率が最も高い。

- *あなたの車両が見えないドライバーの後ろを走行するとき* – トラック、バス、バン、あるいはキャンピングカーやトレーラーを牽引する車両などのすぐ後を走行していると、そののドライバーからあなたの車両が見えない場合がある。また、あなたが後続しているのを知らずに、急停車する可能性がある。大型車両は、あなたの走行する前方の視界を妨げるため、車間距離を大きく取ると、前方がよりよく見える。
- *載物が重いとき、またはトレーラーを牽引しているとき* – 余分な重量のため、あなたの車両が停止するまでの距離は長くなる。
- *前方がよく見えないとき* – 夜間、悪天候、大型車両などにより前方がよく見えないときは、前方の車間距離をより大きく取る必要がある。
- *後続車があなたに接近しすぎている場合* – 後続車が接近しすぎている場合は、車間距離を広げようにする。そうすると後部に追突されずに停止することができる。
- *緊急車両の後ろを走行しているとき* – 警察車両、救急車、および消防車の運転には、さらにスペースが必要である。消防車の後ろには最低500フィートの距離をおく。
- *踏切に接近しているとき* – 踏切では、公共バス、スクールバス、または危険物積載車両など、踏切で一旦停止をしなければならない車両の後ろに車間距離を大きく取る。
- *坂道や上り傾斜のある道路で停止するとき* – 坂道や上り傾斜のある道路で停止するときは、余分に車間距離を取る。先行車が前進するときに、バックしてくることがある。

## 後方のスペース

後続のドライバーとの間に安全な車間距離を保つには、後続車が4秒以内より近づいている場合、車両が迫っているか否かにかかわらず後続車に気を付けます。さらに一定速度を保ち、方向転換の際には前もって合図します。

- *同乗者の乗り降ろしのための停止* – 他の車両から離れ、安全なところで停止する。
- *縦列駐車* – 縦列駐車の際に後続車がある場合、方向指示器を出してから、駐車したいスペースの横に一旦車を停め、後続の車両を先に通過させてから駐車する。

- *低速で運転するとき* – 他の車両を減速させるほど低速で運転しなければならないときは、安全を確認してから道路脇に寄り、他の車両があなたの車両を追い越せるようにする。場所によっては、待避所を設けた2車線の道路がある。また、追い越し車線を設けた2車線道路もある。
- *後続車にぴったりとつけられているとき* – 後続車があなたに接近しすぎているとき、右車線があればそちらに車線変更する。右車線がなければ、前方が空くまで待ってから徐々に減速する。こうすることで、あなたに接近しすぎているドライバーに、あなたを越えて走行するよう促すことができる。車間を取るように促すために、急な減速は決してしない。後ろから衝突される危険が高まる。

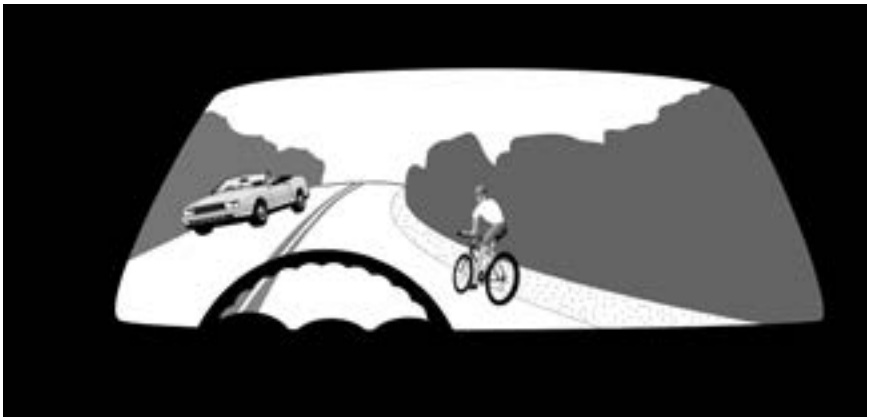
## 左右のスペース

方向転換や車線変更ができるよう、車両の左右にスペースを保つ必要があります。必要に応じて、速度や位置を調整できるよう準備しておきます。

- 複数車線の道路では、他の車両、特に大型トラックと並んで運転することは避ける。あなたとの車線ギリギリを走行したり、車線変更してあなたに接近する車両の場合がある。後続する他の車両より加速、減速するか、車線を変更する。視界をふさぐ車両により、リスクが生じる。自分の車両の一方の道路や交通状況が変化した場合、新しく生じる可能性のある危険やリスクにすばやく対処する必要があるかもしれないため、他方を確認する。
- 対向車との間にできるだけスペースを保つ。2車線の道路でセンターラインのギリギリのところを走行しない。通常は、車線の中央を走行するのが最も安全。
- 2車線以上の道路で進入してくる車両のために、スペースをあける。隣の車線に車両が走行していなければ、車線変更する。
- あなたの車両と駐車してある車両の間に十分なスペースを保つ。駐車してある車両から人が出てきたり、車両の間から人が出てきたり、また駐車してある車両が移動を始めることもある。
- ライトを点滅したり、サイレンを鳴らして停車しているレッカー車や牽引サービス車、救急車両または警察車両に近づく際は注意する。4車線以上あるハイウェイでは、2車線は一方向に進む車線とな

っており、安全に車線変更、または停止している車両から離れることができる場合はそのようにする。4車線未満のハイウェイでは、減速し、安全に左側から追い越せる場合はそのようにする。リスクを軽減するには、自分の車両の左右に一番スペースが開いている車線を選ぶ。

- 歩行者や自転車に乗った人、特に子供に対して十分にスペースを保つ。何の合図もなく、急に車道に飛び出してくることがある。歩行者や自転車に乗った人と同じ車線を走行してはならない。隣の車線に入って、安全に追い越せるまで待つ。
- 2つの危険な状況下で臨機応変に行動する。たとえば、対向車と駐車してある車両の間を走行している場合、その中間を走行する。一方の危険性がより高ければ、そちらの方に余分にスペースを取る。例えば、トラクタートレーラーが対向してきた場合は、その車両が通過する側に余分にスペースを取る。
- 可能であれば危険な状況を1つずつ回避する。たとえば、自転車を追い越そうとしている時、同時に対向車が接近していれば、減速して対向車が通過するまで待てば、自転車との間にスペースを取ることが可能である。



## 合流するときのスペース

他の走行車両と合流するときは、常に約4秒の距離が必要です。4秒の距離の中間に入ると、あなたと後続車の間の距離は2秒間になってしまいます。車線変更や、道路に進入する場合、または他の車両が走行する車線と合流する場合には、常に4秒の距離が必要です。

- 車間距離の狭いスペースに進入しようとしてはならない。すぐに狭い車間距離がさらに狭くなり、前方の車が停止したり、減速する必要がある場合、十分なスペースがなくなるため危険。
- 車線を横切る場合は、1車線ずつ横切る。階段を1段ずつ上がったり降りたりするのと同様に、1車線ずつ車線変更する方が安全で簡単である。
- 他の車両があなたの車線に合流しようとしている場合、その車両にスペースを与えるために、安全であれば他の車線に移る。

## 交差または進入時のスペース

道路を交差するとき、交差する交通の途切れが向こう側まで渡るために十分なければならなりません。道路に進入するときは、右左折を行なってから加速できるのに必要なスペースが必要です。

- 道路を交差するとき、交差する交通の途切れが向こう側まで渡るために十分なければならない。途中で停止しても安全なのは、車両が十分入れるぐらいの中央分離帯がある場合のみ。車両が一部でも車道に出るようであれば、分離帯で停止してはならない。
- 左折する場合、他の車両や自転車、または歩行者が、進入路をさえぎっていないことを確認する。他の車両があなたの車両に接近してくる車線で、進入路に他の車両や歩行者などの障害物がなくなるまで待つことは危険。
- 進行方向をさえぎる車両がある場合は、信号が青でも、交差点に進入してはならない。交差点の中で待っている間に、信号が赤になってしまうと、他の車両が通行できなくなる。交差点で車両の通行をさえぎると、違反切符を切られることがある。
- 他のドライバーがあなたとスペースを共用したり、あなたにスペースを譲ったりするものと思い込まない。たとえば、接近してくる車両の方向指示器が点滅しているからといって、それを当てにしてはならない。そのドライバーは、あなたの車両を通過してから方向転換するつもりか、あるいはすでに方向転換して、指示器を切るのを忘

れている可能性もある。自動二輪車の多くは方向指示器が自動的に切れないので、特に注意が必要である。他のドライバーが実際に方向転換し始めるまで待ち、それから行動をとる。

- 踏切を横切るときは、線路上で停止する必要がないことを確認する。

## 追い越しに必要なスペース

追い越し可能の標識や路上のマークがあるときは、常に安全に追い越しができるかどうか判断する必要があります。一度に数台の車両を追い越せる時間があると過信してはいけません。安全第一をこころがけてください。一般的な規則として、追い越しは1度に1台のみです。

- *対向車* – 時速55マイルでは、他の車両を追い越すには約10秒が必要である。つまり対向車と追い越しのできる視距離に10秒のギャップが必要となる。安全に追い越しのできるスペースがあるかどうかを判断しなければならない。2車線道路で他の車両を追い越すときは、あなたの車両と追い越した車両の間に十分なスペースがあることが確認できた時点で、道路の右側の車線に戻る必要がある。

時速55マイルでは10秒間に800フィートを超える距離を移動することになり、対向車も同様に移動しています。これは、安全に追い越しをするには、あなたには1600フィートを超える距離、またはおよそ1／3マイルが必要だということです。これほど距離があると、対向車の時速を判断するのは困難です。対向車が、実際の速度よりゆっくり接近しているように思えたりします。

遠くに見える車両は、概して、まるで静止しているかに見えるものです。事実、対向車が実際に接近しているのが見えたら、あなたにとっては近すぎて、もう追い越しはできません。確かでない場合は、対向車が通過し、十分スペースが取れるまで待ちます。

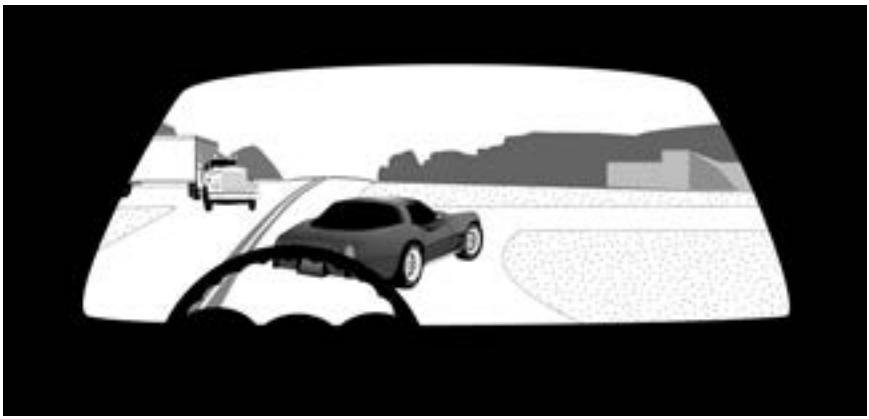
- *坂道*や*カーブ* – 前方の視界は距離にして最低1／3マイルもしくは時間にして約15秒が必要である。カーブや坂道で視界がさえぎられているときは常に、見えないところに対向車が車道を通行中であると仮定する。坂道やカーブまでの距離が1／3マイルない場合は、追い越しを開始してはならない。

- *交差点* – 進入または交差しそうな車両のある道路での、車両の追い越しは危険である。このような場所は、交差点、踏切、およびショッピングセンターの入り口などを含む。追い越しの最中は、あなた

が追い越している車両にさえぎられて歩行者や車両、電車がよく見えないことがある。あなたが追い越しに利用する車線へ右折進入しようとする車両のドライバーは、そこにあなたがくるとは思っていないばかりでなく、あなたの方を見ないで右折する可能性もある。

大型トラック、バス、およびトレーラーを牽引する車両は大きくスイングし、方向転換の際にセンターラインを横切らなければならないことがある。交差点ギリギリのところで停止したり、このような車両を、特に右側から追い越してはならない。

- *車線制限* – 追い越しを始める前に、路面の状態や、他の車両があなたの車線に進入してくるような交通状況に注意して、前方を見る。以下のような状況のために追い越しに必要なスペースを失う場合がある。
  - 歩行者または自転車に乗った人が道路や路肩のそばを通行している。
  - 幅の狭い橋またはその他の車線の幅が狭くなるような状況。
  - 路面に凍結した箇所、深い穴、あるいは障害物などがある場合。



- *元の車線に戻るためのスペース* – 走行車線に戻れるだけのスペースがない限り、追い越しをしてはならない。他のドライバーがあなたのためにスペースを空けてくれると仮定しない。
- *踏切* – 前方に踏切がある場合は、追い越しをしてはならない。

走行車線に戻るときは、あなたの車両と追い越した車両の間に十分スペースがあることを確認する。バックミラーで追い越した車両のヘッドライトが両方とも見えたら、走行車線に戻っても安全。

## 自転車とのスペース

道路上の自転車の安全は、車を運転している人と自転車に乗っている人の双方の責任です。自転車に乗っているすべての人にも、車を運転しているドライバーと同じ権利、義務、責任があります。交通法に従わない場合、ドライバーも自転車に乗っている人も、違反切符を切られることがあります。

*自転車と道路を共有するとき* – アメリカでは毎年、38,000人を越える人が自転車に乗っている時に負傷または死亡しています。ドライバーは道路上の安全のために自分たちの役割を果たす責任を理解することが不可欠です。他の道路利用者（歩行者または自転車利用者）に対して人身事故を犯したドライバーは、民事上および刑事上の刑罰を受ける可能性があります。

- 路上に横断歩道の印が記されているかどうかにかかわらず、あなたの走行道路から1車線以内で自転車が道路を横断している場合は停止する必要がある（通行権のセクションの図を参照）。
- 道路を横断するために歩道を横切る場合、ドライバーは歩道を走行中の自転車に道を譲らなければならない。歩道または横断歩道を走行中の自転車には、歩行者と同じ権利と義務がある。
- 自転車専用レーンは白い実線で記されている。ドライバーは自転車専用レーンを走行中の自転車に道を譲らなければならない。右左折する時、路地、私道、ドライブウェイへの出入りの時、または歩道の縁のそばに駐車するために自転車専用レーンを横切る時以外は、自転車専用レーンで運転してはならない。自転車専用レーンには決して駐車してはならない。
- 交差点では、ドライバーは他の車両に道を譲る時のように、自転車に乗っている人にも道を譲る必要がある。
- 自転車に追いつき、追い越すときには、車両と自転車の間に最低3フィートのスペースが必要である。
- 右側の路肩を歩いている歩行者または自転車専用レーンを走っている自転車を追い越す場合は、確実に接触しない距離を開けて、その左側から追い越す。自転車の安全が確認できるまで、道路の右側には戻らないようにする。

- 道路、路肩、または自転車専用レーンの幅や状態が危険な場合、反対方向から歩行者または自転車が来たら、道路の左側は走らないようにする。
- 歩道の縁に駐車する時は、ドアを開ける前に、車や自転車、歩行者がいないことを確認する。

ドライバーは自転車に適用される法律を理解し、車両を安全に運転する責任を負う必要があります。州法に加えて、以下の安全上のヒントは、ドライバーが自転車に乗っている人の怪我や衝突を防ぐのに役立ちます。

*自転車に注意する* – 交差点での進入や右左折の前には、交差点をさっと見て、必要であれば自転車に道を譲ります。車線変更、右左折、バックするときは、通常の視界以外もよく見て、自転車がいないかどうかを確認する必要があります。ドアを開ける前に、「オランダのリーチ」（駐車場の項目を参照）にもとづいて態勢を整え、後方を振り返るようにしてください。

*安全のために緩衝帯となる場所をつくる* - 自転車と車線を共有しないでください。自転車の後ろを運転するようにし、追い越しには安全な時期を見計らってください。同じ進行方向に複数のレーンがある場合は、レーンが利用可能で、レーンへの移動が適度に安全であれば、車両をすぐ左のレーンに移動させます。制限速度が高いほど、この通過スペースが重要になります。通過スペースを見積もる場合には、サイドミラーや積み荷、その他危険を考慮しなければならないものも車のサイズに含まれることを考慮してください。

*安全のために時間に余裕をもつ* - 見えない危険を避けるために、自転車が実際よりも速くまたは遅く移動していること、車線内の位置を変更する必要があるかもしれないことを認識します。時間に余裕をもつことで、安全性を判断する時間を費やせたり、人身事故を避けたりすることができます。

*通過する前に考える* - 右折しようとしている場合は、右折直前に自転車を追い越さないでください。減速し、自転車の前でハンドルを切るのではなく、自転車が交差点を渡ってから右折してください。自転車を追い越した後は注意してください。速度を弱めたり、すぐに止めたりしないでください。自動車のブレーキは自転車のブレーキよりも強力です。急に停止すると衝突の原因になります。

## 自転車に乗る人の責任

ワシントン州では、自転車は人の力でのみ動く人が乗る乗り物で、2個のタイヤが直列し、そのうちの1つが直径16インチ以上の乗り物もしくは直径20インチ以上のタイヤが1つでもある三輪車として定義されています。州の自転車法は、電動自転車に乗っている人にも適用されます。電動自転車は、ペダルで操作できる自転車として定義されていますが、自転車を時速20 マイル以下で走行できる電動機も含みます。自転車を運転する人は、道路の安全を確実にするための責任を各自担うことが大切になります。

- 自転車は、違法の標識がない限り、フリーウェイやハイウェイの路肩を使用することもできる。
- 自転車では、右左折する前にハンドシグナルを行う必要がある。
- 自転車はそれぞれ定められた同乗者数のみ同乗させることができる。
- 通常の交通の流れよりも遅いスピードで道路を走行する自転車は、安全のためできるだけ道路の右側を走行する必要がある。安全のためのレーンを位置付けることは乗り手の判断であり、自転車は法的に全レーンスペースを使用することがある。右左折の前や右左折をしている間、あるいは他の自転車や車両を追い越す時は、左へ移動すること。フリーウェイ以外の一方通行の道路では、自転車は、安全であれば道路のできるだけ左側近くを走行することが可能。
- 追い越しが安全でない2車線で運転している時、または5台以上の車が後ろに並んでいて、自動車を先に行かすのが安全だと判断した場合は、自転車は道路わきに移動し、停止しなければならない。
- 自転車はそれが合法な場合は、車道、道路の端、自転車専用レーン、または歩道を走行する選択ができる。自転車は歩道内や横断歩道内では歩行者に道を譲らなければならない。歩行者を追い越すときは、ベルを鳴らして知らせる。地元警察局は、歩道と同じ場所での自転車を禁止することがある。

- 自転車に乗っている人は、他の車両につかまったり、引っ張られたりしてはならない。
- 自転車専用道や専用レーンでは、自転車は複数の列で走行することができる。公道では、1列または2列で走行が可能。
- 自転車に乗っている人は、片手で常にハンドルを握っていることができない限り、荷物を運んではならない。
- 夜間に自転車に乗るときは、500フィート先から見える白い固定ヘッドライトと、600フィート後ろから見える赤いリフレクターを自転車に装備する必要がある。赤いリフレクターに加えて、点滅するテールライトや赤く点灯するテールライトも使用することができる。
- 自転車には、乾燥しており、平らできれいな車道でブレーキをかけたときに、タイヤが止まるようにブレーキが装備されている必要がある。

州法に加え、下記のことを実行することによって車を運転している人と自転車に乗っている人のけがや衝突事故を減らすことができます。

- *子供の指導* – 親は子供に交通安全および安全な自転車の乗り方を教える責任がある。また、子供は動いている車両の速度や距離が判断できなかったり、さらに危険感覚が欠けていることがある。いつも自分で確認することや自分たち自身の安全が何より大切であることを教える。常に自分の周囲に気をつけることを教える。
- *自分の自転車が安全であることを確かめる* – ペダル、座席、ハンドル、タイヤ、ブレーキは常に良い状態で、きちんと作動している必要がある。自転車はあなたに正しく合ったサイズであるべきである。あなたの自転車が自分に合っていて、安全かどうか自転車店で確認してもらうことができる。
- *すべての交通法に従う* – ほとんどの自転車と車の衝突事故は、交通法の違反が原因である。自転車に乗っている人は、交通法に従うことにより、ドライバーに対して、いつ、どの方向に行くか教えることができる。ドライバーは自転車に適応される法律を知る責任がある。
- *自転車用ヘルメットをかぶる* – CPSC、Snell、またはATSM認定のヘルメットは自転車に乗るすべての人に推奨されている。ワシントンの一部の都市および郡では、ヘルメットの着用を義務付ける地方条例がある。場所によってはこれは子供にのみ適用され、他の場所では大人にも適用される。ヘルメットは、頭にしっかりと合うようにかぶり、きちんと調節して使用しないと、その役目を果たさない。ヘルメットのひもをほどかずに脱げるようなら、調節が必要である。事故をした場合は、新しいヘルメットが必要となる。

- *目立つものを身につける* – 交差点の運転手と目を合わせる。照明付きヘルメットを着用している場合は、頭を動かすことにより、ドライバーの注意を引くことができる。ヘルメットと自転車には反射テープを貼り、膝や足首には蛍光色のテープをつけることで、夜間のドライバーの視界がさらに向上する。
- *自分の行動を他の人が推測しやすいように、そして守勢的に走行する* – 「駐車車線」を縫うようにジグザグに走ることは避ける。駐車している車のドアが開いて道が遮られないようにするために、駐車している車と自転車の間には3フィートのスペースを取る。
- *危険物がないか路上を目視する* – 濡れた路面、凍結した路面、薄暗い場所、排水溝、穴、線路、あなたが走行しているレーンに並行して走る歩道の亀裂に注意し、状況に合った速度で走行する。雨でぬれたり凍った道路状態では、ブレーキに必要な時間を余分に確保する。道路に進入する場合や道路を横断する場合は、常に歩行者や走行車両を優先する。
- *自分の行動に責任を持つ* – グループで自転車に乗っているときは、前の自転車に続くだけではなく、自分の行動に気をつける。
- *交通の流れに逆らわない* – 車を運転している人は、逆送している自転車がいるかどうか確認したり、そのような自転車がいると予測していない。
- *まっすぐ走る* – できるだけまっすぐに、交通の右側を走り、駐車中の車のそばでは、車のドアの幅の距離をあける。
- *右側から追い越さない* – 交差点では車の右側から追い越してはならない。右折する車のドライバーは、右側から追い越してくる自転車を確認しない可能性がある。
- *道路の脇から出てくる車に気をつける* – 自転車に乗っている人がドライバーの目を見ていても、ドライバーには自転車が見えていない場合があり、自転車の前に出てくる可能性がある。

- *右左折* – 左折する場合、自転車は左車線または左折用車線を使用する。または、右車線にいるまま道を横断し、右のコーナーで停止する。その後、青信号に変わった時、または他の自動車と一緒に新たな進行方向に進む。

- *背後の道路を目視する* – バックミラーを使っている場合でも、バランスをくずしたり、曲がったりせずに、肩越しに後ろを見れるように練習する。
- *両手はブレーキをかける準備をしておく* – 間に合うように停止するには、両手が必要である。雨の日や濡れた道では、停止に余分の距離を持つ。ブレーキは濡れていると、ちゃんとかからない場合があり、タイヤはより一層スリップしやすくなる。
- *犬に気をつける* – 回っている車輪や脚が犬を惹きつけるため、犬が自転車を追いかけ始めたら、無視するか、しっかりとした大きな声で、「NO!」と大声を出す。それでもまだ犬が止まらないようであれば、自転車から降りて、自転車をあなたと犬の間に置く。

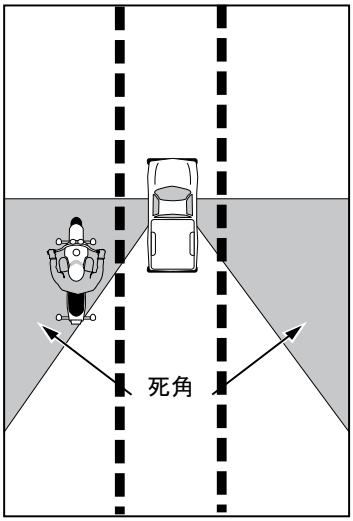
## 自動二輪車と道路を共有する

道路に自動車やトラック、自動二輪車、自転車、歩行者が混在している状況では、運転が複雑になり、全員に対する危険が増します。そうした危険を最小限に抑える鍵は、礼儀、他の人の権利を尊重すること、そして潜在的な問題に対する注意深さを持つことです。あなたが用心深く注意することで、他の人を重傷したり、死亡させてしまうようなことから守ることができます。

## 自動二輪車の責任

自動二輪車を運転する人は、ハイウェイを利用するその他の人と同じ権利と義務があり、同様の交通法に従う必要があります。

自動二輪車は自動車よりも小さいので、確認しづらいのです。すぐに自動車の死角で見えなくなります。自動二輪車までの距離や、速度を判断することは難しいため、自動二輪車の存在に気を付けて、十分に注意します。




自動二輪車の衝突事故のおよそ半分は、別の車両との接触事故になっています。衝突事故を防ぐためにも安全運転を実行することが重要になります。以下の状況では、自動二輪車が近くにある場合に特に注意が必要になります。

- *左折* – 接近してくる自動二輪車の前で左折する車両は、重大な自動車／自動二輪車の衝突事故の原因となる恐れがある。ドライバーは、自動二輪車が見えていない場合がある、もしくは、接近してくる自動二輪車の速度の判断ができない場合がある。ドライバーは、左右を確認したあと、もう一度左を確認する。必ず2回確認すること。左折する前に、自動二輪車の存在とその速度を確認する。
- *方向指示器* – ほとんどの自動二輪車では、方向指示器は自動的に消えないため、自動二輪車を運転する人が方向指示器を消し忘れている場合がある。方向指示器が点灯している自動二輪車の前で右左折する場合、自動二輪車も右左折しており、車線をまっすぐに進み続けてこないことを確認する。
- *車線* – 自動二輪車も、他のすべての車両と同様に車線の全幅を利用することができる。自動二輪車の運転が上手な人は車線内で常に位置を変更して、他の車両が確認できるように、また確認されやすいようにしたり、道路に落ちているものを避けている。車線が広くて、自動二輪車が車線の片方に寄っている場合でも、同じ車線で隣同士で運転してはならない。
- *悪天候* – 天気の状態と濡れた路面は自動二輪車にとって重大な問題となり得るため、雨が降っている場合や路面がすべりやすい場合は、車間距離を多めに取る。
- *路面* – 他の車両には影響しないでこぼこの路面や安定していない路面が、自動二輪車にとっては問題となる場合がある。砂利道、破片、車道の継ぎ目、小動物、深い穴、マンホールカバーなどによって自動二輪車は速度や車線の変更を強いられる場合がある。

- *視界* – 車線に出入りする前や、交差点では必ずミラーと死角を確認して自動二輪車の存在をチェックする。自動二輪車は車両の死角にいたり、またサイズが小さいため、素早い確認では見過ごされることがよくあるため、必ず方向指示器とブレーキライトを使って、右左折や車線変更、合流、減速、停止などの意思を伝える。こうすることで、自動二輪車は交通の流れを予想して、安全な車線にずれることができる。車両と自動二輪車の間には4秒以上の車間距離を取る。こうすることで、あなたと自動二輪車は緊急時に運転操作したり停止するための時間を十分に持つことができる。
- *追い越し* – 自動二輪車は同じ車線の歩行者や自転車を追い越す場合がある。自動二輪車は歩行者や自転車に接触しないように少なくとも3フィートの間隔をとった距離で左側から追い越し、追い越した歩行者や自転車がいないことを確認できるまで、右側には戻らない。

## 大型車両

大型トラックやバスと安全に道路を共有するためには、特別な制限を知っている必要があります。一般的には、車両が大きくなるほどに、

- 死角も大きくなる。
- 右左折や車線変更にも多くのスペースが必要になる。
- 停止にも長めの距離が必要になる。
- 追い越しにも長めの距離が必要になる。
- ほとんどの場合で、衝突事故のダメージが大きいのは自分の車両。

大型車両のそばを運転する場合は、以下の事項に特に注意する必要があります。

- *除雪車* – 除雪車に遭遇する場合は、特に注意が必要である。除雪車の刃は道路の雪をかき上げ、猛吹雪のような状態を作り出す可能性があり、すぐ後ろに後続しているドライバーの視界が悪化する。

- *死角* – 死角に入らないようにする。大型車両に後続している場合、大型車両のミラーが見えないようであれば、そのドライバーもあなたのことが見えていない。大型車両の死角は後方と両脇。

大型車両の横を長時間運転しないようにする。

- *視界* – 大型車両は、道路前方のあなたの視界を遮る場合がある。大型車両に後続する場合は、前方のほどんどが見えるように、車間距離を調節する。
- *加速と停止* – 大型車両は、小型車両のように素早く加速したり、停止することができない。たとえば、ブレーキが正しく調節された積荷を積んだトラックが、乾燥している道路を時速55マイルで走行している場合に完全に停止するまで450フィートが必要となる。大型車両が加速または停止できるように車間距離を余分にとる。大型車両のドライバーは安全な車間距離を保てるように、自分の車両と前方の車両との距離を調節する。大型車両を追い越す場合、車線に戻る際にはこの長めの車間距離が取れるようにする。
- *右左折時のスペース* – 大型車両が急に右左折する場合は、一車線以上のスペースが必要である。大型車両が安全に曲がれるように十分なスペースをあける。右折する場合、縁石に乗り上げたり、ものに当たらないようにするために、大型車両のドライバーは左車線に入りこむ場合がある。大型車両が右左折している際に、無理やり右側に入ろうとしない。大型車両との衝突事故の多くはこれが原因。
- *危険物* – 危険物を運搬している車両のそばを運転しないようにする。こうした車両には、運搬しているものが示されるプラカードがついている。危険物を運搬するすべての車両は、踏切で必ず一旦停止する必要があるので、後続している場合は停止する準備をする。
- *長くて急な坂* – 大型車両が急な坂を走行する場合は、低速で走行する。4車線ある道路では、右側の車線を走行。右車線では低速車両に遭遇する準備をし、減速／停止用ランプ（「Escape（非難）」または「Runaway（脱出）」ランプ）内やそばに停車しないでください。こうしたランプはブレーキが利かなくなった車両が停止するためにのみ使用する。

## 特殊な状況でのスペース

余分なスペースが必要な特定の車両や道路利用者がいます。以下にその例を挙げてあります。

*あなたの車両が見えない人* – あなたの車両が見えなければ、あなたに気づかずにその走行路に進入してくる可能性があります。あなたの車両が見えない人の例を挙げます。

- 建物、木、その他の車両で視界がさえぎられている交差点やドライブウェイにいるドライバー。
- バックしながら道路に進入してくるドライバー、バックしながら駐車スペースに入ったり出たりするドライバー。
- ウィンドウが雪や氷で覆われていたり、あるいは蒸気で視界が悪い車両のドライバー。
- 顔を覆うように傘をさしていたり、帽子を深くかぶっている歩行者。
- 交通の流れと同じ方向に歩いている歩行者。あなたの車両に対して、背を向けているので、あなたの車両が見えない。
- 他のドライバーが停止した通りを横断する、歩行者または自転車。
- 他の人の後ろを走る自転車。

*注意を怠っている人* – あなたの車両が見えていても、注意していないと思われる場合は、余分にスペースを空け、さらに注意を払います。以下のような人は、注意を怠っている可能性があります。

- 配達業者。
- 建設工事作業者。
- 子供。
- 自分の運転に注意を払っていないドライバー。
- 電子機器を使用している歩行者。

*判断に迷っている人* – 判断に迷っている人は危険です。判断に迷っている人へのあなたの応対が危険な状態の原因になるかもしれません。以下のような場合がそれに該当します。

- 旅行者など、どこに向かっているのかわかっていないような人。
- 特に理由もなく、減速しているドライバーや自動二輪車、自転車。彼らはあなたの車線の位置から見えないものを見ているかもしれないことを忘れないでください。

- 道路標識や家番号を探しているドライバーや自動二輪車、自転車。

*トラブルに巻き込まれているドライ"バ"ー* – 他のドライバーが、あなたを追い越す際にミスをした時、それ以上、事態を悪化させてはいけません。そのドライバーが安全に走行車線に戻れるように、減速します。他のドライバーが突然、車線を変更する必要がある場合は、減速して合流させます。このようなマナーで、交通の流れをなめらかに、かつ安全に維持することができます。

## 車道外での衝突を回避

44%近いすべての致命的な衝突事故は、車道を外れた車両が関係しています。車道外での衝突における致命傷または重傷の最も一般的な要因は、スピードの出しすぎ、薬物やアルコールの影響による運転能力の低下、不注意や注意散漫な運転、センターラインの横断、居眠り運転や疲労です。割合は低減しているものの、中で最も頻度の高い車道外での衝突の要因は、スピードの出しすぎと飲酒・薬物の影響による運転能力の低下です。

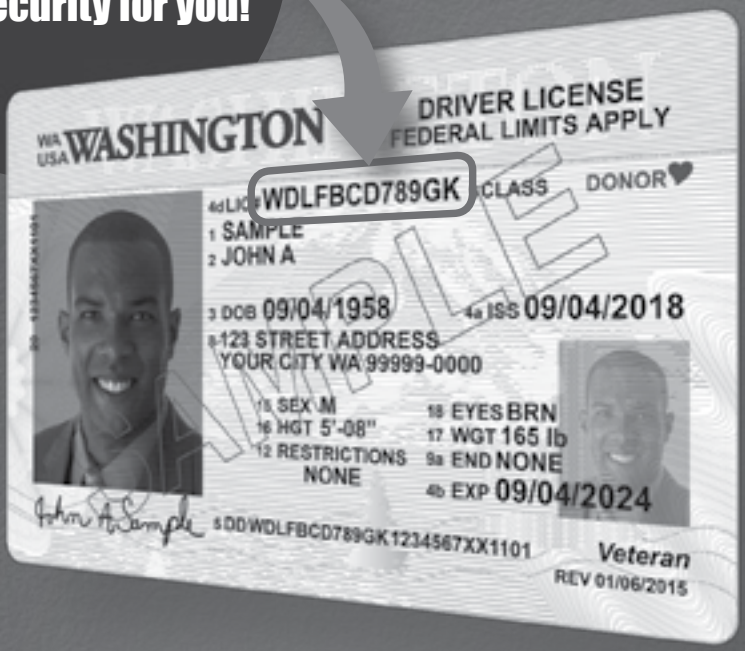
車道外での衝突による死亡の半分以上と重傷の半分足らずがスピードの出しすぎが原因であると報告されています。また、死亡の半分以上と重傷の一部が飲酒・薬物の影響による運転能力の低下がによるものです。飲酒・薬物の影響による運転能力の低下は、重傷につながる衝突は、毒物学で確認されている飲酒・薬物の影響による運転能力の低下による死亡事故に比べ、実際より少ない報告となっています。

車道外での衝突における90%以上の致命傷・重傷は、1台の車両のみに生じています。一旦、車両が車道を外れた際に最も一般的に発生する致命傷・重傷につながる衝突の例は以下のとおりです：

- 横転
- 木に衝突
- 溝に落ちる
- 電柱に衝突
- 土手に突入
- 土堤防、ガードレールに衝突
- フェンスや駐車中の車に衝突

制限速度を守り、注意散漫にならず、飲酒時や疲労時に運転しないことで、車道外での衝突事故を軽減することができます。

# New numbers mean better security for you!




**Starting September 2018, newly-issued Washington driver licenses and ID cards will have a new number.**

**It uses random letters and numbers rather than your name and birthdate to protect your personal information.**

**If you already have a license or ID, you will get a new number when you renew or replace it.**

dol.wa.gov

# 良好な健康状態で運転

安全運転をするのは、容易ではありません。実際に安全運転は、人々の行為の中でも、最も複雑なことの1つなのです。運転は、傷害や死亡の可能性のある日常行為の1つでもあります。ですから、安全運転をするドライバーになるための努力をする意味があります。

安全運転をするドライバーとなるには、優れた運転技能と判断が必要になります。これは、運転を習い始めたばかりの人にとっては難しいことでしょう。年齢に関係なく、初心者ドライバーにとって最初の6ヶ月間は、経験不足のために衝突事故に巻き込まれやすい期間です。

車両を安全に運転するには、ドライバーは知能と視覚能力、身体能力が必要です。あなたの能力がすべて良好でない場合、安全運転のできるドライバーではないかもしれません。

車間距離などのスペースを見極めたり、適切な動作を瞬時に判断するためには知能や視覚能力、その他の能力が必要になります。また、右左折やバック、車線変更、合流時に安全に判断するためには、首や上半身が柔軟であるなどの身体能力が重要になります。身体能力には、通常時や緊急時に車両を効果的にコントロールするのに必要となる健康な四肢とスタミナも含まれます。

安全なドライバーであることは、はっきりものが見えること、過労でないこと、薬物や酒類の影響下で運転しないこと、一般的に健康状態が良好で、感情面でも運転に適していることです。言い換えれば、安全運転のために良好な健康状態を保つことはあなたの責任になります。

## 視力

視力が良いことは、安全運転には必須です。あなたの運転は、あなたに何が見えるかに依存しています。もしよく見えなければ、交通の流れや路面の状態を識別すること、危険の可能性に気づくこと、タイムリーに反応したりすることが難しくなります。

視力は大変重要なため、運転免許証を取得する前に、視力検査に合格することが法律により義務づけられています。この検査で裸眼の視力が運転免許証取得基準に達していない場合、運転免許証には視力

矯正レンズ着用の制限が設けられることになります。眼科医に検査してもらい、視力検査のレポートを提出してもらう場合もあります。

視力について、その他の重要な点は以下の通りです。

- *側面の視野* – 目の隅で物を見ることが必要です。これは、前方を見ながら、あなたの車両の左右どちらかに、車両や危険性のあるものが見えることを指します。横にあるものを重点的に見るわけにはいかないので、必要に応じてサイドミラーを使用して、横をさっと見て確認します。
- *距離や速度を判断する* – よく目が見えても、距離や速度を正しく判断できない場合があります。あなただけではなく、多くの人にとってこれは簡単にできることではありません。この両方を正しく判断できるようになるには練習が必要です。これは、合流や2車線の道路で追い越しをする際に、他の車両との距離や安全なスペースを見極めたり、線路を安全に渡れるよう電車の速度を判断するうえで特に重要になります。
- *夜間の視力* – 夜間は、日中よりも目が見えにくくなります。中には、特に対向車のヘッドライトによるまぶしい光によって目が見えにくくなるドライバーもいます。夜間に目が見えにくい場合、夜間の運転は必要最低限にとどめ、運転の際は十分注意を払います。

よく目が見えることは、安全運転にとって大変重要であるため、1年あるいは2年毎に眼の専門家による視力検査を受ける必要があります。視力の低下は、検査を受けない限り分からない場合があります。

運転するのに視力矯正レンズが必要な場合は、以下の事柄をよく覚えておいてください。

- 運転するときは、家の周辺の通りであっても、必ず視力矯正レンズを着用します。運転免許証に視力矯正レンズの着用が必要であると記載されているにもかかわらず、着用せずに運転して警官に止められた場合は、違反切符を切られることがあります。
- 車内に予備の眼鏡を保管しておいてください。通常着用している眼鏡が壊れたり、紛失しても、この予備の眼鏡で安全に運転できます。常に眼鏡を着用していない人は、眼鏡を紛失する可能性があるので、備えておくと安心です。

- 夜間の暗い色の眼鏡や、色付きのコンタクトレンズの着用は、夜間にまぶしい光を見るのに役立つと思っても、着用を避けます。このようなレンズは、はっきりと見るために必要な光線まで遮断してしまいます。

## 聴力

聴力は、安全運転に非常に役立つことがあります。クラクション、サイレン、あるいはタイヤのきしむキーッという音で、危険に気づくことがあるからです。視力が悪くなるのと同様に、聴力もゆっくりと悪くなるので、聴力に問題があっても、気づかずにいる場合があります。聴覚障害や聴力に問題があると自覚しているドライバーは、安全運転できるように順応できます。このようなドライバーは、その他のドライバーよりも視力に頼り、注意を払う傾向にあります。調査によると、聴力障害のあるドライバーは、そのような障害のないドライバーと同じ程度に良い運転記録を残しています。

## 疲労

眠かったり、疲れているときの運転は、通常よりも目が見えにくく、注意も散漫になります。判断するまでいつも以上に時間がかかったり、さまざまな状況に反応する能力も大幅に遅くなります。また、イライラしやすく、容易に腹が立ったりします。疲れていると、居眠り運転の危険も高くなり、負傷や死亡など自分や他人を巻き込む大事故を招いてしまうおそれがあります。

長距離運転で疲れにくくするために、以下の事柄が役立ちます。

- 前夜はいつも通りの睡眠をとる。
- すでに疲労を感じていたら、出発しない。計画を立て、休息を取ってから出発する。
- 眠気を誘うような薬を服用しない。
- 軽食をとる。出発前にたくさん食べすぎない。たくさん食べた後に眠気を感じる人がいる場合があるため。
- 休憩を取る。1時間毎に、あるいは必要だと思ったら休憩する。歩き回ったり、新鮮な空気を吸い、コーヒー、炭酸飲料、水またはジュースを飲むなど。数分間の休憩が、あなたの生命を救う場合がある。安全に目的地に到着するよう十分な休憩時間込みで計画する。

- 通常は就寝中の夜間遅い時間は、運転しない。身体は睡眠をとる時間だと思い、眠るように仕向けるため、
- 眠いときは決して運転しない。自分や他人の命をリスクにさらすより、停止して数時間睡眠をとる。できれば、同乗している他のドライバーと運転を交代し、他の人が運転中に睡眠をとる

## 飲酒運転

アルコールは、死亡者の出た交通事故の約40%と関係があります。たとえ少量でも飲酒すると、衝突事故に関わる確率は、まったく飲酒しない場合に比べ、かなり高くなります。長年の運転経験があっても、飲酒して安全運転のできるドライバーはいません。

飲酒運転は大変危険なため、刑罰は大変厳しくなっています。飲酒運転をするドライバーは高額の罰金、保険掛け金の増額、運転免許証の没収、および刑務所行きになるリスクを負っています。

## 飲酒運転が大変危険な理由

アルコールは、安全運転に必要なすべての技能を低下させます。アルコールは中枢神経系を低下させる薬物です。抑制作用が働き、アルコールは脳や脊髄の活動を鈍らせます。飲酒すると、まず最初にストレスが軽減し、意思の制止が低下するアルコールの抑制作用を体験します。この感覚として、飲酒した人物がより活動的、冗舌、大声になることがしばしば観察され、普段の行動パターンとは異なることをしたり、話し始めたりします。十分なアルコールを摂取した場合、その結果、眠気、睡眠、意識消失、最終的には死亡に至るケースもあります。他の食品とは異なり、アルコールは消化される必要がないため、摂取したら通常20～40分ほどで胃壁や小腸壁から直接血流に吸収されます。胃に食べ物がある場合には、この吸収プロセスに時間がかかる場合もあります。

アルコールは抑制剤という薬物であり、以下の運転技能に影響を及ぼします：

- *判断力* – 意思を決定するプロセスが非常に遅くなり、過去の出来事や学習した知識を思い出す能力が低下し、判断を誤る恐れがあります。
- *視力* – 視力の機能が低下し、奥行きの知覚がゆがみ、瞳孔の反応が光に対し変わるため、さらに遅くなります。
- *集中力* – 運転に集中したり、車道、天候、交通状況に合わせることが困難になります。
- *理解力* – 周囲の状況を把握するレベルが衰えます。自分が何をしているか自覚していない恐れもあります。
- *感情（感覚）* – 感情が鎮圧され、スピード感がなくなるためスピードを出しすぎていても自覚がありません。
- *反応時間* – 調整能力が低下するため、反応し、アクセルからブレーキに足を移動するのに普段よりも時間がかかるようになります。反応時間が遅くなるということは、安全に到着できることとまったく到着できないほどの差が生じる可能性があります。

## 飲酒したら、運転できるのか

運転に関しては、アルコールに適量という概念は通用しません。飲酒したら、運転をしないというのが最良のアドバイスです。1杯のアルコールでも運転に影響が出ます。1杯以上のアルコールがあなたの体内で検出されると、酔っているとみなされ、逮捕されることがあります。

すべてのアルコール飲料に同量のアルコールの量が含まれているわけではありません。1杯のアルコール飲料のアルコール含有量は、含まれている酒の種類と量の両方によって異なります。ですからある種のアルコール飲料は別のアルコール飲料と比べアルコールを多く含んでいます。一部のアルコール飲料のアルコール含有量は、アルコール含有量2倍の数字、またはパーセンテージで示されるアルコール度が明記されています。標準的なアルコール1杯とは、濃度80%の蒸留酒1.5オンス（ショットグラス1杯）のストレートあるいはカクテル、またビール12オンス（通常サイズの缶、ボトル、マグまたはグラス）またはワイン5オンス（グラス1杯）を指します。特殊なドリンクではさらにアルコール分が高く、普通のドリンクの数杯分と同量のアルコールを含む場合があります。

極少量のアルコールが汗、呼気、尿で排泄されます。体は、肝臓での酸化（燃焼）を通じてほとんどのアルコールを処理します。酸化は一定の速度で行われ、この処理を遅くしたり、早めたりすることはできません。この処理はアルコールが燃焼するまで続きます。言い換えれば、「酔いをさます」には時間をかけるしかありません。体内で1杯のアルコール飲料を消化するには、およそ1時間かかります。

社交的な場での飲酒に対処する方法はいくつかあります。2人以上でパーティーなどに出席し、あらかじめ飲酒しない人を決めます。その中で交代して「指定ドライバー」になったり、公共輸送機関、タクシーや配車サービスを利用するか、徒歩で移動します。

アルコールを摂取することで、悲惨な結果をもたらす恐れがあります。すべての交通事故での死亡率の約40%が飲酒したドライバーによる衝突事故から発生しています。

## マリファナ（大麻）

マリファナの吸引によるリスクは、マリファナを注入した食品の摂取に関連するリスクとは異なります。いかなる種類の煙も吸引するということにおいては肺を痛めます。マリファナを注入した食品の摂取も影響が長く続くため、同様に危険です。さらに影響が表れるのが遅いため、多量に摂取しがちでもあります。

道路交通の逮捕と死亡データでは、運転人口においてアルコールの次に一番検出率の高い精神活性物質がマリファナであることが示されています。マリファナは運転操作能力に最高5時間影響を及ぼすことがわかっています。車のハンドルさばきの能力を低下し、反応時間が遅くなり、時間や距離に対する判断を鈍らせ、

マリファナは、特に単調で長時間にわたる運転に悪い影響を及ぼします。状況を把握し、適切な判断を行うまで時間がかかるようになります。アルコールとマリファナを一緒に摂取することで、どちらか一方の単品で摂取した以上に悪影響を及ぼす恐れがあります。

## その他の薬物

アルコールとマリファナ以外にも、安全に運転する能力に影響を及ぼす薬物はたくさん出回っており、アルコール同様またはそれ以上の悪影響を及ぼします。これは、処方箋の必要な医薬品や処方箋なしで入手できる薬品にも該当します。頭痛、風邪、花粉症やその他のアレルギーの薬、あるいは鎮静剤などを服用すると、眠気を催し、運転能力に影響を与えることがあります。覚醒剤、「Upper（覚醒作用のある薬物）」、エネルギードリンク、ダイエット用錠剤などを服用すると、短時間は敏捷になりますが、その後、神経質になる、めまいがする、集中できないなどの症状が出る上、視力にも影響する場合があります。その他の処方箋の必要な医薬品では、反射神経、判断力、視力、敏捷性に、アルコールと同様の影響を及ぼすおそれがあります。薬物の影響下で運転をしていて逮捕されたり、有罪判決を受けた場合の刑罰は、飲酒違反の刑罰と同じになります。

運転をする場合は、医薬品を服用する前に可能性のある後作用に関する注意書きをよく読んでください。その医薬品を服用して運転する安全性について不確かな場合、かかりつけの医師や薬剤師に尋ねます。

多くの薬物はアルコールの影響を何倍にも増加させたり、その他の副作用があります。飲酒と薬物の服用を同時にする前に医薬品の注意書きをよく読んだり、薬剤師に尋ねる必要があります。飲酒と薬物の同時服用は、安全運転に必要な能力が低下するだけでなく、健康を悪化させ、死に至ることもあります。

たとえば、マリファナの常習者は、他のドライバーと比較して、より頻繁に誤りを犯し、まぶしい光に対処することが困難であり、交通違反でより多く逮捕されています。

特定の咳止め薬、睡眠補助薬、高ヒスタミン剤などの市販薬がその効果のために乱用される場合があります。乱用とは通常、推奨されている用量より多く摂取したり、市販薬をアルコール、違法薬物、処方薬と一緒に摂取したりすることを意味します。使用する薬物にもよりますが、どの行為も危険を生じる恐れがあります。一部の薬物にはアスピリンやアセトアミノフェンが含有され、多く摂取することにより、肝臓に害を及ぼす可能性があります。「幻覚誘発剤」の特性を持つその他の薬物を摂取することで、精神錯乱、精神病、昏睡、果ては死亡に至る場合もあります。

薬物を摂取した後に運転することは、アルコールと同じぐらい致命的と言えます。薬物により、運転中に眠くなったり、適切に考えたり行動することができなくなる恐れがあります。薬物とアルコールを一緒に摂取することで、１＋１以上の複数の影響を及ぼすことを意味し、影響が悪化する原因となります。

## アルコール／薬物と法律

Driving under the influence（DUI、飲酒および麻薬の影響下の運転）は、アルコール、薬物、またはその両方の影響を受けている間に自動車を操作することを意味します。これには、合法・違法薬物の両方が含まれ、処方薬や市販薬も該当します。

飲酒運転や薬物の影響下での運転による交通事故による重傷や対物事故、医療費、労働時間の損失、死亡により、毎年ワシントン州に多大なコストがかかっています。このコストには、DUIの罪で告発されているドライバーや罪のない犠牲者の友人や家族の精神的被害は含まれていません。

飲酒および麻薬の影響下の運転は、逮捕される恐れがあります。Blood alcohol content（BAC、血中アルコール濃度）は、血液中のアルコール含有率で、呼気検査か血液検査で測定されます。

- DUIでのBACやTHC/マリファナレベルが法定制限を下回っていても、アルコールや薬物の影響下で運転していた場合、逮捕される場合があります。
- BACが0.08以上、またはTHC（テトラヒドロカン）／マリファナレベルが血液1ミリリットルに対して5.00ナノグラム以上の状態で運転すると逮捕されます。
- ドライバーが21歳未満の場合、BACが0.02以上、またはTHC／マリファナレベルが血液1ミリリットルに対して0.00ナノグラム以上で逮捕される場合があります。

薬物またはアルコールに関連する運転違反で逮捕された親／法定保護者／後見人の車両の中に13歳未満の子供がいた場合、警察官は逮捕後に速やかに児童保護サービスに通知しなければなりません。16歳以下の子供が同乗している場合、ドライバーはイグニッションインターロック装置の設置も要請されることになります。

薬物やアルコールの影響を受けて自転車に乗っていると、自転車は警察官によって搬送されたり、または管轄人に引き渡されることがあります。警察官には自転車に乗っていた人を搬送する義務はなく、公共安全への危険性の軽減を考慮し自転車の没収が必要であると判断した場合、そして没収に代わる他の合理的な措置がない場合は、自転車を没収することがあります。薬物やアルコールが切れた後、自転車を無料で受け取ることができます。30日間放置された自転車は売却または処分される可能性があります。

黙示的同意法は、車両を運転するにあたり、血液中のアルコールまたは薬物の含有量測定のため、呼気検査を受けることに同意していることを意味します。警察官あるいは交通巡査にBAC呼気検査を要請されたら、必ず検査を受けなければなりません。もしBAC呼気検査を拒否すると、最低1年間運転免許証を失うことになります。

さらに警察官は、捜索令状に従い、または緊急事態が発生した場合に令状要求の有効な免除が行えるよう、あるいはその他捜査当局下により、アルコール、マリファナ、またはその他の薬物を検査するために血液を入手することができます。

飲酒運転に対する刑罰は、まず逮捕となります。

- 7年以内において初めての逮捕で、21歳以上の場合、BACが0.08以上、またはTHC／マリファナレベルが血液1ミリリットルに対して5.00ナノグラム以上の場合は、運転免許証が90日間停止。21歳未満の場合、BACが0.02もしくは、THC／マリファナレベルが血液1ミリリットルに対して0.00ナノグラム以上の場合、運転免許証が90日間停止。イグニッションインターロック装置が装備された車両を運転できる制限付きの運転免許証が取得できる可能性がある。
- 初めての逮捕で、呼気検査を拒否した場合、免許は1年間取消し。
- 過去7年以内に1度以上逮捕されると、免許は2年間取消し。21歳未満の場合、免許は1年間もしくは21歳になるまでのどちらか長い方の期間、取消しとなる。

上記すべての場合において、刑罰が有効になる前に、Department of Licensing（免許交付事務局）で審問を要請することができます。

## 制限付き運転免許証

ワシントン州における運転免許証が現在停止または取消しとなっている場合、一時的な制限付き運転免許証の取得資格がある場合があります。制限付き運転免許証に申請すると、担当者があなたの運転記録を評価し、以下の運転免許証の種類のうち、取得資格があるものを決定します。

- *Ignition Interlock License（IIL、イグニッションインターロック装置付車両の運転免許証）* – 薬物やアルコール関連の違反で免許停止または免許取消しとなっている場合、イグニッションインターロック装置が装備された車両を運転することができます。
- *Occupational/Restricted Driver License（ORL、通勤／限定運転免許証）* – 勤務、通学、裁判所に命令されたサービス、ヘルスケアの継続、扶養サポートの継続、雇用プログラムのために運転することができます。

上記2種類の制限付き運転免許証は、1日のうちの特定の時間、特定の場所、特定の曜日、運転できる車両などが制限されています。申請書は各地域の免許交付事務所に提出でき、返金不可の手数料がかかります。要件や資格についてはウェブサイト（**www.dol.wa.gov**）をご覧ください。

アルコール／薬物関連の違反は一生涯運転記録に保存されます。運転できる状態ではないのに運転をしたと法廷で有罪判決が下された場合、最初の有罪判決では最高5,000ドルの罰金および裁判費用とその他の刑罰が科せられます。また、1～365日までの禁固刑を科され、運転免許証は90日～2年間停止あるいは取消しとなる場合があります。以前に飲酒違反で有罪となっている場合、150日間の自宅監禁や最高4年間運転免許証の停止あるいは取消しなどその他の刑罰が科されることがあります。

その他の刑罰には以下のようなものがあります。

- 保険の必須証明書（SR22の申請）
- 運転免許証再申請、筆記試験および路上試験、再交付手数料
- 車両の没収

- 最高10年間以上のイグニッションインターロック装置の使用また逮捕時に16歳未満の同乗者がいた場合、さらに6ヶ月間追加。無謀運転に罪が軽くなったDUIおよび／または第一級の不注意運転の有罪判決には、6ヶ月間のイグニッションインターロック装置の装備が必要になります。

「Open Container Law（開封アルコール容器持込取締法」により、以下のような行為は違反とみなされます。

- ハイウェイ上の自動車内でいかなるアルコール飲料を飲む、方法を問わずマリファナを吸引する。
- ハイウェイ上の自動車内で、アルコール飲料の入った容器を所持しており、その容器が開封されている、密閉容器の封が開けられている、または容器の中身が一部除去されている場合。
- アルコール飲料やマリファナの元の容器に不正なラベルを貼る、非アルコール飲料や非マリファナ薬物のラベルのある容器にアルコール飲料やマリファナを混入した、またはそのような容器を所持している場合。
- 車両所有者として登録してある者、あるいはドライバーがハイウェイ上の車内において、アルコール飲料やマリファナの入ったふたの開いた容器を所持している場合。ただし、その容器が通常、ドライバーや同乗者の乗っていない車内の場所に置いてある場合を除く。手の届く保管場所に、ふたの開いた容器を置いておくことはできません。

モーターホームやキャンピングカー内の生活空間では特定の例外が適用されます。

## 執行猶予下での免許証

アルコールの影響下で運転していたか物理的に車両をコントロールしていた場合、または有罪判決を受け、執行猶予となっている場合、執行猶予下での免許証の使用が5年間義務づけられます。通常の免許証交付料の他、執行猶予下での免許証には発行時と更新時に手数料がかかります。

## 執行猶予

DUIの判決を受け、アルコール中毒、薬物中毒、精神障害などがある場合には、執行猶予を受けられる場合もあります。この執行猶予プログラムは生涯に1回のみ使用できます。

資格がある場合、アルコール中毒、薬物中毒、精神障害の認定されたプログラムを終えるまで、DUIの有罪判決は延期されます。また、イグニッションインターロック装置の使用や損害賠償保険の証明書などの、認可局および法廷から出された条件を満たす必要があります。治療を終え、法廷から出されたすべての条件を満たせば、DUI罪は棄却されます。

## 青少年のアルコール／麻薬／銃器携帯違反

飲酒または銃器携帯違反で初回の有罪判決を受けた13～17歳の青少年、あるいは麻薬違反で初回の有罪判決を受けた13～20歳の青少年は、1年間または17歳に達するまでのどちらか長い方の期間中、運転免許が取消しになります。

2回目の違反では、2年間または18歳に達するまでのどちらか長い方の期間中、運転免許が取消しになります。

この免許取消期間中は、免許証／仮運転免許証の取得、あるいは運転教習の受講はできません。運転する権利を復権する資格が取れたときには、筆記試験と路上試験を受験する必要があります。通常の試験料と交付料の他、さらに再発行料を支払う必要があります。18歳未満の場合は、保護者の許可が必要になります。

## 健康状態

悪性の風邪、伝染病、ウィルス感染などの健康問題の多くは、運転に影響を及ぼすことがあります。肩こり、咳、あるいは脚の痛みなど、大した事のない症状でも運転に影響が出ることがあります。気分が良くないが出かける用事があるときは、誰か他の人に運転を頼むようにします。

症状によっては非常に危険な場合もあります。

- *てんかん* – てんかんは通常、治療を受けていれば危険ではありません。ワシントン州では、医師の治療を受け、薬を服用しており、6ヶ月間発作を起こしていなければ運転してもよいことになっています。
- *糖尿病* – インシュリンを摂取している糖尿病患者はインシュリン反応、一時的視覚喪失、けいれん、あるいはショックなどを起こす可能性がある場合は運転するべきではありません。このような症状は、食事や軽食を抜いたり、インシュリン摂取量を誤った時に起ります。医師が適切なインシュリン摂取量を調整している間は、他の人に運転を頼むことが望ましいでしょう。糖尿病患者は、夜盲症またはその他の視力異常が考えられますので、定期的に視力検査を受ける必要があります。
- *心臓疾患* – 心臓病にかかっている、高血圧である、循環器系に問題がある、あるいは一時的視覚喪失、失神、心臓発作などの危険がある人は、運転をするべきではありません。心臓病で医師の治療を受けている場合は、あなたの症状が運転能力に影響を及ぼすことがあるかどうか、医師に尋ねます。

## 感情

感情は安全運転に大きな影響を及ぼすことがあります。心配事がある、興奮している、おそれている、怒っている、あるいは落ち込んでいるなどの症状が過度であれば、安全に運転できない状態であるかもしれません。

- 怒っていたり、興奮しているようなときは、落ち着くまで待ちます。必要であれば、少し歩き回り、冷静になるまでは運転は控えます。
- 心配事がある、落ち込んでいる、あるいは何かに腹を立てているようなときは、運転に神経を集中させるようにします。ラジオを聴くことが役立つ人もいます。
- いらいらするようなときは、目的地までの運転に余分に時間をかけるようにします。数分早めに出発すれば、目的地までスピードを出さずに済み、スピード違反でつかまることも避けられます。また、事故に遭ったりする危険を低減することができます。

## 路上での怒り

交通渋滞やスケジュールに追われる毎日が一般的となっている今日、怒りを路上で発散し自身と他人を危険にさらしているドライバーがいます。

あなたの周囲のドライバーが、怒りに任せて行動や反応をしているようであれば、距離的にも精神的にも、その状況から離れるようにします。目を合わせてはいけません。体の動きやジェスチャーで、そのドライバーの怒りを買うことになるかもしれません。徐行する、道を譲る、あるいは他の方法で、危険な状況を安全に回避できるようにします。あなたの親切により他のドライバーも親切になるかもしれません。

他のドライバーに後を追われていたり、嫌がらせをされていると感じるときは、助けを求めます。ハイウェイでは、人や開店中の店舗のあるエリアのみで降りるようにします。携帯電話を所持している場合は警察を呼びます。

# 緊急事態

どんなドライバーでも、遅かれ早かれ、緊急事態に陥ることがあるでしょう。どんなに注意を払っていても、問題を引き起こす可能性のある事態は存在します。しかし、用意周到であれば、深刻な結果を避けることができるでしょう。運転中に、車両に問題が起こる可能性は常に存在します。車両の操作マニュアルで推奨されているメンテナンスのスケジュールに従う必要があります。予防策に従うことで、車両に問題が起こる確率が大幅に減少します。起こりやすい故障の例と、故障が起こったときに取る措置は以下のとおりです。

## ブレーキの故障

ブレーキが効かなくなったら、以下を実行します。

- ブレーキペダルを何度か踏みます。これで、ブレーキの圧力を十分ためることができ、停止できることがよくあります。
- うまくいかない場合はサイドブレーキを使います。後部のタイヤがロックして横すべりしないように、サイドブレーキはゆっくりとかけます。横すべりする場合にはすぐにブレーキを解除できるようにしておきます。
- それでもうまくいかない場合は、ギアを低速に変えて、安全に停止できる場所を探します。必ず車両が車道から離れるようにします。ブレーキなしの車両を運転してはいけません。

## タイヤのパンク

突然タイヤがパンクしたら、以下を実行します。

- ハンドルをしっかりと握り、車両をまっすぐ走行させます。
- 徐々に減速します。アクセルペダルから足を上げ、ブレーキを軽く踏みます。
- できる限り、車道で停止しないようにします。車道から離れた安全な場所まで車両を移動させます。

## 電気系の故障

運転中にエンストしたら、以下を実行します。

- ハンドルをしっかりと握ります。方向転換するのは困難かもしれませんが、力を入れると方向転換することができます。
- 道路脇に車両を寄せます。ブレーキはまだ効きますが、ブレーキペダルを強く踏み込む必要があるかもしれません。

## ヘッドライトの故障

突然ヘッドライトが消えたら、以下を実行します。

- ヘッドライトのスイッチを数回つけたり消したりします。
- これで点灯しない場合、非常用点滅ライト、方向指示器、またはフォグライト（装備されている場合）をつけます。
- できる限り早く道路脇に車両を寄せます。

## アクセルペダルが踏んだまま上がらない

この状態では、速度が上昇し続けます。

- 道路から目を離さないようにします。
- 速やかにギアをニュートラルに入れます。
- 安全であれば、道路脇に車両を寄せます。
- エンジンを切ります。

## 衝突を避ける

衝突が起こりそうなとき、多くのドライバーはパニックに陥り、どうしたらよいかわからなくなります。たいていの場合、衝突を避けたり、衝突のインパクトを減少させることができます。衝突を避けるためには、停止、方向転換、加速の3つのオプションがあります。

## 速やかに停止する

新型の車両の多くにはアンチロックブレーキシステム（ABS）が装備されています。ABSの使い方について、車両の操作マニュアルを必ず読んでください。ABS装置を使用すれば、横すべりすることなく停止できます。

*ABS装備の車両* – ABSが装備されており、速やかに停止する必要がある場合：

- できるだけ強くブレーキペダルを踏み続けます。
- ブレーキペダルから足を離さないでください。ABSが作動すると、ブレーキペダルが押し上がるのを感じます。ABS装置は、ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ作動しません。

*ABSが装備されていない車両* – ABSが*装備されておらず*、なおかつ速やかに停止する必要がある場合：

- ブレーキを強く踏みすぎると、横すべりを起こす可能性があります。
- ロックしない程度に、できるだけ強くブレーキを踏みます。
- ブレーキがロックされると、車両が横すべりするのがわかります。すぐにブレーキペダルから足を上げます。
- 横すべりが止まったらすぐに、もう一度ブレーキを踏みます。車両が停止するまで、これを繰り返します。

## 速やかに方向転換する

衝突を避けるためには、方向転換を考慮する必要があります。たいていの場合は、停止するよりも方向転換の方が速やかにできます。ハンドルをしっかり握っていることを確認します。方向転換や車線変更をした後も、車両をコントロールし続けられる準備ができていなければなりません。ある衝突事故を回避するために方向転換して、結果的に別の衝突事故に関わってしまうドライバーも少なくありません。常に車両を走行させたい方向にハンドルをきります。

*ABS装備の車両* – ABSが装備されている場合、横すべりせずにブレーキを踏みながら、方向転換することができます。これは、方向転換して、停止または減速しなければならない場合に、非常に役立ちます。

*ABSが装備されていない車両* – ABSが装備されていない場合、他の方法で速やかに方向転換する必要があります。ブレーキペダルを踏み、一度離してからハンドルを切ります。ブレーキを踏むと車両は速度を落とし、前輪により重量がかかるので、速やかに方向転換することができます。車輪が横すべりするので、ブレーキを踏んでいる最中に前輪をロックさせたり、急にハンドルを切ってはいけません。

ほとんどの場合、他の車両に正面衝突するよりも、車道からそれた方が安全です。

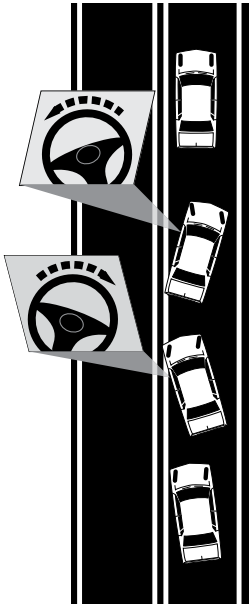
## 加速

衝突事故を避けるため、加速することが最善、あるいは必要なときがあります。これは、他の車両があなたの車両の側面あるいは後部に今にも衝突しそうなときで、危険を回避するため前方に十分スペースがある場合です。危険な状況を回避したら、忘れずに減速しなければなりません。

## 横すべりの対処

普通の状況下では安全な道路でも、路面が濡れたり、雪や氷で覆われているときには危険になります。また、普通の状況下においても高速で走行している際に急に方向転換したり、停止する場合は、横すべりを起こす危険性が増大します。横すべりは、タイヤと路面の摩擦がなくなったときに起こります。横すべりしている車両をコントロールするのは不可能なので、まず横すべりを避けるのが最善の方法です。状況に適さない、速い速度で運転しているドライバーが、よく横すべりを起こしています。

あなたの車両が横すべりをはじめたら、以下を実行します。



- *ブレーキから足を離す* – 車両の速度が落ちるまでブレーキは作動せず、踏み続けていると横すべりはさらにひどくなる場合があります。
- *ハンドル操作* – 車両を走行させたい方向にハンドルを切ります。車両の向きがまっすぐになったら、逆方向にハンドルを切ります。こうしないと、車両はその逆方向に回転し、新たに横すべりを始めてしまうかもしれません。
- *続くハンドル操作* – 車両のコントロールを回復して直進するまで、ハンドルを引き続き左右に切ります。

## 衝突時の自己防衛

衝突事故はいつも避けられるとは限りません。衝突されないよう最善を尽くしてもだめな場合は、衝突の際にできるだけ軽傷で済むようにします。最も重要なのは、ラップベルトとショルダーベルトを正しく着用することです。シートベルトの他、重傷を避けるための方法を以下に説明します。

- *後部追突* – 後部に追突されたら、あなたの身体は後ろ向きに打ち付けられます。座席の背に身体をぴったりとつけて、頭部をヘッドレストにもたせかけます。勢いで押されて他の車両に衝突しないよう、ブレーキを踏めるようにしておきます。
- *側面衝突* – 側面に衝突されたら、あなたの身体は衝突された方向に投げ出されます。この状況では、エアバッグは役に立ちません。ハンドルの前にとどまるには、ラップベルトとショルダーベルトが必要です。他の車両に衝突しないよう、ハンドルを切ったり、ブレーキを踏めるようにしておきます。
- *前部追突* – 今にも前部に衝突されそうなとき、正面衝突するのではなく、かする程度の衝突ですむようにします。これは、衝突が起きそうなとき、ハンドルを切ることを意味します。最悪の状況でも、かすった程度で済むか、あるいはまったく衝突しないで済むかもしれません。エアバッグが装備されていれば開きます。衝突の後しぼみますので、他の車両に衝突しないようにします。ハンドルの前にとどまるために、また、二次衝突の場合にあなたの身体を保護するため、ラップベルトとショルダーベルトを着用する必要があります。

## 衝突

あなたが衝突事故に関わっているか、緊急救助がまだ現場に到着していない場合以外は、衝突事故現場で停止してはいけません。自分の運転に注意しながら走行を続け、また車道内あるいは道路脇の人にも注意します。衝突事故現場、火災、あるいはその他の災害現場を見ようとして、その現場に向かってはいけません。警察、消防車、救急車、レッカー車、あるいはその他の救助車両の通行の邪魔になるおそれがあります。警察官、消防士、その他、事故現場で交通整理をすることが認められた人すべての指示に従う必要があります。消火用ホースの上を運転することは違反です。このようなことをすると、ホースを傷めたり、消防士に怪我をさせたり、消火の邪魔になります。

あなたがどんなに優れたドライバーでも、衝突事故に関わることがあるかもしれません。事故に関わったら、必ず停止する必要があります。駐車してある車両に衝突したら、その車両の所有者を見つける必要があります。負傷者や死亡者が出た場合は、警察に通報する必要があります。負傷者や死亡者が出た事故にあなたの車両が関わっており、警察があなたの報告を聞き、必要な情報を入手するまでは、衝突事故現場を離れることは犯罪とみなされます。

車両に基本的な非常用セットを用意しておくとよいでしょう。このようなセットには、緊急発火装置（フレア）、応急手当のセット、および基本的なツールが入っています。

## 衝突事故現場で

- すべての衝突事故において、損傷が車両やその他の所有物のみに限られる場合は、ドライバーは車両を道路、フリーウェイ、路肩、または中央分離帯から、出口ランプの路肩、側道、交差道路、またはその他停車に適した場所にできるだけ早く移動させます。
- その他すべての衝突事故では、衝突事故現場、またはそのそばに車両を停止させます。車両を移動できる場合、他の車両の通行を妨げたり、新たに衝突事故が起きないように、道路脇へ寄せます。
- 車両が走行中の車線内で、立ったり歩いたりしてはいけません。他の車両に追突されるおそれがあります。
- 事故車のエンジンを切ります。事故車の周囲でたばこを吸ってはいけません。ガソリンが漏れているおそれがあり、火気は非常に危険です。

- 路上に電線の付いた電柱が倒れている場合は、近づいてはいけません。
- 走行中の車両がその事故に巻き込まれないように注意してください。緊急発火装置または警告用機器を使って、他の車両に衝突事故の発生を合図し、注意を促します。

## 負傷者が出たら

- 救助を求めます。警察および緊急医療／救助隊が通報を受けたことを確認します。火災が発生していたら、警察にその旨を伝えます。
- 負傷者が燃えている車両の中にいるか、または即座に他の車両に追突されたりする危険性がある場合以外は、負傷者を動かしてはいけません。動かすと、傷害を悪化させるおそれがあります。
- まず、立ち上がったり話をしていない人を救助します。呼吸しているかを調べ、それから出血の有無を調べます。
- 出血していたら、傷口を直接、手あるいは布で圧迫します。傷口に圧力を加えると、重傷でも止血、または出血量を減らすことができます。
- 負傷者にはたとえ水でも、飲料を与えてはいけません。
- 負傷者がショック状態に陥ることを防ぐため、毛布またはコートで体を覆って温めます。

## 衝突事故の報告

- 負傷者を含む衝突事故に関わった人および目撃者全員の氏名と住所を入手します。
- 衝突事故に関わった他のドライバー、自動二輪車運転手、自転車運転手、または歩行者と、氏名、住所、運転免許証番号、車両の情報（ナンバープレート、メーカー、モデル、製造年）、保険会社と保険証番号（ある場合）の情報を交換します。
- 衝突によって車両が受けたすべての損害を記録します。
- 要請がある場合、警察あるいは緊急担当員に情報を提供します。

- 駐車してある車両に衝突した場合は、その所有者を見つけます。所有者が見つからないときは、見つけやすい場所に、あなたの連絡先および事故発生の月日と時間を記したメモを残しておきます。
- 負傷者または死亡者が出た場合、または一個人の所有物に1000ドル以上の損害が出た場合で、警察官が事故証明を作成しなかった場合は、4日以内に衝突事故報告書を提出する必要があります。報告書は、**www.wsp.wa.gov/driver/collision-records/** から入手するか、電話（360-570-2355）で請求することができます。

## Emergency Notification System（ENS）

すべての鉄道交差点には、交差点、路線、または列車の移動に関して発生した問題を報告するために鉄道に連絡する緊急発信番号があります。

ENS番号は、一般的に鉄道横断柱の青い看板または線路近くの金属製のコントロールボックスにあります。この標識には、鉄道の交差点の物理的な位置を特定するUSDOT番号も含まれており、その番号で緊急乗組員や鉄道従業員が対応することができます。

USDOT番号を提供することにより、ディスパッチャは鉄道交差点がどこにあるかを正確に知り、その方向に移動する列車に停止を指示するか、または速度制限をかけることができます。

# 車両認可

## 登録

ワシントン州居住者で、車両を所有し、公道を運転する場合、DOLに車両を登録する必要があります。新しく居住者となった人は、居住者となってから30日以内に車両登録する必要があります。

ワシントン州の居住者であり、他州で購入した車両をワシントン州内の公道で運転する場合は、速やかに車両登録する必要があります。

Clark郡、King郡、Pierce郡、Snohomish郡、およびSpokane郡の一部の地域において、製造後5年から25年経ったほとんどの車両は、2年ごとの排気ガス検査に合格する必要があります（他州で合格していた場合も含める）。排気ガス検査ならびに排気ガス検査所に関する情報は**www.emissiontestwa.com**をご覧ください。King郡とSnohomish郡における排気ガスの情報は、1-800-272-3780まで電話で問い合わせることができます。
***注意：****ワシントン州での排気ガス検査は、2020年1月1日より必要なくなります。*

## 持参するもの

車両の所有権証明および登録を行うには、次の書類を車両認可事務所まで持参します。

- 現在有効な車両所有者証明書（権利証書）と登録書。所有者証明書を紛失した場合は、State of Issuance（州発行事務所）に再発行を申請しなければなりません。所有者証明書が他州で発行されたもので、担保権所有者が証明書を保持している場合、ワシントン州で登録を行うためには現在の所有者証明書の写しを持参する必要があります。
- 登録済みの所有者全員の身分証明書。
- 製造後10年未満の車両については、走行距離を保証走行距離記録用紙に記入したもの。
- 以前の所有者証明書または登録書に記載のない場合、トラック、トレーラー（旅行用を除く）、およびプロパン駆動の車両の重量表。

- 現金、個人用小切手、銀行小切手、為替、または特定のクレジットカード／デビットカード（American Express、Discoverクレジットカート、VISAおよびMasterCardクレジットカード、デビットカード）で支払できます。

車両を登録する場合、登録済みのすべての車両所有者は以下に該当しない限り、有効な運転免許証を提示する必要があります。

- 公道で自動車を運転しないワシントン州の居住者である場合。
- 運転免許が紛失、盗難、没収、停止、または取り消されている場合。
- 以下に該当する免許所有者である場合。
  - 地域外、州外、または国外にいる。
  - 投獄されている。
  - 離婚訴訟で車を与えられなかった。
  - 死亡している。
- 運転免許条件から除外されている。これには以下の人が該当します。
  - 現役軍人。
  - 16歳以上で、居住する州または国で交付された有効な運転免許証を所持する非居住者。
  - 特別なハイウェイ建設機器、農業用トラクター、またはレールの上を走る機関車を運転する人。

## 車両所有者証明書（権利証書）

車両所有者証明書（権利証書）は、モペット、モービルホーム、キャンピングカー、トレーラー、特定の電気車両、およびオフロード車両を含む車両に対して発行されます。ワシントン州ではスノーモービルに対する所有者証明書は発行されませんが、毎年の登録が義務付けられています。

権利証書には登録された法的所有者が記載されます。車内以外の安全な場所に保管してください。

所有権を譲渡する場合、所有者全員が権利証書に署名と日付を記入し、購入者に渡します。購入者は、罰金を避けるため、15日以内に所有権を譲渡する必要があります。ディーラーから車両を購入した場合、所有権の譲渡手続きはディーラーの責任になります。

## 売却の報告

車両を個人またはディーラーに売却あるいはトレードした場合、所有者は5日以内にその旨を報告する必要があります。Report of Sale（売却報告書）は、新しい車両所有者証明書の上の部分に該当します。または、ワシントン州の車両認可事務所、あるいはDOLのウェブサイトから入手できます。

売却報告書をワシントン州の車両認可事務所に持参し、小額の手数料を支払ってその場で手続きを完了するか、ウェブサイト**www.dol.wa.gov**からオンラインで届け出ることができます。車両の売却、トレード、贈与、または処分から5日以内に、正しく記入した売却報告書を提出してください。こうしておくと、新しい所有者が権利証書を移行しなかった場合の特定の民事責任を回避することができます。

## ナンバープレート

ナンバープレートは、ワシントン州に登録されている車両の前後両方に取り付ける必要があります。ナンバープレートの年月の更新ステッカーは後部プレートのみに貼ります。

*パーソナライズされたライセンスプレート* - パーソナライズされたナンバープレートの申し込みを提出する前に、当社のウェブサイト**www.dol.wa.gov**にアクセスして、希望のプレートがあるかどうか確認してください。

*スペシャルライセンスプレート* - スポーツチーム、大学名、軍隊、およびその他スペシャル分野をモチーフとした様々なナンバープレートを取り揃えています。最新デザインは、**www.dol.wa.gov/vehicleregistration/specialdesign.html**を参照してください。

*障害者駐車優先権* – 歩行に制限を伴う、または歩行能力を損なう身体的障害がある場合、期限付きもしくは無期限の障害者駐車優先権および身分証明書を入手することができます。申し込みは、車両認可事務所、免許交付事務所、またはDOLのウェブサイト**www.dol.wa.gov**で障害者駐車優先権申し込み用紙（Disabled Person's Parking Privileges Application form）を入手し、医師の協力を得て記入してください。ほとんどの車両認可事務所で手続きができます。

# Safe. Secure. Convenient.

Sign up for LicenseExpress at **www.dol.wa.gov** to manage your vehicle renewals, boat registration, drivers license, change of address and much more!

## Skip a trip.

Go online at
**www.dol.wa.gov**

WASHINGTON STATE DEPARTMENT OF LICENSING

License express

## 規制標識

最高速度
（時速55マイル）

前方優先

転回禁止

一時停止

車両進入禁止

追越し禁止

進入不可

右側通行
（追越しを除く）

低速車両は
右側通行

障害者用
駐車区画

右折禁止

通学路：
児童がいる場合
制限速度時速
20マイル

## 工事の標識

迂回方向

交通誘導あり

## サービス標識

病院

電話

## 案内標識

方面及び距離

出口専用／任意出口

# 16歳～25歳ではじめて運転免許証を取得する方へ

16歳から25歳の若年層の死亡原因のトップは自動車事故によるものです。ワシントン州の道路で **毎年**100人以上の若者が命を落としています。

***統計による懸念：***

- 16歳から25歳のドライバーは他の年齢層と比べて、衝突率、スピード違反率、飲酒運転、携帯電話を使いながら運転する率が最も高い。
- 致命的な男性ドライバーの衝突事故の発生率は、女性ドライバーのおよそ3倍。
- 致命的な衝突事故に巻き込まれた16歳から17歳の女性ドライバーは男性ドライバーの2倍以上の割合で、運転中に携帯電話を使用していた。

***このような憂慮すべき統計を覆すために、以下を実践して自分の責任を果たしましょう。***

- 減速する
- 常にしらふの状態で運転する
- 運転中にメール／テキストをしない

**詳細は次のウェブサイトをご覧ください：**
**www.dol.wa.gov/driverslicense/teens.html**

TARGET ZERO

WASHINGTON STATE DEPARTMENT OF LICENSING

2000-520-398 (R/1/19)WA